

# 目次

## 巻頭グラフ

I	開発教育指導者研修（実践編）の概要	1
1	• 目的	
1	• 内容	
II	開発教育指導者研修（実践編）第1回	3
3	• 開催概要、第1回のねらい	
3	• プログラムの内容	
III	開発教育指導者研修（実践編）第2回	12
12	• 開催概要、第2回のねらい	
12	• プログラムの内容	
IV	開発教育指導者研修（実践編）第3回	21
21	• 開催概要、第3回のねらい	
21	• プログラムの内容	
V	中間会合	31
31	• 開催概要、ねらい	
31	• プログラムの内容	
VI	実践報告シート	33
33	• 実践報告シート一覧	
34	• 実践報告シート	
VII	開発教育指導者研修（実践編）第4回	70
70	• 開催概要、第4回のねらい	
70	• プログラムの内容	
VIII	開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2023	74
74	• 開催概要、ねらい	
74	• プログラムの内容	
76	• 実践体験ワークショップの内容	
82	• ふりかえりシート	
IX	研修全体のふりかえり・評価	84
84	• 研修の期待と満足度について	
84	• 研修を受けた自分自身の意識の変化について	
85	• 開発教育・国際理解教育の実践について	
88	• 学習者の変化や周りへの波及効果について	
90	• 全体を通じた評価点、より良くするための提案	

- MEMO -

## 研修の様子～第1回 開発教育指導者研修(実践編) <6月>



▲全体アイスブレイキング「参加者アンケート+参加者分析」



▲「どこか懐かしいもの」、「人と社会に役立つもの」の発表



▲「地球家族」と豊かさフォトランゲージ



▲ナンバーバル・トランプゲーム「バーンガ」

## 研修の様子～第2回 開発教育指導者研修(実践編) <7月>



▲わたしの大切なモノでモノローグーアイスブレイキング



▲とりかえっこ名刺交換会



▲わたし・あなた・みんなに関わる力を育むために必要なこと



▲持続可能な環境のための4つのポイントに対して、いまの問題



## 研修の様子～第3回 開発教育指導者研修(実践編) <8月>



▲SDGsゴールを仲間分け



▲子どもたちを取り巻く問題・その国が抱える問題とSDGs



▲参加型プログラムを作ろう～ねらいの共有



▲プログラム発表、ファシリテーション実践

## 研修の様子～第4回 開発教育指導者研修(実践編)/実践報告フォーラム2023 <2月>



▲第4回研修:受講者実践の共有



▲実践を通じた成果・よい影響(自分/学習者/周囲)



▲実践報告フォーラム:実践報告ポスターセッション



▲実践報告フォーラム:実践体験ワークショップ



# I 開発教育指導者研修(実践編)の概要

## ■ 目的

本研修は、持続可能な未来を築くために、人権・環境・共生といった人類共通の課題を理解し、自ら考え、行動する主体を育む場と方法を提供することができる、持続的かつ効果的な開発教育・国際理解教育を実践する中核的な指導者の育成をめざす。また、指導者同士の連携が強化され、ネットワークが形成されることにより、地域における開発教育・国際理解教育が充実することを期待している。

## ■ 内容

### (1) 研修のねらい

4回の研修と実践報告フォーラムを通して、受講者自らが体験的に開発教育・国際理解教育の学び方を学び、この教育の目的、扱う内容、参加型手法についての理解を深め、実践者としてのスキルアップを図る。

### (2) 研修日程・内容

回	日時	内容
第1回	6月18日(土) 13:00~17:00 6月19日(日) 10:00~15:00	<b>開発教育・国際理解教育の概論</b> <b>何を学ぶのか・何のために学ぶのか・どう学ぶのか</b> ・当該教育の目的・内容・方法を体験的に学ぶ。 ・社会の現状を把握し、未来へのビジョンと教育の使命を考える。
第2回	7月16日(土) 13:00~17:00 7月17日(日) 10:00~15:00	<b>テーマについて学ぶ・テーマのために学ぶ</b> <b>気づきを行動につなぐ“参加型”</b> ・人権・環境の視点から社会をふりかえり、問題の背景を探る。 ・学習者の行動変容を支える参加型と関わる力の育成について考える。
第3回	8月27日(土) 13:00~17:00 8月28日(日) 10:00~17:00	<b>学習者主体の場をデザインする</b> <b>参加型プログラムの作り方を学ぶ</b> ・気づきを行動につなぐ参加型のプログラムの作り方を学ぶ。 ・各自設定したテーマのプログラム作りを通して実践力を付ける。
<b>9月~2月：各自、学校の授業などで実践!</b> 11月26日(土)、1月21日(土) 13:00~17:00 実践のフォローアップ会(自由参加)、 フォーラムでのワークショップ提供チームの検討会(有志)		
第4回	2月25日(土) 10:00~18:00	<b>ここからはじまる持続可能な未来!</b> <b>ひろがりつながる開発教育の可能性!</b> ・実践の成果と課題を共有し、開発教育の可能性を確認する。 (教師国内研修受講者全員と合同)
実践報告 フォーラム	2月26日(日) 10:00~16:30	・実践内容を一般の参加者に報告し、過年度受講者と交流し、 学びの好循環をつくる。

(3) 場 所 JICA 中部 なごや地球ひろば2階セミナールーム

(4) 対 象

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教師、教育委員会の指導主事、地域国際化協会職員、NGO/NPO スタッフ、JICA 海外協力隊経験者などで、開発教育・国際理解教育を実践する場があり現在実践されている方

(5) 参加条件

- ① 原則、全研修日程に参加可能な方
- ② 所属校や地域において実践を行い、実践報告シート(A4版1枚)を2月中旬までに提出すること、実践報告フォーラムで発表すること、報告書冊子や JICA ウェブサイト等で学校名、氏名とともに公開されることに同意できる方
- ③ 本研修に関わる連絡・情報共有のため、Eメールアドレスでの連絡が可能な方

(6) ファシリテーター

(特活)NIED・国際理解教育センター 代表 伊沢令子

ERIC 国際理解教育センターでの研修を経て、1998年に名古屋で NIED・国際理解教育センターを設立。現在は、自治体、教育委員会、国際関係団体、大学・学校、NPO/NGO などの依頼により、年間 100 回以上の参加型ワークショップを実施している。当該研修は 10 年以上ファシリテーターを務めている。

- ◇ NPO 法人 NIED・国際理解教育センター 代表理事
- ◇ オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習コーディネーター
- ◇ 中京大学「国際理解教育論」、愛知学院大学「ファシリテーション」非常勤講師

(7) 受講者数

35 名 所属内訳…小学校教員 11 名、中学校教員 6 名、高等学校教員 13 名、NPO 職員 3 名、  
JICA 関係者 2 名

地域内訳…愛知県 27 名、岐阜県 3 名、三重県 4 名、静岡県 1 名

うち過年度受講経験者…8 名、うち途中辞退者…2 名

※第 4 回研修、実践報告フォーラムには、教師国内研修のみ受講していた 3 名が加わった。



# II 開発教育指導者研修(実践編) 第1回

## ■ 開催概要

- ◆ 日時:2022年6月18日(土)13:00~17:15、19日(日)10:00~15:17
- ◆ 場所: JICA 中部なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数:
  - [1日目] 一般受講者29名、NIEDスタッフ5名、JICAスタッフ1名 合計35名
  - [2日目] 一般受講者31名、NIEDスタッフ6名、JICAスタッフ1名 合計38名
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

## ■ 第1回のねらい

- ① 4回の研修とフォーラムを通して、受講者自らが開発教育の学び方・進め方を体験的に学びます。
- ② 開発教育の目的、扱う内容、参加型手法の理解を深め、実践者としてスキルアップを図ります。
- ③ 開発教育の中核的指導者として、この教育を広げつなぐための具体的手立てを見いだします。

## ■ プログラムの内容

### ● セッションI「共通基盤づくり」 6/18 13:00-15:56

#### 1. 主催者挨拶／本研修の目的および趣旨説明／スタッフの紹介 13:00-[15]

- ◇ JICA 中部 江口職員が、開会を宣言し、主催者として研修を通じて受講者に期待することを伝えた。
- ◇ JICA 中部スタッフ、NIED スタッフが挨拶を行った。

#### 2. 本研修のポイントと第1回のねらいの確認 13:15-[10]

- ◇ ファシリテーターが、研修の本旨である開発教育・国際理解教育の概念、参加型での進め方、第1回のねらいについて、レジュメを基に説明した。



#### 3. 全体アイスブレイキング 13:25-[64]

- ◇ 各自、研修を通して使用する名札を作った。
- ◇ 受講者同士が知り合うことを目的に、次の3つのアイスブレイキングを行った。
  - ①名刺で自己紹介
    - ・4つのお題で自分を紹介するキーワードを書き出す。
      - i 自分のウリや強み、ii 最近の関心事やハマっていること、iii 開発教育と言えば 3つ、iv 研修参加の理由と期待すること
  - ②仲間探し~4つのコーナー
    - ・ファシリテーターが出すお題に対して、同じ答えの人を探してグループになる。
      - i 県、ii 所属、iii 現職歴何年か
    - ・会場に4つのコーナーを作り、ファシリテーターが出す質問に対して、当てはまるところに移動する。
      - i 好きな麺類(パスタ、うどん、そば、ラーメン)、ii JICA 事業への参加・活用経験

③参加者アンケート+参加者分析

- ・番号を振ってグループ替えをし、グループ毎に担当を決め、「名刺で自己紹介」のお題の答えをできるだけたくさん集める。
- ・グループに戻り、集めてきた答えを共有し、担当したお題について「データから分かること、言えること」を3つの文章にまとめる。
- ・分析結果を全体で共有する。

◇ ファシリテーターから、参加型ワークショップの3つの前提を伝えた。

<参加型の3つの前提>

協力…協力なしでは参加型は進まない。1人ひとりの積極的な参加が大切。  
 尊重…開発教育・国際理解教育に関心のある人が集まっているが、価値観は多様。異なる考えを尊重しよう。  
 守秘…安心して自己開示ができるように、この場で語られた個人的なことはこの場だけで留めておこう。

◇ NIED スタッフが、受講者名簿を参考に、研修参加者の傾向について説明した。

- ・例年に比べ、高校の先生が多く、小学校が少ない
- ・例年参加がなかった岐阜からの参加者がいる
- ・69%が20-30代
- ・過年度受講者リピーターが8名 など

◇ ファシリテーターコメント...対等な立場で関わるのが参加型学習の大切なポイント。1人ひとりがもつ経験や知識から、一緒に新たなものを生み出していくのがワークショップの場であり、対等な立場で関わることで誰も排除されない安心できる場を創ることができ、豊かな学び合いにつながる。

【 参加者アンケート+参加者分析「データから分かること、言えること」の成果例 】

**自分のウリや強み**

- ・明るく元気で粘り強い人が多い
- ・経験豊富でコミュ力がある人が多い
- ・チャレンジ精神があってポジティブな人が多い
- ・好奇心を背景に、体が資本・人とのつながり・行動力、実践力

**最近の関心事やハマっていること**

- ・体を動かすこと
- ・職につながる
- ・1人で出来ること
- ・私は、心と体を健やかに世界のことも考えて、行動する五感が豊かなスポーツマンです。お金も大好きです。

**開発教育と言えば**

- ・SDGsに関連している
- ・手法を学び実践し、行動する
- ・多くの人々と連携する
- ・行動しよう！
- ・海外／異文化 知ろう！
- ・協力しよう！

**研修参加の理由と期待すること**

- ・海外と繋がる参加型プログラムを作りたい！
- ・仲間をつくりたい
- ・新しい世界でわくわくスキルアップ
- ・参加型プログラムとは？を知る
- ・仕事、授業などに生かす
- ・自分自身の成長、変容を期待

4. 参加と対話、発散と収束で創る学びの場！ 14:29-[87]

◇ グループで「すごろく自己紹介」をして、互いに知り合った。

◇ ファシリテーターが、開発教育・国際理解教育の目的と育てたい3つの力をレクチャーした。

<開発教育・国際理解教育の目的>

人権、環境、平和など、人類共通の課題は何かを理解し、課題を解決しながら、持続可能なよりよい未来を築くために必要な知識と力を育む。

<開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力>

- ①わたし=自己に関わる力…自己理解、自己肯定感、自己尊重
- ②あなた=他者に関わる力…他者理解、他者尊重、コミュニケーション力
- ③みんな=社会に関わる力…参加協力、対立解決、合意形成、アドボカシー（社会的提言）



- 休憩 - 14:48-[12]

- ◇ ファシリテーターが番号を振ってグループを替え、「自分のウリや強み」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ 自由に発散し、民主的に収束するシミュレーションゲームを行った。
  - ・参加型手法ブレインストーミングを用いて、グループで3つのお題についてリストアップした。〈発散〉
    - i 「グループのメンバーに共通すること」、
    - ii 「どこか懐かしいもの」、iii 「人と社会に役立つもの」
  - ・グループで、「どこか懐かしい、人と社会に役に立つロボット」を考え、ロボットのデザイン、名称、ウリを模造紙にまとめた。〈収束〉
  - ・60秒ずつプレゼンした後、挙手で投票を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント...参加型学習の「参加型」というのは、単に多様な人が参加するからと言うだけではなく、テーマについて考えやすくするための考え方の枠組み(=参加型手法)を多用すること。手法を活用することで、場の話し合いを活性化することができる。



【 「どこか懐かしいもの」、「人と社会に役立つもの」の成果例 】

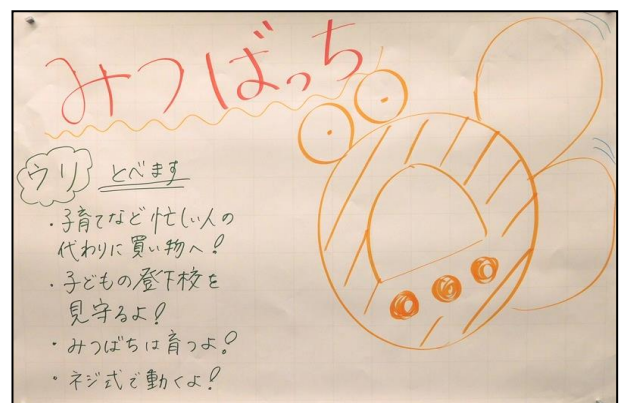
どこか懐かしいもの

- ・田んぼ ・駄菓子 ・遠足 ・ファミコン ・ガラケー ・一輪車 ・ファミコン ・木綿のハンカチーフ ・海外旅行
- ・ビリーズブートキャンプ ・ルーズソックス ・ブランコ ・この一きなんのき ・たまごっち ・ポケベル ・プリクラ

人と社会に役立つもの

- ・交通機関 ・信号 ・水道 ・電気 ・消防車(署) ・救急車 ・やさしい人 ・病院 ・学校 ・スマホ ・マスク ・お金
- ・食料 ・ルール ・情報 ・技術 ・教育 ・JICA ・NPO/NGO ・インスタント食品

【 「どこか懐かしい、人と社会に役に立つロボット」の成果例 】



● セッション2 「開発教育・国際理解教育では何を学ぶのか I」 6/18 15:56-17:15

1. グループ替え～自己紹介 15:56-[05]

- ◇ これまであまり話していない人と一緒にできるように動いて、グループを替えた。
- ◇ 「好きな食べ物とその理由」をお題に一言自己紹介をした。

2. 世界と肯定的に出会おう -〇〇国のなりきりお友達紹介-16:01-[34]

- ◇ 資料2(『地球の仲間たち』写真解説)をグループ内で分担して読み解いた。
- ◇ 担当した資料の人物の友達になりきって、資料に書かれていたことを紹介し合った。
- ◇ 全体で数人が、やってみた感想を発表した。

3. 世界の多様性と同一性 -「地球家族」と豊かさ- 16:35-[33]

- ◇ ジャンケンをしてグループを替え、「旅行に行きたい国とその理由」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ グループに配られた5枚の写真を見て、各自でワークシートに「豊かだとおもう」順番にランキングした。
- ◇ グループ内で各自が考えたランキングを共有した後、メンバーが合意できるグループランキングを話し合った。
- ◇ グループランキングが決まったグループは「豊かさの基準」を、決まらなかったグループは「決まらなかった理由」をそれぞれA4用紙に書き出した。
- ◇ 自由に歩き回って、他のグループのランキングと成果物を確認した。
- ◇ 初めに自分が考えたランキングで最下位にした写真を見直し、「自分が見落としていた豊かさ」を考え、発表し合った。
- ◇ ファシリテーターコメント...国際理解教育の出発点は、人や世界について肯定的に出会うこと。異文化に出会ったとき、「可哀そう」や否定から入るのではなく、「おもしろそう」「おいしそう」といった関心をもてるような肯定的な出会いをし、多角的に知ることで理解を深めることができる。



【 グループランキング「豊かさの基準」の成果例 】

- ・物の有無(豊かさ) ・笑顔 ・心の豊かさ ・ファミリー感(ジェンダーフリーか、笑顔、絆) ・食
- ・安全面(紛争中?) ・家電や家具の多さ ・生活最低限の家具

4. 1日目のふりかえり 17:08-[04]

- ◇ 本日の研修を通して、「気づいたこと、発見したこと」をグループ内で伝え合った。

5. 事務連絡 17:12-[03]

- ◇ 事務局より、連絡方法としてメーリングリストに加え補助的に LINE も活用することについて連絡を行った。

★ 17:15 1日目終了



## ● セッション3 「開発教育・国際理解教育では何を学ぶのかII」 6/19 10:00-14:49

## I. アイスブレイク 10:00-[24]

- ◇ JICA 中部 遠山職員が感染症予防対策についてなど事務連絡を行った。
- ◇ ファシリテーターが、研修の趣旨と概要を説明した。
- ◇ 言葉を発しないで誕生日順に円に並んだ後、番号を振ってグループに分かれた。
- ◇ セッション1-3「名刺で自己紹介」お題から自由に2つ選んで自己紹介をした。
- ◇ **ファシリテーターコメント**…場を参加型にしていくために、コミュニケーションのきっかけをつくるのがファシリテーターの役割。コミュニケーションのきっかけをつくるためには、問いかけることが必要。



## 2. ノンバーバル・トランプゲーム「バーンガ」 10:24-[58]

- ◇ ファシリテーターが、これ以降は言葉を発してはいけないことを伝えた。
- ◇ 資料4(トランプゲーム「バーンガ」ルール説明)を各自で読んでルールを確認した後、資料4は回収し、トランプゲームを行った。

## &lt;進め方&gt;

- ・机中央に置いたトランプの山から順番に1枚ずつカードをめくり、ルールに従い、勝った人がメンバーのカードをもらう。
- ・1回ごとに勝った人と得たカードの枚数を記録する。
- ・3分間続け、最終的に得たカードの枚数で勝敗を決める。
- ・一番勝った人と一番負けた人が、それぞれグループを移動する。



- ◇ 4ラウンド行った後、各自でふりかえりシートを記入し、資料4-3(異文化体験ゲーム「バーンガ」解説)に目を通した。
- ◇ グループで、「多様な人々が共に生きるために大切なこと、必要なこと、できること」について話し合い、A4用紙に書き出した。
- ◇ 全体で、書き出したことを2つずつ発表し、共有した。
- ◇ ここまでの作業をしてみて気づいたことや感想を、全体で数人が発表した。

## 【 「多様な人々が共に生きるために大切なこと、必要なこと、できること」成果例 】

- ・互いが納得できるゆずれる所とゆずれない所を話し合っで決める ・「違い」を知る
- ・新しいコミュニティで新しいルールをつくる ・相手の立場に立ち考える
- ・少数派がいることを前提にする ・意見を聞き少数派の戸惑いを減らす
- ・変えられるルールは歩み寄って変えていく ・受け入れる側が自分たちのルールを押し付けない
- ・はじめにお互いのルールを確認する→その後、自由に意見を言える雰囲気をつくる
- ・自分の意見を主張する→他者の意見もきちんと受け止める

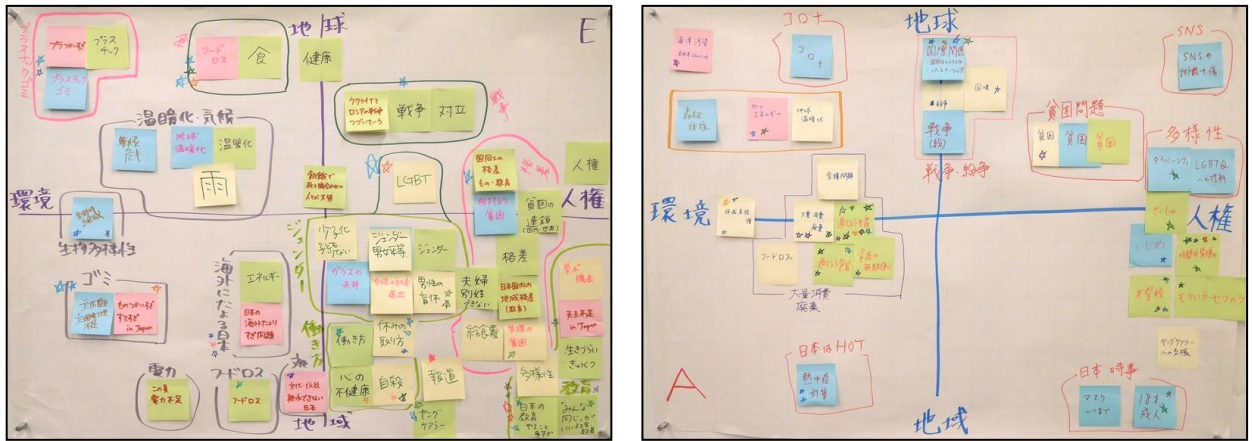
3. 私たちの社会をふりかえるー解決すべき課題は何かー 11:22-[61]

3-1. グローバル化した世界が抱える問題（国内問題・地球規模の問題） 11:22-[46]

- ◇ ジャンケンをしてグループ替えをし、「今おすすめの一品とその理由」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ 各自で付箋紙に「私たちの社会（地域・地球）が抱えている課題」を具体的に書き出した。
- ◇ グループで、参加型手法「カード式分類法（KJ法）」と「二元軸表」を用いて、書き出した付箋紙を整理分類した。
- ◇ グループで「成果物から言えること」を3つ、A4用紙に書き出した。
- ◇ 成果物を回し読みし、自分のグループでは出なかったアイデアで共感したものには、各自で★印を付けた。
- ◇ ファシリテーターコメント…1人では考えつかないことがグループでは考えられ、グループの数が増えればさらに考えが広がるように、他の人の頭を借りながらみんなで学んでいくというのが参加型の学び方。また、今日的な課題は様々あるけれど、大きく分けると人権系か環境系かに分けられる。人権教育、環境教育、平和教育が国際理解教育・開発教育の大枠となり、1つのテーマに取り組むことが他のテーマ（課題）に繋がっていく。



【 カード式分類法×2 元軸表「私たちの社会（地域・地球）が抱えている課題」の成果例 】



【 「『私たちの社会（地域・地球）が抱えている課題』の成果物から言えること」成果例 】

- ・（フードロスと貧困といったように）地域によって対照的な課題を抱えている
- ・その人にとってどれだけ身近に感じているかによって出てくるものが違う
- ・環境問題はまだ実感として捉えきれていない
- ・教育に関わる課題が多く書かれていた
- ・メディアの報道量（知識）とポストイットの数が比例する

3-2. 課題の現状をデータで把握する 12:08-[15]

- ◇ グループ内で、資料5（世界を変えるための17の目標 SDGs 世界・日本の現状）、資料6（The Sustainable Development Goals Report 2021）を分担して読み解いた。
- ◇ 3つの視点で担当した資料について紹介し合った。
  - ①何について書かれていたか ②わかったこと、言えること ③最も印象に残ったこと、数値

- 休憩 - 12:23-[57]

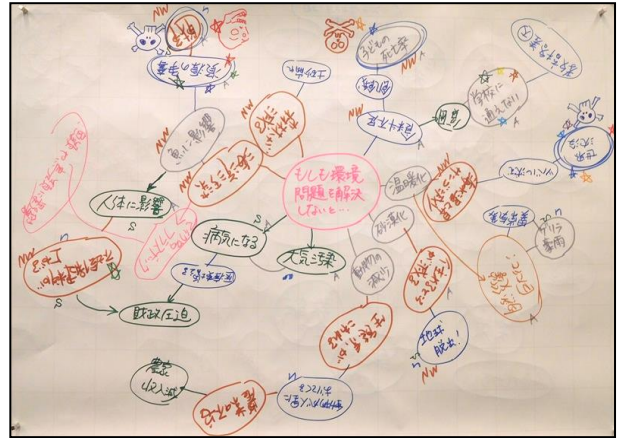
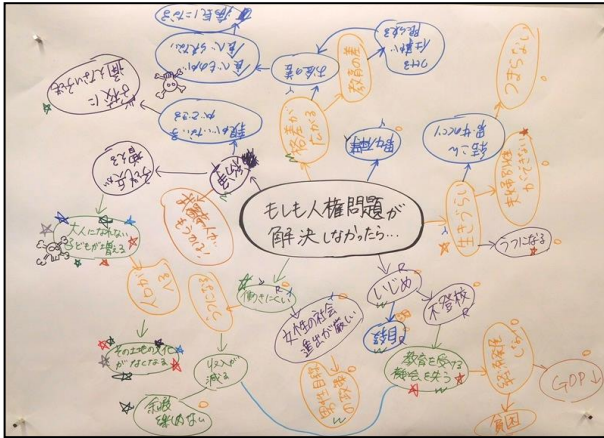


4. 開発教育・国際理解教育は何のために学ぶのか 13:20-[89]

4-1. 人権問題、環境問題を解決しないとどうなる? -影響を考える- 13:20-[42]

- ◇ ファシリテーターが番号を振ってグループ替えをし、「自分を表す漢字一文字とその理由」をお題に一言自己紹介を行った。
- ◇ 参加型手法「派生図」を用いて、「人権問題・環境問題を解決しないとどうなるか」を派生させて考えた。
- ◇ グループで、書き出されたことの中で「最悪の帰結と思うものトップ3」を選び、印を付けた。
- ◇ ギャラリー方式で他のグループの成果物を各自で見回り、アイデアを追加し、共感するものに★印を付けた。
- ◇ グループに戻り、各自で自分にも影響すると思うものに自分のイニシャルを書き入れた。
- ◇ 全体で数名が、やってみて気づいたことや感想を発表した。

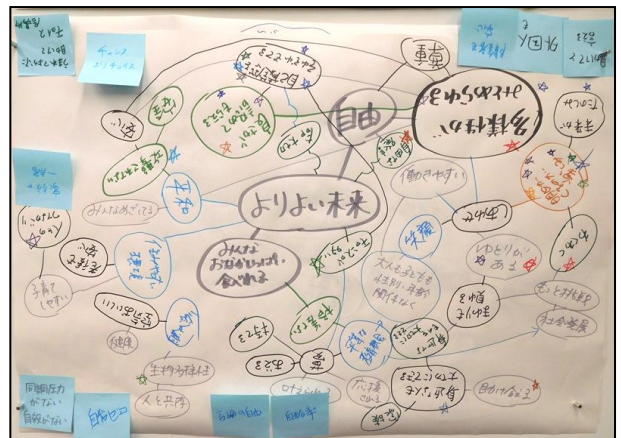
【 派生図「人権問題・環境問題を解決しないとどうなるか」の成果例 】



4-2. 望む“よりよい未来”とはどのような姿の社会? -ビジョンを描こう- 14:02-[47]

- ◇ ジャンケンをしてグループを替え、「今の気分は何色?」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ 参加型手法「関連図」を用いて、「望むよりよい未来」のキーワードを書き出した。
- ◇ ギャラリー方式で他のグループの成果物を各自で見回り、共感するアイデアに★印を付け、自分のグループでは出なかったアイデアはメモを取った。
- ◇ グループに戻り、メモをしたアイデアを共有し、模造紙に付け足した。
- ◇ 各自で、関連図を基に具体的な文章で「よりよい未来の姿」を3つ書き出した。
- ◇ グループで、それぞれ書き出した文章を参考に、「よりよい未来7カ条」をまとめた。
- ◇ まとめた7カ条を発表し、共有した。

【 関連図「望むよりよい未来」の成果例 】



【「よりよい未来7カ条」の成果例】

- |                                   |                      |
|-----------------------------------|----------------------|
| ① 言論の自由があり、みんなが安心して暮らせる社会         | ① ひとりひとりのよさが尊重される社会  |
| ② 失敗から学び、やり直せる寛容な社会               | ② だれもが心の居場所をもてる社会    |
| ③ 笑顔で働き、笑顔で子育て&遊ぶ社会               | ③ 相手の良さを尊重できる社会      |
| ④ 世界中の子どもが質の高い教育を受け、夢をもち、笑顔で過ごす社会 | ④ 平和が保障され、命のキケンがない社会 |
| ⑤ 様々なちがいを認め合い、マイノリティの人も尊重される社会    | ⑤ 地球とともに生きる社会        |
| ⑥ 自分の命も人の命も大切にされる社会               | ⑥ 希望をもって夢を追える社会      |
| ⑦ いくつになっても楽しい社会                   | ⑦ 明日が楽しみな社会          |

● セッション4 「課題を超えビジョンへとつなぐ教育の使命」 6/19 14:49-15:17

1. 課題を超えてよりよい未来を築こう 14:49-[13]

- ◇ 参加型手法「対比表」を用いて、課題を超えて「よりよい未来を創るために必要なこと・役立つことと邪魔すること」を書き出した。
- ◇ 成果物を回し読みし、自分のグループでは出なかった意見で共感するものに、各自で★印を付けた。
- ◇ ファシリテーターコメント…現状の持続可能ではない課題のある社会から、望む持続可能なよりよい社会とのギャップを埋めていくのは、1人ひとりの行動。行動する人を育むために、「知る・考える・気づく」と「気づく・考える・行動する」を繋げていくことを提供するのが、開発教育・国際理解教育を実践するわたしたちの使命。

【「よりよい未来を創るために役立つこと・必要なもの／邪魔すること」の成果例】

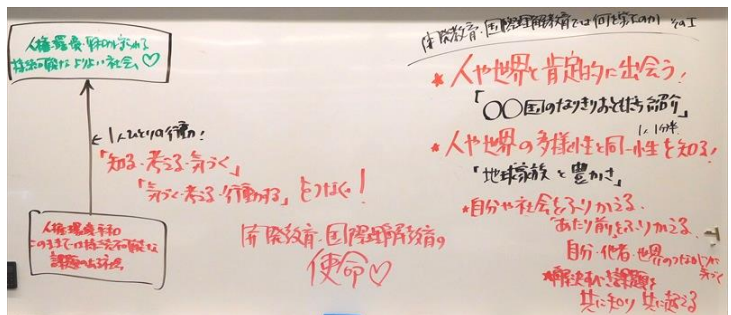
<p><b>役立つこと・必要なもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の共有 ・相手を思いやる気持ち ・グローバルな視点 ・経験や知識 ・情報データ ・教育 ・協力体制</li> <li>・優しさ ・問題を知ること ・優秀な政治家 ・自然に対する正しい知識 ・笑顔 ・法律等のきまり ・聞く姿勢</li> <li>・相手に対する理解 ・物事に対する興味関心 ・他者を受け入れる心=認め合うこと ・AI(仕事量を減らす)</li> <li>・健康維持 ・話し合い、コミュニケーション ・チームワーク、仲間 ・他人事を自分事にする ・失敗 ・人財</li> <li>・参加型で考える場 ・ステキなリーダー(ファシリテーター) ・人とのつながり ・大切にされている感 ・資金</li> </ul>
<p><b>邪魔すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同調圧力 ・経済偏重 ・人より上に立ちたいという欲 ・ゆとりのなさ ・国益優先 ・不安定な政治、独裁</li> <li>・情報操作 ・個人の思い込み、ステレオタイプ ・どうせ自分だけやってもムダ ・利己心 ・知らないふり ・格差</li> <li>・偏った考え方、偏見 ・貧困 ・争い、戦争 ・無関心 ・言語 ・既得権益 ・自分さえよければいいという考え</li> <li>・見て見ぬふりをする ・損得感情 ・教育の不平等 ・差別 ・コロナ ・お互いの理解不足</li> </ul>

2. ふりかえり 15:02-[10]

- ◇ 個人で2日間をふりかえり、①気づいたこと・わかったこと、②大切だと思ったこと、③これから実行しようと思ったことの3つをグループで紹介し合った。
- ◇ 開発教育・国際理解教育の背景、目的、内容について説明した、資料7(国際理解教育・開発教育と参加型に関する考え方)を配付し、確認するように伝えた。

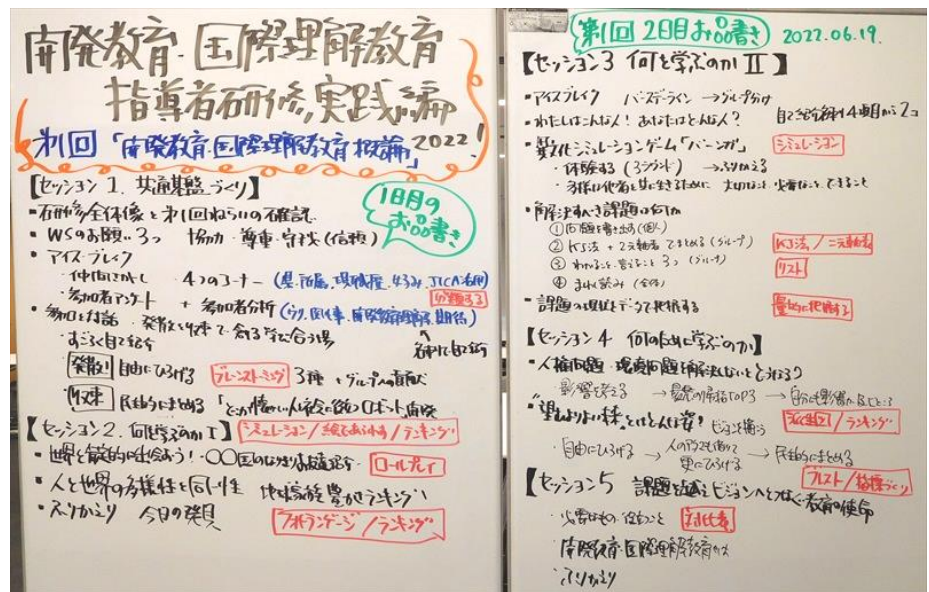
3. 事務連絡 15:12-[05]

- ◇ 事務局から今後の連絡方法について確認し、過去の研修の報告書冊子を配付していることを伝えた。
- ◇ 遠山職員が終わりのあいさつを行い、研修を終了した。



★ 15:17 2日目終了





－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・セッション1-4. 「すごろく自己紹介シート」…NPO 法人 NIED・国際理解教育センター『ファシリテーターのための参加型アクティビティ集～コミュニケーション編～』（2018）
- ・セッション2-2. 「『地球の仲間たち』写真解説 10カ国」…開発教育を考える会『地球の仲間たち フォトランゲージ教材』
- ・セッション2-2. 「10カ国それぞれの紹介」…開発教育を考える会『地球の仲間たち CD-ROM版』の各国紹介、ウィキペディアなどからNIED作成
- ・セッション3-3. 「世界を変えるための17の目標 SDGs 世界・日本の現状」…認定 NPO 法人 国際協力 NGO センター（JANIC）ウェブページ <https://www.janic.org/world/about/>
- ・セッション3-3. 「The Sustainable Development Goals Report 2021」…国際連合広報センター『持続可能な開発目標（SDGs）報告2021』よりNIED作成
- ・セッション4-2. 「国際理解教育・開発教育と参加型に関する考え方」…名古屋市『環境学習実践者向けESDガイドブック「ESD はじめの一步」』（2015）※NIED・国際理解教育センター伊沢令子執筆箇所

## III 開発教育指導者研修(実践編) 第2回

### 開催概要

- ◆ 日時:2022年7月16日(土)13:00~17:25、17日(日)10:00~15:20
- ◆ 場所: JICA 中部なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数:
  - [1日目] 一般受講者27名、NIEDスタッフ5名、JICAスタッフ3名 合計35名
  - [2日目] 一般受講者28名、NIEDスタッフ6名、JICAスタッフ3名 合計37名
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

### 第2回のねらい

- ① 開発教育の中心テーマである「人権」「環境」の視点から社会を振り返り、問題の背景を探る。
- ② 「学んだ側の態度と行動が変わる」という目標に向け人の行動変容を支える参加型について学ぶ。
- ③ 本教育がねらいとする「わたし・あなた・みんなに関わる力の育成」に有効なことを共に考える。

### プログラムの内容

- セッションI 「場づくり・関係づくり・共通基盤づくり」 7/16 13:00-14:27

#### 1. 主催者挨拶/第2回のねらいの確認 13:00-[17]

- ◇ JICA 中部 遠山職員が、開会を宣言した。
- ◇ 視察として参加する JICA 地球ひろば推進課の畔上課長、笹川職員が、挨拶をした。
- ◇ NIED スタッフから、2022年の今回の研修をどこで知ったか、参加者アンケートをした。
- ◇ ファシリテーターが、本研修全体の流れとねらい、第2回のねらいについて、レジュメを基に説明した。また、並行して行われている「教師国内研修」について情報提供した。



#### 2. アイスブレイキング 13:17-[48]

- ◇ 次の2つのアイスブレイキングを行った。
  - ①わたしの大切なモノでモノログ
    - ・個人でA4用紙に「私が大切にしているモノ」を10個書き出す。
    - ・書き出したモノのうち、より大切なモノ3つを選び、○印を付ける。
    - ・選んだ3つを題材にして、グループで自己紹介をし合う。
  - ②マインドセットを変える「何ソレ?モノ当てゲーム」
    - ・個人で2色の付せん紙にそれぞれ、「モノの名前・名詞」と「モノを修飾する形容詞」を2つずつ書き出す。





- ・書き出した付せん紙を隣のグループと交換し、無作為に2色の付せん紙を選ぶ。
- ・選んだ付せん紙に書かれたことをお題に、絵を描く。
- ・グループで、描いた絵を見せ合って、何が書かれているか当て合う。
- ◇ ファシリテーターコメント...通常のマインドセット(思考パターン)から離れてみるというアクティビティ。“問題を作り出している頭と同じ頭では問題は解決できない。”マインドセットを変えることで、斬新なアイデアや新たなアイデアを生み出すことができる。

### 3. 第1回のふりかえり 13:55-[32]

- ◇ 個人で、印象に残ったところ3つに下線を引きながら第1回の記録を読んだ。
- ◇ 下線を引いたところとその理由を、グループで紹介し合った。
- ◇ ファシリテーターが、第1回の内容をふりかえりつつ、開発教育・国際理解教育、参加型の学習についてレクチャーした。
- ◇ ファシリテーターコメント...参加型学習は積み上げていく学習。自分が体験したことなので、振り返ったり、記録を見たりすれば思い出すことができる。言葉にしたり伝えたりすることで、意識化でき、行動に繋がる。

## ● セッション2 「生き物が生きる土台 環境について学ぶ・環境のために学ぶ」 7/16 14:27-17:08

### 1. 人間コピー機 14:27-[42]

- ◇ ファシリテーターが番号を振ってグループを替え、「心に残る自然(体験)と言えば」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ ファシリテーターが、ゲームのルールを説明し、グループ内で作業する順番を決めた。

<ルール>

- ・1グループから1人ずつ順番に、グループから離れたところにある「絵」を見に行き、覚えて帰り、模造紙に再現する。
- ・1回につき1グループから絵を見に行けるのは1人だけ。1人帰ってきたら次の人が行ってOK。
- ・時間内(5分)は、何巡してもOK。
- ・話してはいけない。

- ◇ 5分経過したところで、グループでコピーの精度を上げるための作戦を話し合い、「見に行けるのは1人だけ」「話してはいけない」ルールを解除し、2分間でコピー作業の続きを行った。
- ◇ グループで、ゲームをした感想と、コピーした絵は何を表していたのか話し合った。
- ◇ グループで話した感想を、数人が全体で発表した。
- ◇ ファシリテーターが、「絵」に描かれている内容(自然界の3つの循環=食物連鎖・水の循環・空気の循環)を説明した。

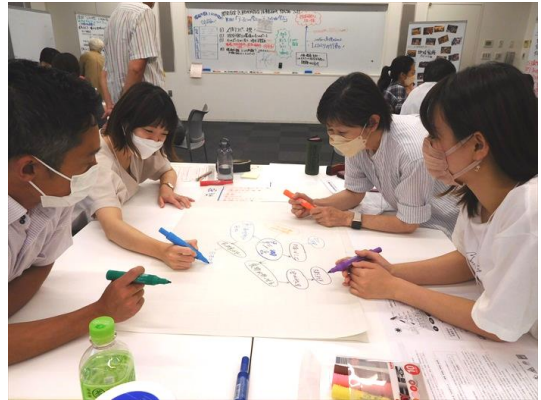
#### 【「コピーした絵」成果例】



- 休憩 - 15:09-[11]

2. 環境問題 どんな問題？－「持続可能な環境のための4つのポイント」から見た現状課題－ 15:20-[17]

- ◇ ファシリテーターが、環境を学ぶ目的についてミニレクチャーした。
- ◇ 個人で資料3（「持続可能な環境のためのヒント」）を読んだ。
- ◇ 資料を読んで気づいたことや感想をグループで共有した。
- ◇ ジャンケンをしてグループを替え、グループ毎に自由にお題を決めて一言自己紹介をした。
- ◇ グループで、「持続可能な環境のための4つのポイント」に対して現在ある課題は何かを話し合って対比表に書き出した。
- ◇ 成果物を回し読みし、自分のグループでは出なかったアイデアには★印を、グループメンバー誰もが見えなかったことには？印を付けた。
- ◇ 全体で、？印が付いたアイデアに対して、どういう内容か書いた意図を説明し共通理解をつくった。
- ◇ ファシリテーターコメント…ファシリテーターは、テーマについての専門家ではないし、参加者よりも多くの情報をもっている必要はない。それでも、ワークショップをつくり提供する上で、すべてを説明したり提供したりするわけではないが、テーマについて大まかな基本情報はもっておいた方がいい。



【「持続可能な環境のための4つのポイント」に対して、いまの問題」成果例】

**循環**

- ・大量消費、大量廃棄 ・ファストファッション ・原発 ・過剰開発 ・コンクリートの道路 ・新築（空き家問題）
- ・過剰包装 ・野菜の規格 ・使い捨て ・土に戻らないもの（プラ）をいっばいつくっている ・食料廃棄

**生物多様性**

- ・環境汚染 ・密猟、密漁 ・海洋プラスチック ・外来種 ・温暖化による動植物への影響 ・温暖化
- ・自然への興味のなさ ・動物の乱獲 ・森林伐採 ・人間の利益を優先 ・人口増加 ・異常気象

**有限性**

- ・火力発電 ・石油枯渇 ・自然エネルギーに移行しない ・便利さの追求 ・レアメタル ・フードロス問題

**低酸素**

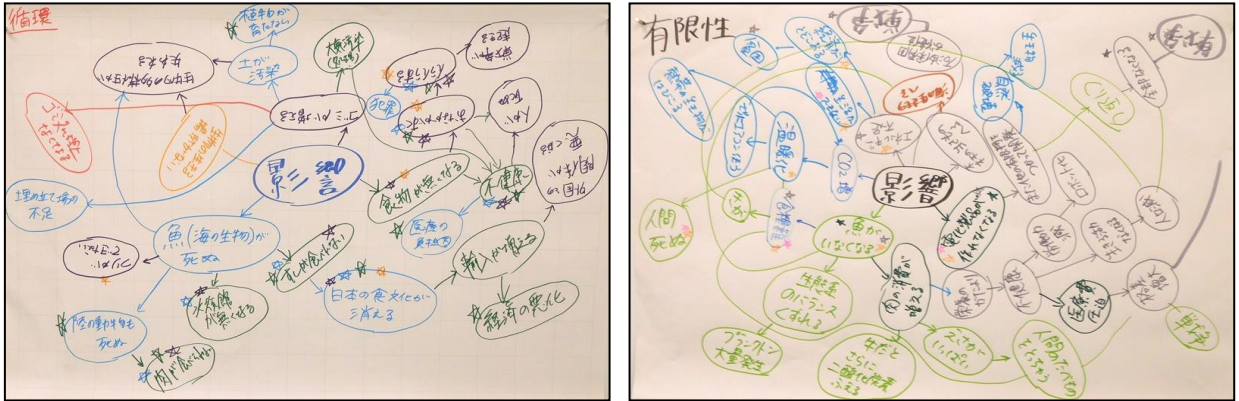
- ・飛行機社会 ・環境に配慮したものは高価 ・食糧自給率の低さ ・車社会 ・森林破壊

3. 環境問題 どうして問題？ どうやって超える？－影響予測・原因探求・課題解決－ 16:17-[45]

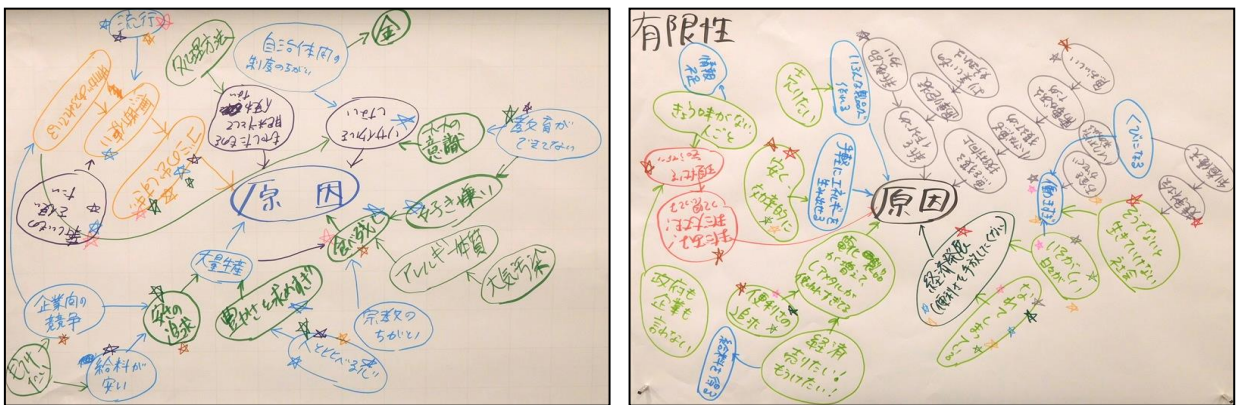
- ◇ グループ毎に、持続可能な環境のための4つのポイントのうち1つずつ担当するポイントを決めた。
- ◇ 参加型手法「派生図」を用いて、問題をそのままにしておくと、解決できないとどうなるか、どのような影響があるか派生的に書き出した。
- ◇ 書き出されたアイデアで自分にも影響が及ぶと思うものに、個人で★印を付け、全体で数人が発表した。
- ◇ 参加型手法「因果関係図」を用いて、なぜそんな問題が起きているのか問題の原因を掘り下げて考えた。
- ◇ 個人で、自分自身も関わっているとおもう原因に★印をつけた。
- ◇ 同じポイントを担当しているグループと、成果物を交換し回し読みで共有した。
- ◇ 問題を解決するために役立つこと・必要なこと・できることを、できるだけたくさん書き出した。

◇ ファシリテーターコメント…課題解決のためのシステム思考(現状把握、影響予測、原因究明、課題解決)を参加型ワークショップではよく取り入れている。解決の方法出しについては、ブレストで OK。正解ではなく、できることをたくさん出せることが大切で、楽しみながら出すことで行動へのモチベーションにもつながる。どんなことでも1人ひとりが行動に移すことが必要で、「1人の100歩より100人の1歩」というのが環境分野では大切と言われている。

【「問題をそのままにしておくと、解決できないとどうなるか、どのような影響があるか」派生図成果例】



【「なぜそんな問題が起きているのか」因果関係図成果例】



【「問題を解決するために役立つこと・必要なこと・できること」成果例】

- 循環**
- ・食べ残しをしない ・ゴミを分別する ・エコバッグを使う ・スーパーでの手前取り ・面倒くさがらない
  - ・グリーンカーテン ・木を植えて日影を増やす ・自分は自分(インスタを見ない)
- 生物多様性**
- ・身近な自然について知る ・教科「環境」を新設 ・情報を疑う ・他国の環境教育から学ぶ
  - ・動植物について知り、生き物のことをいとおしく思う
- 有限性**
- ・マイボトル、マイ〇〇 ・量り売りの利用 ・リサイクルショップの利用 ・エシカル消費 ・日々に余裕をもつ
  - ・完璧を求めない ・自然エネルギーへのシフト ・長く使えるものを選ぶ ・MSC 認証商品を選ぶ ・包装を断る
- 低炭素**
- ・公共交通機関を使う ・歩く ・子どもたちに伝える ・適正価格で物を買う ・エコカーを選ぶ ・自転車に乗る
  - ・エコラベルをちゃんと見る、エコラベル商品を選ぶ ・脱炭素技術の共有 ・有効な施策を行う政治家を選ぶ

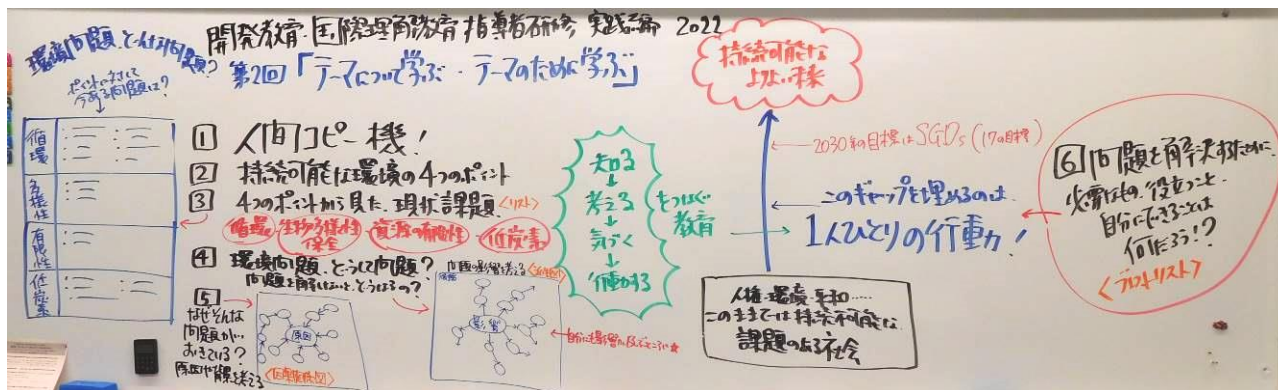
4.1 日目のふりかえり 16:59-[09]

◇ 本日の感想、気づいたことをグループ内で伝え合った。



◇ JICA 地球ひろば推進課の畔上課長、笹川職員が、参加した感想を共有した。

★ 17:08 | 日目終了



● セッション3 「人間らしく生きる基本 人権について学ぶ・人権のために学ぶ」 7/17 10:00-14:34

I. わたしらしく十分に生きるために必要なもの-「わたし」の幅を広げてきた歴史- 10:00-[55]

- ◇ 「10年後のなりたい自分像・こう生きていきたい人生像」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ 個人で付せん紙に「わたしを自分らしく十分に生きさせてくれているもの」を書き出した。
- ◇ グループで、参加型手法「カード式分類法 (KJ法)」を用いて、書き出した付せん紙を整理分類した。
- ◇ グループ毎にカテゴリーを発表し、共有した。
- ◇ 「すべての人・人間なら誰もが十分に生きるために」という視点で、成果物にアイデアを追加した。
- ◇ 追加したものを発表し、共有した。
- ◇ ファシリテーターが、基本的人権、世界人権宣言、参加型の人権教育についてレクチャーした。



◇ **ファシリテーターコメント**…参加型の人権教育は、啓発型知識伝達型の反省から起こってきた。グローバルスタンダード=世界人権宣言があっても、人権侵害がなくなっていない。参加型・体験型で学ぶことで、人権尊重社会を創るとは自分が何をすることなのか分かり、行動できる人を育てていく。

【 「わたしを自分らしく十分に生きさせてくれているもの」カテゴリー成果例 】

- ・趣味 (好きなこと、もの) ・気分転換 ・仲間や友人 ・出会い ・家族 ・ふれあい ・睡眠 ・チャレンジ ・貢献
  - ・心を豊かにしてくれるアートや美術 ・コミュニケーション ・言葉 ・いやし ・ホッとする時間 ・お金 ・仕事 ・自然
  - ・大切な場所、もの、思い出 ・健康 ・性格 (自分らしさ、アイデンティティ) ・歴史 ・宗教、信じるもの ・食 ・ペット
  - ・移動手段 ・情報ツール ・居場所 ・知的好奇心 ・ジェンダー観 ・達成感、やりがい ・言論の自由 ・経験
  - ・医療 ・超カワイイもの ・住むところ ・便利なもの ・ポジティブさ
- 「すべての人・人間なら誰もが十分に生きるために」という視点で追加されたもの**
- ・分かち合い ・共通言語 ・尊重 ・笑顔 ・希望 ・平和 ・教育 ・インフラ ・政治 ・法律 ・病院 ・きれいな水
  - ・秩序 ・幸福 ・空気 ・自由 ・安全 ・安心 ・トイレ ・平等 ・衣 ・生きがい





3-2. 三段論法 ～ 宅建業者と外国人のロールプレイ 13:10-[31]

- ◇ ジャンケンをしてグループを替え、グループ毎に自由にお題を決めて一言自己紹介をした。
- ◇ 個人で、資料7(人権はなぜ守られない?三段論法「日本人は○○だ。’)のワークシートに「日本人は○○だ」という文章を複数記入した。
- ◇ 書き出した文章を、三段論法に当てはめて読み上げてみた。
- ◇ 三段論法で読み上げてみた感想をグループで話し合い、全体で数人が発表した。
- ◇ ファシリテーターが、資料7を基に「偏見」と「差別」の定義を説明した。
- ◇ 宅建業者と外国人のロールプレイを見て、気になったこと、違和感があったことをグループで話し合った。
- ◇ 全体で数人が話し合った内容を発表した。

3-3. 「誰にも言うんじゃないよ」～ 世間とは 13:41-[28]

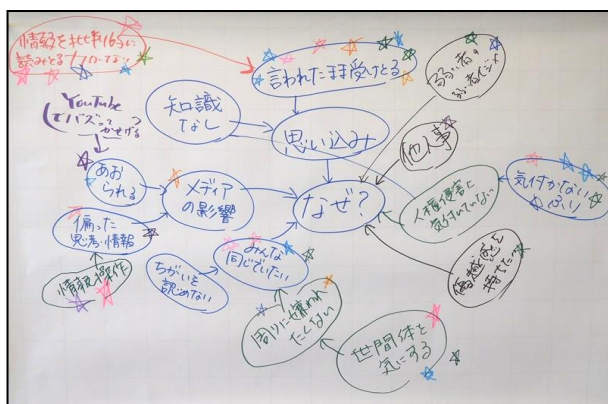
- ◇ 資料8-1(警察の標語ポスターのうつりかわり)を見て、ポスターの内容のうつりかわりについて、グループで意見交換した。
- ◇ 全体で数人が話し合った内容を発表した。
- ◇ ファシリテーターが資料8-2(話のタネ・・・誰にも言うんじゃないよ)を読み上げ、気になったこと、違和感があったことをグループで話し合った。
- ◇ 全体で数人が話し合った内容を発表した。
- ◇ 自分自身の大切な人が痴漢被害に遭い、そのことを話してくれた場面を想像し、自分ならどのような声をかけるのか考えてみた。
- ◇ 考えてみた内容をグループで、実際に声に出して言い合った。
- ◇ ファシリテーターが資料9(話のタネ・・・世間が悪い)の一部を読み上げた後、個人で資料を読んだ。

4. 差別を見逃さず人権を尊重する個人となるために 14:09-[25]

- ◇ 参加型手法「因果関係図」を用いて、なぜ人権は守られないのか、なぜ差別は続くのか原因を掘り下げて考えた。
- ◇ ギャラリー方式で、他のグループの成果物を確認し、共感したアイデアに★印を付けた。
- ◇ 「人権を守る」「差別をしない」とは自分が自分・他者・社会にどう関わることが考え、7つの肯定的で具体的な文章を個人でA4用紙に書き出した。
- ◇ 書き出したことから3つを選び、グループで発表し共有した。



【「なぜ人権は守られないのか、なぜ差別は続くのか」成果例】





【「人権を守る」「差別をしない」とは自分が自分・他者・社会にどう関わるのか」成果例】

- ・「人権」について生徒と考える・自分にも他者にも人権があることを意識する・ともに行動する姿勢をもつ
- ・多角的、多面的に考える・批判的思考を大切にする・マジョリティを自覚する・想像力を働かせる
- ・個人を見る・人権グッズ(Tシャツなど)をつくる・情報をアップデートしていく・その人に興味をもつ

● セッション4 「わたし・あなた・みんなに関わる力を育む」 7/17 14:34-15:14

1. 行動変容を支える参加型 14:34-[11]

- ◇ ファシリテーターが番号を振ってグループを替え、「生まれ変わるとしたら何に生まれたいか」をお題に一言自己紹介をした
- ◇ ファシリテーターが、資料10・11(行動変容を支える参加型～参加型の目的～)を基に行動変容を支える参加型についてレクチャーした。

2. 力を育むための手立て 14:45-[17]

- ◇ グループで、わたし・あなた・みんなに関わる力を育むために必要なこと・役立つことを対比表に書き出した。
- ◇ 成果物を回し読みし、個人で共感したアイデアに★印を付けた。
- ◇ **ファシリテーターコメント**…参加する力は参加することでしか身に付かない。参加型教育では、考える・伝え合う・話し合う・共有することを繰り返すことで、スキルを身に付けようとするもの。対比表に書き出されたことは、教育者であるみなさんに、今後どのようなことを子どもたちに伝えていくか、その参考にしてほしい。



【「わたし・あなた・みんなに関わる力を育むために必要なこと・役立つこと」成果例】

**わたし**

- ・自己有用感・自己肯定感・異文化と出会う経験・自分の役割をもつ・失敗しても大丈夫とポジティブに
- ・自分をふりかえる機会・人と比べない・自分の強みをのばす・相手を褒める・自分を認める

**あなた**

- ・ともに活動する・いろいろな世代の人と活動する・対等な関係でのコミュニケーション・傾聴・先入観をなくす
- ・共通点を見つける・自分のモノサシではからない・「あなた」をリスペクトし合う・違いを知り、受け止める

**みんな**

- ・新しい価値と出会う機会をつくる・さまざまなコミュニティに参加する・ありがとう、ごめんなさいを伝え合う
- ・みんなが協力して何かをやり遂げる経験・ハグ、スキンシップ・目標を明らかにする・フィールドワーク

わたし	あなた	みんな
いろいろな人とかわる ・自分を知る ・自分を大切に ・様々な価値を 大切に ・知ったことと活かして 行動する ・人と比べない (私は私) ・自分の強みをのばす	・あなたを知ろうとする ・違いを大切に 大切に ・他者に興味をもつ ・共通点を見出す ・とにかく話を 聞く ・自分のことと 話さない ・あなたをリスペクト	・それぞれのよさを活かす 強み ・平和的に話そう ・ルールを作る ・参加型の教育 ・所属にとらわれない いろいろな人と関わる ・目標を明らかにする

わたし	あなた	みんな
・成功体験を話す ・成功体験を積み重ねる ・学ぶ ・(おもしろい)を知る ・他者の関心を知る ・自分の特性を知る	・相手の話をよく聞く ・自分の考えを発信する ・相手の考えを尊重する ・違いを知り、受け止める ・コミュニケーション・楽しんで!! ・アイスブレイク大事!!	・新しいこと ・みんなの話を受け止める ・行政等のサポート ・地域連携 (企業...) ・ロールプレイ ・フィールドワーク ・99様は分野 ・外部人材活用 ・3.15が活躍の場

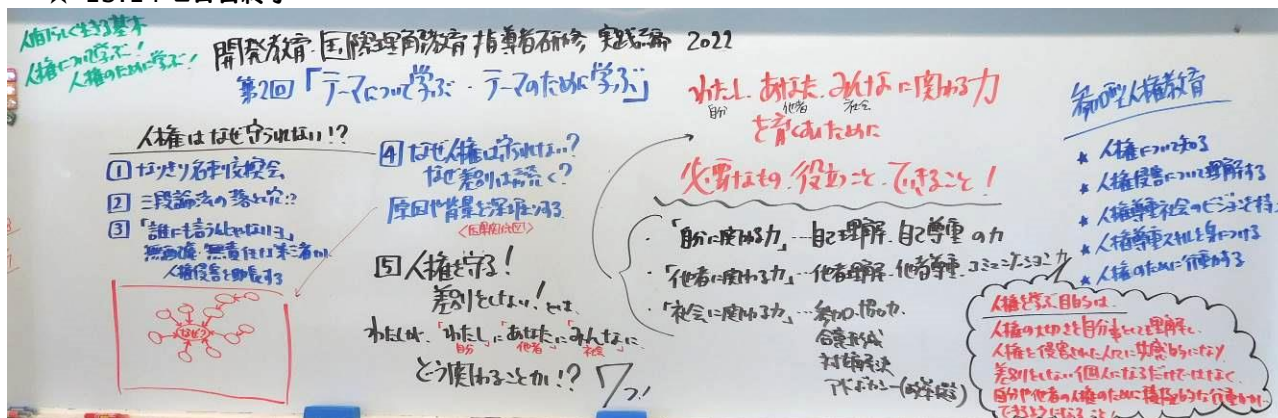
3. 第2回研修のふりかえり 15:02-[07]

◇ 2日間をふりかえり、分かったこと、大切だと思ったこと、実行しようと思ったことをグループで紹介し合った。

4. 事務連絡 15:09-[05]

- ◇ 事務局が、次回第3回の2日目は17:00終了であることを確認した。
- ◇ JICA 江口職員が、教育を考えるフォーラムなどイベント情報を共有した。

★ 15:14 2日目終了



－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・セッション2-2. 「持続可能な環境のためのヒント」…エコ・コミュニケーションセンター『FOOD 食べ物から考える環境教育ガイドブック』（1998）などを基に NIED 作成
- ・セッション3-2. 「法務省人権啓発活動重点目標17項目／2018年度名古屋市「人権についての市民意識調査」報告抜粋」…法務省「人権啓発」ウェブページ [https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04\\_00005.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00005.html)、名古屋市「平成30年度人権についての市民意識調査」ウェブページ <https://www.city.nagoya.jp/sportsshimin/page/0000117247.html>
- ・セッション3-3. 「名刺交換記入用ワークシート」…財団法人大阪府人権協会『人権学習シリーズ vol.4 ちがいのとびらー多様性と受容ー』
- ・セッション3-3. 「警察の標語ポスターのうつけかわり」「話のタネ…誰にも言うんじゃないよ」…高知県教育委員会『みんなでつくる人権学習～さいしょのタネをわたします』
- ・セッション3-3. 「話のタネ8」…高知県教育委員会『みんなでつくる人権学習～さいしょのタネをわたします』
- ・セッション4-1. 「行動変容を支える参加型～参加型の目的～」…名古屋市『環境学習実践者向けESDガイドブック「ESD はじめの一步」』（2015）※NIED・国際理解教育センター伊沢令子執筆箇所

# IV 開発教育指導者研修(実践編) 第3回

## 開催概要

- ◆ 日時:2022年8月27日(土)13:00~17:08、18日(日)10:00~17:10
- ◆ 場所: JICA 中部なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数:
  - [1日目] 一般受講者29名、NIEDスタッフ5名、JICAスタッフ1名 合計35名
  - [2日目] 一般受講者28名、NIEDスタッフ5名、JICAスタッフ1名 合計34名
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

## 第3回のねらい

- ① 参加と対話を引き出す参加型手法と、ねらい達成に向けた流れのあるプログラムの作り方を学ぶ。
- ② テーマを設定し実際に各自プログラムを作ることを通して、アクティビティとプログラムの関係を理解する。
- ③ 開発教育・国際理解教育を各自の現場で実践し、様々な場で参加型を活用するためのイメージを持つ。

## プログラムの内容

### ● セッションI 「ここまでのふりかえり」 8/27 13:00-14:05

#### 1. 主催者挨拶／第3回のねらいの確認 13:00-[10]

- ◇ JICA 中部 江口職員が、開会を宣言した。
- ◇ ファシリテーターが、本研修全体の流れとねらい、第3回のねらいについて、レジュメを基に説明した。

#### 2. アイスブレイキング カードで自己紹介 13:10-[30]

- ◇ グループに配られたお題カードを基に、次の手順で1人30秒ずつ自己紹介をした。
- ・1~3ラウンド目…1人1枚ずつカードを取り、それぞれが違うお題で自己紹介する。ラウンド毎に1番はじめに話す人をずらしていく。
- ・4ラウンド目…これまでに出たお題から1枚ずつ選んで、自己紹介する。1番はじめにカードを選んだ人から話す。
- ・5ラウンド目…新たなカードを1枚取り、共通のお題で自己紹介する。
- ◇ **ファシリテーターコメント**...人は問われて、考えてみた時や、出会ったことのない意見に出会った時に、気づく。参加型の教育はそのような気づく機会をつくっていく。また、望む未来を実現するために行動する人を育む参加型教育では、人の変容を支える「知識(情報)」、「気づき」、「意識化とスキル(ドウハウ)」この3つのプロセスを提供していく。



#### 3. 第1回と第2回のふりかえり 13:40-[25]

- ◇ 個人で、第1回内容も思い出しつつ、印象に残ったところ3つに下線を引きながら第2回の記録を読んだ。
- ◇ 下線を引いたところとその理由を、グループで紹介し合った。



- ◇ ファシリテーターコメント...参加型学習は積み上げていく学習。自分で発見したことや体験したことなので、記録を見れば思い出すことができる。また、言葉にしたり伝えたりすることで、意識化でき、行動に繋がる。

● セッション2 「SDGsを自分事に！～流れのあるプログラム～」 8/27 14:05-17:15

I. SDGsについての理解を深めよう 14:05-[52]

I-1. SDGsゴール解説やってみた！ 14:05-[40]

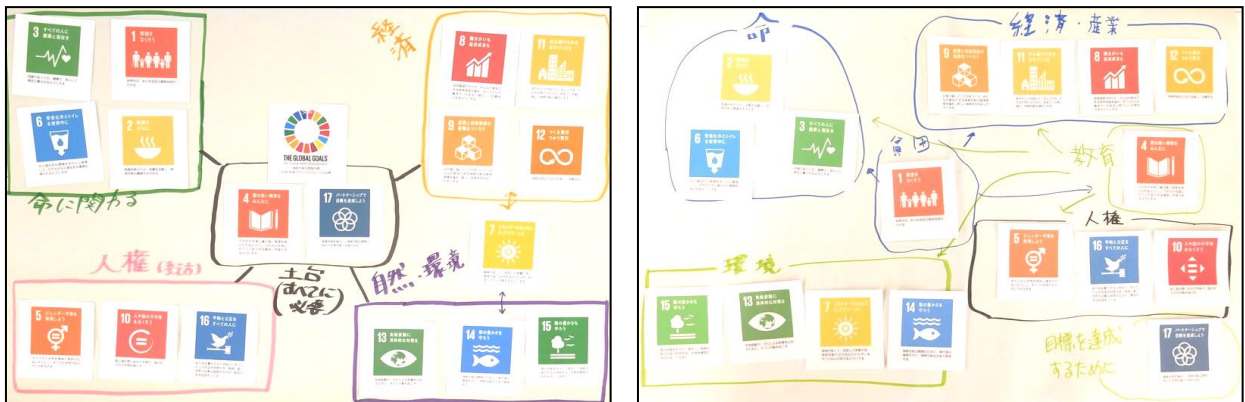
- ◇ ジャンケンをしてグループを替え、「この夏休みの思い出」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ グループに配られた SDGs カードから1枚ずつ気になるカードを選び、そのカードを選んだ理由とカード裏面に書かれたゴールの内容を要約して紹介し合った。同様に3ラウンド繰り返した。



I-2. SDGsゴールを仲間分け 14:45-[10]

- ◇ 17のカードを分類整理し、グループ毎にカテゴリーにタイトルをつけた。
- ◇ ギャラリー方式で、他のグループの分類の仕方を見て回った。
- ◇ ファシリテーターが、1つの分類の仕方として「5つのP」を紹介した。

【「17ゴールの分類」の成果例】



I-3. 途上国と日本 優先して取り組むべきゴールTOP3 14:55-[20]

- ◇ 途上国と日本、それぞれにとって取り組むべきゴールTOP3を、グループで話し合っって選んだ。
- ◇ いくつかのグループが選んだ3つのゴールと、1位に選んだゴールの理由を発表して共有した。

【「途上国と日本の優先課題TOP3」例】

途上国	・飢餓 (Goal2) ・貧困 (1) ・水 (6) ・健康と福祉 (3) ・教育 (4) ・産業と技術革新 (9)
日本	・ジェンダー (5) ・つくる責任つかう責任 (12) ・健康と福祉 (3) ・産業と技術革新 (9) ・働きがい (8) ・住み続けられるまち (11) ・エネルギー (7) ・気候変動 (13)

I-4. SDGsの進捗を把握しよう 15:15-[15]

- ◇ グループ内で、資料4 (SDGs レポート-目標はどれくらい達成されている?-)と資料5 (未来を変える目標SDGsと未来を変えるアイデア)を分担して読み解いた。
- ◇ 担当した資料について、①何について書かれた資料か、②読んで分かったこと、③最も印象に残ったことを紹介した。

- 休憩 - 15:30-[10]

## 2. SDGsのためのプログラム-6ヶ国の子どものストーリーとSDGs- 15:40-[52]

## 2-1. これはどこの国? ~ 子どもたちのストーリー 15:40-[40]

- ◇ ファシリテーターが番号を振ってグループを替え、グループでお題を決めて一言自己紹介をした。
- ◇ 資料6に書かれた6ヶ国と、その国のあいさつと数字が書かれたカードをマッチングした。
- ◇ グループ毎に、配られた3枚の写真が、6ヶ国のどの国かを考え、国名を付せん紙に書き出した。
- ◇ 写真のセットを他のグループに回して確認した。前のグループが考えた国が違っていたら、第2候補として国名を書き出した。
- ◇ 資料8(6ヶ国の子どものストーリー)を分担して読み解いた後、個人で資料9のワークシートに記入した。
- ◇ ワークシートを基に、自分が担当した国の子どものストーリーを紹介し合った。



## 2-2. 子どもたちを取り巻く問題・その国が抱える問題とSDGs 15:20-[25]

- ◇ 同じ国の子どもの資料を読んだ人が集まるようにグループを替え、「〇〇なわたし」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ グループで、読んだ資料の子どもを取り巻く問題やその国が抱える問題を書き出し、それらの課題が続いていくとどうなるのか派生的に書き出した。
- ◇ 書き出された問題を解決するために役立つことをポストイットに書き出し、該当する問題の近くに貼った。
- ◇ グループで成果物を見直ししながら、SDGsのゴールと関係あると思うところを相談して、SDGsシールを貼った。

## 【「子どもたちを取り巻く問題・その国が抱える問題とSDGs」の成果例】



## 2-3. 人類共通の課題を解決し、SDGsを達成するために必要なもの役立つことできること 15:45-[40]

- ◇ グループで、SDGsを達成するために各ステークホルダー(国際社会/日本/地域/個人)ができること・すべきことを考え、マトリクス表に書き出した。
- ◇ 成果物を回し読みで共有し、確かに!と思ったアイデアに個人で★印を付けた。
- ◇ 最後に、資料10(わたしの2030アジェンダ)のようなワークシートを用いて、個人の行動計画を考える作業を行うことが有効であることを、Fから説明した。

【「SDGsを達成するために必要なもの役立つことできること」の成果例】

国際社会	日本	地域	個人
<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い</li> <li>交換する</li> <li>交流</li> <li>協力・助け合い</li> <li>国・文化・性別に</li> <li>しぼらず協力</li> <li>情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他国を知る</li> <li>他国を正しく知る</li> <li>自国の課題に</li> <li>とくむ</li> <li>他国のよみ取り</li> <li>先進技術を知る</li> <li>SDGs課題</li> <li>エネルギー資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー自給自足</li> <li>地域の特長を知る</li> <li>地域のお宝</li> <li>人どうしを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国産品</li> <li>地産地消</li> <li>ものを長く使う</li> <li>5R</li> <li>正しく知る</li> </ul>

3. 1日目のふりかえり 17:03-[05]

◇ 本日の感想をグループ内で伝え合った。

第3回 学習主体の場をデザインせよ！ 参加型ワークショップの作り方を学ぶ！

知1. SDGsのゴール70項目 - SDGsのゴールを理解する -

II SDGsのゴール解説もした！ 知1は → 解説の理由 → 解説の理由 70項目 / 1人 = (3分) 45分 (20分 5分 (15分))

III SDGsのゴールの種類分けはこう！

IV 途国・日本 各2項目 優先して取り上げるゴールTOP3:?

V SDGsの今とこれから 2種の解説 (動の+静の)

① 何に？

② 誰に？

③ 最終的に？

途国	日本
1. 食料	7. エネルギー
2. 水	13. 気候変動
3. 健康	5. ジンダー
4. 教育	5. ジンダー
3. 健康 福祉	12. 持続可能な消費と生産

知識対スキル

課題のある社会 持続不可能

よび継

★ 17:08 1日目終了

● セッション3 「参加型で参加者を主人公に！ 場をアクティブに！」 8/28 10:00-12:04

1. オープニング+アイスブレイキング 10:00-[30]

- ◇ JICA 江口職員が JICA 中部の実施する開発教育支援事業について情報提供した。
- ◇ ペアをつくり、「今までに食べたものの中で1番おいしかったもの」をお題に傾聴で聞き合った。

2. 参加型手法を使う目的と手法の種類、手法の習熟 10:30-[37]

- ◇ ファシリテーターが、資料II (参加型学習・研修のファシリテートのポイントと手法) を基にファシリテーターの役割と参加型手法についてミニレクチャーした。

〈参加型手法を使う理由〉

- ・より多様な視点からクリエイティブに話し合うことが可能になる。
  - ・多様な視点や考え方がある人どうしが、共通の枠組みで話し合うことができる。
  - ・1つのテーマについてある枠組みに当てはめて分析することで、発見者同士共通理解を得られる。
  - ・話し合いの内容が可視化され、共有しやすくなる。
  - ・個人が考え、さらにグループで共に考えたプロセスが視覚的に残り、参加の満足感や達成感を得られる。
- “参加者が主人公になる”ということも、参加型手法を使うポイントである。



- ◇ 資料11に掲載された13の参加型手法を分担し、その手法を用いて考えるテーマ（お題）を手法1つにつき2つずつ考えた。
- ◇ 担当した手法について、①どんな手法か、②考えたテーマ（お題）をそれぞれ発表して共有した。
- ◇ ファシリテーターが、資料にはない手法（量的に捉える、時間軸で捉える）について説明した。



3. プログラムを作る5ステップの実践（個人作業）－ プログラム作りはストーリー作り － 11:07-[53]

- ◇ プログラムの作り方5ステップに沿って、個人でプログラム作りを行った。

1) ステップ0: テーマを決める

2) ステップ1: テーマを理解する

- ・参加型手法「ブレインストーミング」を用いて、テーマからイメージすること、テーマに含まれること、テーマから広がることを書き出した。

3) ステップ2: 自分の「ねがい」を見極める

- ・参加型手法「対比表」を用いて、参加者に「知ってほしいこと・気づいてほしいこと／考えてほしいこと・どうなってほしいのか（行動）」を書き出した。

4) ステップ3: 「ねらい」を定める

- ・これから作るプログラムの目標、プログラムを通して参加者に提供したいことを明確にし、文章化した。

(例1) ① \_\_\_\_\_ について知り、 \_\_\_\_\_ に気づく。

② \_\_\_\_\_ について考え、大切なことは何か共に確認する。

(例2) ① まちの課題を出し合い、問題の原因を探る。

② 望む町の姿を共有し、実現のための手立てを考える。

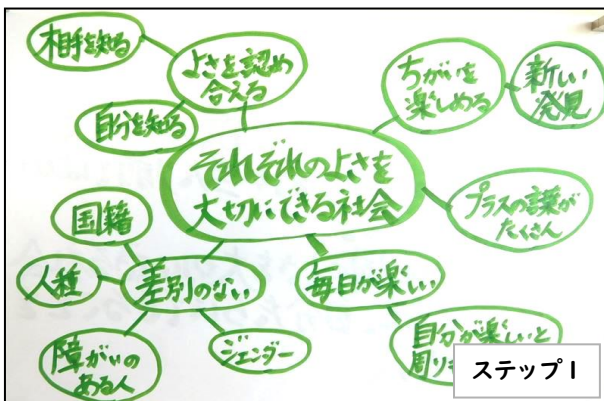
5) ステップ4: ストーリーラインを作る

- ・ステップ2で作った対比表に書き出されたものに、参加者の意識の流れに沿う（考えやすい）ように、順番に番号を振った。
- ・資料12（参加型プログラムの作り方5ステップ）の「4行詩」の例を参考にしながら、番号に従い、プログラムのねらい達成に向けた、起承転結（1文ずつ）のストーリーを作った。

6) ステップ5: 起承転結（4行詩）にアクティビティを当てはめる

- ・ステップ4で考えたストーリーライン1文に1つずつ、アクティビティを当てはめて、プログラムを考えた。

【「参加型プログラム作り5ステップ」の成果例】



知る・気づく	考える・行動する
<p>① 自分の国のことをよく知る。</p> <p>② 他の国の文化や習慣を知る。</p> <p>③ 自分の当たり前は当たり前ではないと気づく。</p>	<p>自分の国の文化や習慣を大切にする。</p> <p>自分の当たり前を人に押し付けない。</p> <p>④ 考え方がちがっても互いに認め合えるようにしていく。</p> <p>⑤ 社会 世界にとりフランスの行動ができる。</p>

## ねらい

- ① 他国の文化や習慣について知り、自分たちの当たり前が当たり前ではないことに気づく。
- ② それぞれの国のよさを大切にできる社会について考え、自分たちにできることを見つける。

ステップ3

(起) 日本の文化や習慣、日本人のよさをよく知る。

(承) 自分にとっての当たり前が当たり前ではないことに気づく。

(転) 自分にとっての当たり前が当たり前でなくなったらどうなるかを考える。

(結) それぞれのよさを大切にできる社会をつくるために自分ができること

ステップ4



- 休憩 - 12:04-[56]

タイトル: ちがいの広がる世界へ  
対象: 小中高学年へ中学生 (45分×2)

時間	プログラムの流れ				
10分	1. アイスブレイク 日本の好きな○○ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>名前</td><td>食物</td></tr><tr><td>場所</td><td>文化</td></tr></table>	名前	食物	場所	文化
名前	食物				
場所	文化				
15分	2. 日本の文化や習慣、日本人のよさ、は何? (リス)				
30分	3. 他国の文化や習慣を知ろう (クイズ)(シグナ法)				
20分	4. もし日本の文化や習慣、日本人のよさがなくなったら、否定されたりしたらどうなる? (派生回)				
15分	5. それぞれのよさを大切にするための100案を考え				

ステップ5

● セッション4 「参加型プログラムのブラッシュアップ」 13:00-16:20

1. グループで代表プログラムをブラッシュアップ 13:00-[100]

- ◇ ファシリテーターが番号を振ってグループを替えた。
- ◇ グループで、自作プログラムをそれぞれプレゼンした後、グループで協力してブラッシュアップするプログラムを選んだ。
- ◇ グループで協力して、選んだ1つのプログラムをブラッシュアップして模造紙に書き出した。



【プログラムのねらいと展開】

1. 7ルール～異文化理解のための7つの行動宣言～

<p style="color: green;"><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他国の文化や習慣について知り、自分たちの当たり前が当たり前ではないことに気づく</li> <li>・それぞれの国のよさを大切にできる社会について考え、自分たちにできることは何かを考える</li> </ul>	<p style="color: green;"><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本のことをよく知る</li> <li>2) ほかの国について知り、当たり前が当たり前でないことに気づく</li> <li>3) ロールプレイを通して、それぞれの国のゆずれないものを考える</li> <li>4) それぞれの国のよさを大切にできる行動宣言をする</li> </ol>
---	--

## 2. ハクモクレンから考える地球温暖化

<p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に植えられている樹々について知り、自然(木)の大切さに気づく</li> <li>・地球温暖化を防ぐために、自分、地域、企業や国のできることを考える</li> </ul>	<p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校の植生を調べる</li> <li>2) 木の役割を知り、地球温暖化について考える</li> <li>3) 自然との共生のために、地域、日本、世界は何をしているか知る</li> <li>4) 地球、自然のために自分が何ができるか考え、実行する</li> </ol>
--	--

## 3. 自分らしさで未来をつくる!

<p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のいいところ・よわいところを知り、自分のよさを活かす生活を語る</li> <li>・みんなが自分らしく生きるためにできることを見つける</li> </ul>	<p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分のいいところ・よわいところって何?</li> <li>2) 自分が自分らしく生きるために必要なものは?</li> <li>3) 自分の人生に影響を与えたものは?</li> <li>4) みんなが自分らしく生きるために</li> </ol>
--	--

## 4. 天王川公園で Let's ゴミッション

<p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天王川公園のいいところと課題に気づく</li> <li>・持続可能な公園にするためにできることを考える</li> </ul>	<p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 天王川公園のいいところ見つけ</li> <li>2) 天王川公園の、あれ…??</li> <li>3) 天王川公園のゴミ問題を放置すると??</li> <li>4) 持続可能な公園にするには?</li> </ol>
--	--

## 5. 私も世界のワンピース

<p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉について知り、その意義に気付く!</li> <li>・目的意識を持って福祉活動に取りくむ姿勢を育てる!</li> </ul>	<p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 福祉とは何か考える</li> <li>2) 福祉が改善するとどうなるか知る</li> <li>3) 福祉がないとどうなるか考える</li> <li>4) 何ができるか考える</li> </ol>
--	--

## 6. 備えよう名古屋。みんなで!

<p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害と地球環境の変化について知り、未然に防ぐ方法、備えを共有する</li> </ul>	<p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身近な自然災害を考える</li> <li>2) 学校周辺の危険性を考える</li> <li>3) 危険を取り除く方法を考える</li> <li>4) 行動宣言</li> </ol>
---	---

## 2. 10分プレゼン～よかったところ／よりよくするための提案の確認 14:40-[100]

- ◇ グループごとに、プログラム概要を発表し、一部を実際にデモンストレーションした。
- ◇ グループごとの発表を受けて、よかったところとよりよくするための提案をグループで書き出した。
- ◇ ほかのグループから受け取った、よかったところと提案を確認した。

## 〈参加型プログラムの評価の指標〉

- |                               |                            |
|-------------------------------|----------------------------|
| ・ねらいは達成できるか                   | ・参加者の意識の流れに沿ったストーリーラインか    |
| ・新たな情報や発見、気づきはあるか             | ・参加者同士が肯定的に出会い、学びあえるか      |
| ・楽しさはあるか                      | ・参加型手法は適当か、飽きさせないか         |
| ・時間配分は適当か                     | ・もっとやってみたい!もっと知りたい!次につながるか |
| ・参加者が主役になれるか=効力感、達成感を得られるか    |                            |
| ・インプット、考える、アウトプットのバランスはとれているか |                            |



● セッション5 「実践報告フォーラムに向けた確認・準備」 16:20-17:28

1. 第3回から第4回+フォーラムまでの説明 16:20-[20]

◇ 事務局から、この先の研修と実践報告フォーラムの内容と、その準備について資料を基に説明した。

2. フォーラムで提供する体験プログラムの選定と有志チームの結成 16:40-[10]

◇ グループごとに作成したプログラムのうち、フォーラムで提供するといとおもうプログラムに投票した。

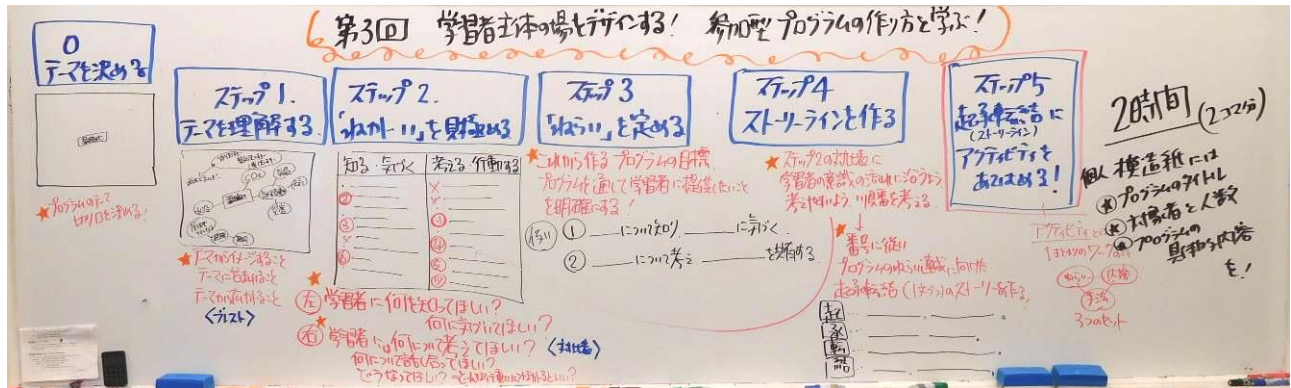
◇ 選出されたプログラムをフォーラムで提供する有志を募った。

3. 第3回ふりかえり 17:50-[09]

◇ 2日間をふりかえり、学んだことや感想を3つA4用紙に書き出し、グループで紹介し合った。

4. 事務連絡 17:59-[11]

◇ JICA 堤推進員と江口職員、受講者から、イベント等について案内した。



★ 17:10 2日目終了

— 第3回研修の振り返り —

- ◇ 授業実践をこれからするにあたりいくつかの手法を学ぶことができた
- ◇ 個人やグループでプログラム作りをして交流ができてよかった
- ◇ ファシリテーターとして大事な役割を学ぶことができた。教育現場で役立てていきたいと思った
- ◇ SDGs と自分の生活とのつながりが見えるような活動が大切! だれかのためにも大切だけど、自分のためにも大切!
- ◇ アクティビティをつくる上でイメージをふくらませながら流れをくむことが必要。イメージがあまいと流れていかない!
- ◇ 数ある手法の中で使いたいものを使うのではなく、やりたいことに最も合った手法は何かを考えて実践する
- ◇ ポスターセッションでは、こちらが気づけないことも多く知ることができてよかった
- ◇ プログラム作り→実践してみると、机上では出てこなかった課題が見つかる
- ◇ 共感してもらえたり、同じ考えの人がいると嬉しい。→やってみようと思った
- ◇ ねらいをおさえ、起承転結で流れを考えるというプログラム作りの手法を学べてよかった
- ◇ 参加型の手法を実践する際の言葉がけや説明が難しいと思った
- ◇ 6ヶ国の国の様子を知り、支援を必要としていることが分かり、行動したいと思った
- ◇ 1人では考えられなくても、仲間がいれば形になる! 仲間って大切
- ◇ 参加型はワクワクする。時間があつという間!! 生徒にもそう思ってもらえるような流れのある実践をする
- ◇ 参加型の手法はどんな場面にも応用することができる。いろいろなパターンを実践して、自分のものにしていく!!
- ◇ プランを示して GOOD などところとアドバイスをもらえたことで、前向きに指摘を受け入れられました
- ◇ ストーリーラインを作り、流れのあるプログラムを作ることが大切だとわかった

- ◇やっぱりみんなと意見を出し合って協力、ブラッシュアップできるのがすばらしい!みんな頼もしい
- ◇2時間のプログラムや、プラスマイナスの付せん紙、アクティビティのアイデアをぜひ活用したい!
- ◇ねらい、活動がブレないようにする!たまには立ち止まって、批判的に見てみる!
- ◇同じテーマでも切り口の入り方でプログラムの流れが変わるので、切り口も大事!
- ◇1人でプログラムを考えるよりも、みんなで考えた方がいろいろな案が出る
- ◇行動変容に繋がるプログラムにしたい(宣言で終わらずに、、、)
- ◇プログラムのつくり方がわかったので、2学期の実践のイメージが湧いた(少しだけ!)
- ◇フォトランゲージなど、視覚にうたえる教材は、子どもにとって取り組みやすい
- ◇ねらいと活動の整合性がきちんとなっていないと、大人でも「?」となってしまう
- ◇プログラム作りが想像していたよりも、大まかな作り方が分かりやすくて安心した。けど、細かい部分はちゃんと見ていかないとと思った
- ◇グループでプログラムを作るのが、難しかったけどたのしかった!いろいろな人のいろいろなアイデアを知れたから、活用して自分で実践していきたい
- ◇SDGsを自分事にするプログラムはとても参考になった、やってみたいと思った
- ◇いつもは授業の空き時間を使って参加型のアクティビティを入れるというのが多かったので、流れのあるプログラムを作る流れが新鮮で学びになりました
- ◇SDGsの教育実践を学んでいるところなので、とても深い学びができました
- ◇人に何かを伝えるときは、板書も使うなどもう少し工夫がしたいと思った
- ◇改めて、SDGsを自分事としてとらえる大切さ、小さな行動を積み重ねる大切さを感じた
- ◇授業の組み立て方のイメージが少しいた。「ねらい」が大事!
- ◇SDGsの達成状況で、日本が18位は健闘している。ジェンダーギャップが解消できればもっとよい。どうすればよいか、生徒に考えさせたい
- ◇1日が長いかなと思っていたけれど、あっという間だった。みんなで頭をもちよって話し合うと、あっという間
- ◇学校でも参加型を多く取り入れて、あっという間な授業を多くしたい
- ◇「ねらいを明確にもつ」ということが、いつも難しい。なかなかできない
- ◇手法はいろいろあるので、ねらいがブレないように明確に
- ◇自分事にするために、身近なことをテーマにする、思考の流れを大切にすることなどの工夫
- ◇様々な手法を適材適所で組み合わせ、流れのあるプログラムをつくること
- ◇ワークショップやりたかった!
- ◇プログラム作りができそう
- ◇SDGsの授業づくりのヒント
- ◇楽しく参加型
- ◇プログラム(作り)と手法の組み合わせ
- ◇プログラム作りのステップ0~5
- ◇SDGsの日本の現状と課題
- ◇流れのあるプログラムをつくること
- ◇アイデア、考えを引き出す
- ◇「ねがい」と「ねらい」大切!
- ◇活動を考えるのってわくわくする!
- ◇みんなで考えるのってたのしい!
- ◇考えをつなげる難しさ
- ◇手法が改めて確認できてよかった
- ◇アイスブレイクのネタが増えました
- ◇この研修は何回受けても新鮮です
- ◇傾聴はあらゆる場面で使える技法
- ◇何を学べそうかさぐる
- ◇タイトルをつけるのムズカシイ
- ◇楽しいを忘れがち
- ◇みんなで1つのものを作り上げるのって難しい
- ◇参加型手法の種類がたくさんあることを知った、使いたい
- ◇身近なことがSDGsに関わることを改めて実感した
- ◇参加型はよく考えれば自分たちでつくれる
- ◇周りの意見を聞くと、多くのことを得られる!
- ◇みんなで考えるのは楽しい!勇気出る!
- ◇考えるためのガイドラインがあって、とても安心
- ◇願いやねらいが明確だと方向性が定まる
- ◇考え方の枠組みを適材適所で使うことで参加型になる
- ◇プログラムを組み立てる際には「ねらい」を明確にもつこと
- ◇ねらいを達成するのに必要なアクティビティを選ぶこと
- ◇参加者の興味関心に沿う流れにしたいと思った
- ◇みんなで1つのワークを考えるのが楽しかったです
- ◇ニコちゃんマークは気持ちが前向きになる
- ◇授業計画はねらいを伝えるためのもの(再認識)
- ◇物事を多角的、多面的に見ることができるようになった
- ◇SDGsがより学びたくなった。知識を学びたい、実践したい
- ◇参加型手法の13例、いずれも試してみたい
- ◇周りにも意見を聞くとより良いものができると感じた
- ◇ファシリテーターとしてやるべきことを再確認できた

◇思考の流れにそったプログラム  
◇ねらいを明確に!  
◇楽しく学ぶためのアクティビティが大切

◇どんなテーマでも開発教育になりうる  
◇プログラムの作り方をやってみて、具体化された  
◇プログラム作りの細分化したステップを学ぶことができた

---

－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・セッション2-1. 「SDGs カード」…公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ウェブページ  
<https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs>
- ・セッション2-1. 「SDGs レポートとソーシャルアクション」…持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (SDSN) / ベルテルスマン財団 (2021)、認定 NPO 法人 開発教育協会 (DEAR) 『Social Action Handbook—テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』(2017)
- ・セッション2-1. 「未来を変える目標 SDGs と未来を変えるアイデア」…一般社団法人 Think the Earth 『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』(2018)
- ・セッション2-2. 「6ヶ国の子どもたちのストーリーと SDGs」…公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 『先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標 -SDGs- アクティビティ集』 ウェブページ  
[https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs\\_activity/](https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs_activity/)
- ・セッション3-2. 「参加型学習・研修のファシリテートのポイントと手法」…名古屋市 『環境学習実践者向け ESD ガイドブック「ESD はじめの一步」』(2015) ※NIED・国際理解教育センター伊沢令子執筆箇所



# V 中間会合

## 開催概要

- ◆ 日時: 第1回 2022年11月26日(土) / 第2回 2023年1月21日(土)  
実践体験ワークショップ検討会 13:00~17:00、実践フォローアップ 16:00~17:00
- ◆ 場所: JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数: 実践体験ワークショップ検討会  
[第1回] 受講者 15名、JICA 1名、NIED 3名 合計 19名  
[第2回] 受講者 14名、JICA 1名、NIED 4名 合計 19名  
実践フォローアップ  
[第1回] 受講者 2名、JICA 2名、NIED 3名 合計 7名  
[第2回] 該当者なし
- ◆ ファシリテーター: (特活)NIED・国際理解教育センター伊沢令子

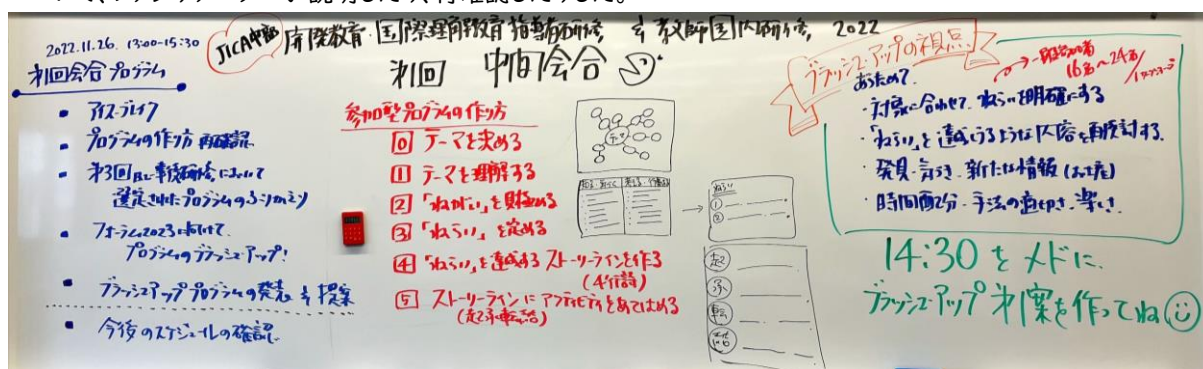
## ねらい

- ① 実践報告フォーラム 2023における受講者有志による実践体験ワークショップの実施が円滑に進むようプログラム作成支援、当日の準備支援を行う。
- ② 受講者の各現場での実践状況を共有し、助言する。

## プログラムの内容

### ● 第1回 実践体験ワークショップ検討会

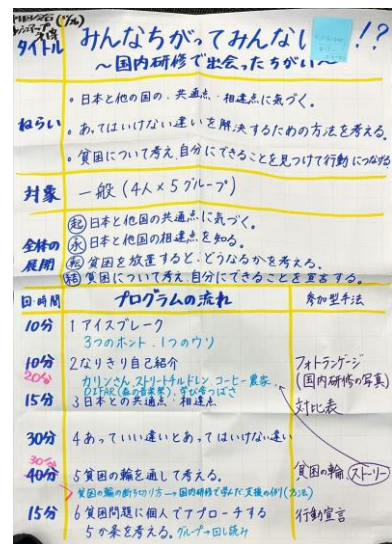
- ◇ 「懐かしいイラストカード」を使ったアイスブレイキングを行った。
- ◇ 板書を基に、プログラムの作り方、プログラム再構築の指標、中間会合のスケジュール、ワークショップの対象者について、ファシリテーターが説明したり、再確認したりした。



- ◇ 第3回研修で作成したプログラムを確認し、それに対する他グループからの提案を参考にしながら、実践報告フォーラムの実践体験ワークショップで提供するプログラムを各グループで検討し、模造紙に書き出し、全体で発表した。



- ◇ 他のグループメンバーとNIEDスタッフが、実践体験ワークショップで提供するプログラム案に対して、良いと思うところ、より良くするための提案を付せん紙に書き出した。
- ◇ より良くするための提案を受けて、各グループにおいて時間まで、再度プログラムを見直した。
- ◇ 第2回中間会合までの日程として、以下のことを伝えて、終了した。
  - 11/26(本日) 第3回研修時のプログラムをブラッシュアップし、第2案作成←仲間からの評価と提案
  - 12月未まで 修正案をプログラム様式にまとめてメール送付→NIEDからの追加提案
  - 1/21(第2回) 完成版を作り上げ、必要な備品、資料を確定させる。



### ● 第1回実践フォローアップ

- ◇ 個人の実践について、フォローアップを希望する受講者に対して、NIEDスタッフが個別に相談を行った。

### ● 第2回実践体験ワークショップ検討会

- ◇ アイズブレイクとして、会場を立ち歩き、以下のことを自分たちのグループメンバー以外の4人と共有した。
  - ① 今年の漢字1文字と理由
  - ② 私の実践…こんな実践したよ
- ◇ 様式に落とし込んだプログラムをチーム内で共有したうえで、以下の手順で、ブラッシュアップを行った。



- ① グループを代表して1人がメッセンジャーとなり、隣のグループに出かけ、プログラム案を説明する。
- ② プログラム案を聞いたメンバーは、「厳しくも愛のある質問※」をする。
- ③ メッセンジャーは、もらった質問をすべてA3用紙に書き留める(答えられることはその場で答える)。
- ④ 他のグループからもらった質問を自分のグループで共有し、プログラムをブラッシュアップする。
- ⑤ ブラッシュアップしたプログラムをフォーラムで実践する際の必要な準備について確認する。

※ 提供したいことがより明確になる質問、プログラムの流れをよりつながりのあるものにするための質問  
参加者がつまづきそうな部分(疑問がわく部分)に気づけるような質問

<質問例>「その言葉の意味は?」「こちらから伝えること、参加者に考えてもらうことはどこですか?」

「その方法でスムーズに行きますか?」「具体的にどんな意見を期待していますか?」

- ◇ 2/12(日)までに、所定の様式で、最終プログラム案と使用する教材、備品を記したシートを提出する旨、確認し終了した。
- ◇ 17:00 後、グループによっては、18:00 までさらに検討を行った。

# VI 実践報告シート

## ■ 実践報告シート一覧

No.	名前	対象	時間数	テーマ	タイトル
01	天野直子	小学校6年生(131名)	8	環境	地球に暮らす生き物とのつながりを考えよう
02	新井裕二	日本語教育センター留学生(11名) 高等学校生徒(3名)	1	人権、多様性	異文化理解から多様性を知る
03	飯田真央	高校1年生(39名)	2.5	人権、共生	共存を目指して
04	池田美輝	小学校6年生(82名)	22	環境	未来へつなげ！城南グリーン
05	市原健	小学校3年生(34名)	5	国際理解	世界のみんな、こんにちは！
06	伊藤彰 K	高校1～3年生(講座選択者17名)	9	貧困 異文化理解	Stop Poverty ～貧困をなくそう～
07	伊藤聡子 K	小学校5年生(112名)	9	人権、貧困	あなたの幸せは わたしの幸せ ～ふだんのくらしのしあわせ～
08	伊藤知世 K	小学校5年生(39名)	9	人権、貧困	わたしたちみんな地球人
09	大河仁美	高校1年生(172名)	24	環境、人権 キャリア	発見しよう新たな自分 ー西高SDGs探究チャレンジー
10	大島風花	小学校4～6年生(26名)	3	多様性	わたし・あなた・みんなを知ろう
11	加藤里英	小学校5年生(29名)	16	人権、共生	ともに生きる ～アナタも ワタシも Live Together～
12	菊地純奈 K	小学校3年生(29名)	4	環境	もしかしたら、この生ごみは〇〇かもしれない？！
13	高口涼 K	小学校2年生(29名)	4	食、国際理解	国旗 & 食べ物 de 国際理解
14	児玉やこ K	中学校1年生(130名)	2	人権、貧困	世界の仲間と笑顔に ～みんな幸せ、だから幸せ～
15	後藤翔太	高校1年生(36名)	6	教育	教育問題解決世界会議
16	澤田直美 K	高校2年生(40名)	2	食、共生貧困	食でつながる世界と日本
17	地頭綾香 K	高校1年生(36名×2クラス)	3	貧困	Well-being な社会を実現するために～貧困を事例として～
18	鈴村友子	高校1年生(40名)、留学生(2名)	1	多文化共生	日本に来ている人々が困っていることは何だろう？
19	須田綾子	高校3年生(35名×2クラス)	7	異文化理解 多文化共生	「ウソ」から考える異文化理解
20	田中真弓	小学校4年生(29名)×4クラス	9	SDGs、人権 多文化共生	SDGs ～未来のためにわたしたちができること～
21	堤真人	小・中学校教諭	2.5	平和、教育環境	SDGs×授業づくり
22	遠山桂吾 K	教育センター職員(37名)	1.5	貧困	SDGs で世界を見てみよう
23	中田梨颯	中学校1～3年生 (約30名×15クラス)	11	SDGs、学級 人権	SDGsで全校をHAPPYに！
24	中村充	高校1年生(36名)	3	共生地域づくり	わたしの「まち」の未来を考える
25	西尾亜利紗	中学校2年生(25名)	1	人権、格差貧困	「オークション」
26	服部誠	高校1・2年生の希望者(20名)	4	国際理解 共生、平和	韓国の高校生と日韓問題を語ろう
27	布藤祐子	高校1年生(32名)	2	人権	差別について考えよう
28	蒔田憲一	中学校3年生(161名)	12	国際理解 共生、キャリア	中学生×企業訪問×SDGs×スタート
29	松岡萌梨	中・高・大学生・一般:40名、 地球市民講師:25名	2	難民、避難民	母国を追われて 異国で生きるということ
30	真鍋裕可里	小学校6年生(30名)	10	環境	ゴミヘラシテミナイ??
31	森谷朋香 K	小学校5年生(21名)	8	環境	取り組もう！ゴミミッション！！
32	安井葵	社会人(各7名)	4	人権、共生 キャリア	本当の豊かさって何だろう??
33	山下 歩	中学1年生(30名)	2	異文化理解	オーストラリアってどんな国？
34	山田勝己	高等専修学校1年生(26名)	5	環境	人類と地球を減ぼす海洋プラスチック問題
35	山本実穂 K	小学校5年生(31名)	4	多様性、人権	教室ダイバーシティ ～ともに暮らす～
36	諏訪部景子 K	小学校5年生(97名)	7	人権、教育貧困	誰もが夢をつかめる世の中に

凡例:「K」…教師国内研修受講者



## 地球に暮らす生き物とのつながりを考えよう

<b>所属</b>	愛知県名古屋市立熊の前小学校		<b>実践者</b>	天野 直子	
<b>対象</b>	小学校 6 年生 (131 名)		<b>実践日</b>	2022 年 10 月～11 月	
<b>実践教科</b>	外国語		<b>時間数</b>	8 時間	
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅危惧種について知る。</li> <li>・人間と自然環境の関わりについて考える。</li> <li>・食物連鎖について調べて発表し、自分にできることを考える。</li> </ul>				
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>		
	1-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 絶滅危惧種とは？…テーマについて知る</li> <li>・絶滅危惧種クイズ:動物の写真を見て、絶滅危惧種かどうかを考える</li> <li>・絶滅危惧種とは？:絶滅危惧種について知っていることを書きだす 【ブレインストーミング】</li> <li>◆ 世界から虫が消えたなら…小さな命の果たす役割について考える</li> <li>・ゴキブリも守る？守らない？:虫がいなくなると、世の中はどのようになるかを書きだす 【タイムライン】</li> </ul>	東京書籍「New Horizon Elementary 6」p.48「環境について考えよう」活用  参考資料 環境省レッドリスト、愛知県レッドリスト 名古屋市役所ホームページ内 名古屋市衛生研究所「身の回りの虫たち」を参照  タブレット 共有ノート機能を活用		
	3-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 絶滅の原因は？…人間と生き物とのよりよい関わりについて考える 【因果関係図】→【ブレインストーミング】に変更</li> <li>◆ 解決のためにできることは？…行動できる人をふやす</li> <li>・すぐに自分でできること、時間が掛かるがみんなのできるといいことなどを 書きだす 【ランキング】→【ブレインストーミング】に変更</li> </ul>			
	5-6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 生き物について調べよう…自分たちができること①</li> <li>・生き物のすみか、食べるもの、天敵、特徴などを調べる</li> </ul>			
	7-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 調べたことを伝えよう…自分たちができること②</li> <li>・生き物のすみか、食べるもの、天敵、特徴などを伝える</li> <li>◆ 学んだことを振り返ろう…自分たちができること③</li> <li>・発表を通して学んだこと、生き物との関わりについて考えたことを振り返る</li> </ul>			
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加型手法を用いたことで、絶滅危惧種について個々が得た情報を共有しながら学習を進めることができ、地球環境の現状や生き物全般への関心を高めることができた。</li> <li>・学んだことを元に、絶滅危惧種を危機から守ったり、地球環境を保全したりするために自分にできることを考えることができた。</li> <li>・身近な生き物について調べたことを、それぞれの生き物のつながりに留意して発表することができた。</li> </ul>				
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅の原因をある程度考えることはできたが、因果関係図やランキングなど別の参加型手法を用いて、原因やそれぞれの課題をより深く追究して考えることはできなかった。</li> <li>・他教科とのつながりをもって学ぶこと、限られた時間でも取り組めるようにすることに課題が残った。</li> <li>・学習を終えた時点で参加型の手法を再度用いて、考えの交流をすることで、理解が深まる様子などを比較できると良かったと思う。</li> </ul>				
<b>備考</b>	生物の絶滅の原因として環境の悪化を挙げる意見が多く挙がったので、その後の授業で1つの切り口として「仮想水」の考えを紹介した。自分たちが作った「オリジナルバーガー」のメニューで用いられた仮想水の量を計算し、食べ物ができるまでのどのくらい水が使われてきたのかを知ることで、生き物を守るために自分ができることは何かを改めて考える機会とすることができた。				

## 異文化理解から多様性を知る

<b>所属</b>	学校法人 常葉大学附属橘高等学校	<b>実践者</b>	新井 裕二
<b>対象</b>	日本語教育センター留学生（11名） 常葉大学附属橘高等学校生徒（3名）	<b>実践日</b>	2022年 12月
<b>実践教科</b>	総合的な探究の時間(地域探究)	<b>時間数</b>	1時間
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者理解と自己理解をし、自他の違いを知る</li> <li>・異文化理解を深め多様性を知る</li> <li>・多様性を知り、人権を尊重する意識づくり</li> </ul>		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	<p>※Fa=ファシリテーター                      予め4人グループで着席                      【アイスブレイク】(自己紹介)                      自己紹介の順番を決める→無言でじゃんけんぽん                      ワーク1 イメージイラスト                      Faが言った言葉からイメージしてA4用紙に絵を書く                      ※抽象的な言葉                      「生き物」「手足がある」「長い」「目がかわいい」「きれいな色」                      ワーク2 【ブレインストーミング】                      方法(1)「自分が充実し、豊かな生活を送るために必要なもの」を                      付箋(黄色)に5つ書いていく&lt;個人ワーク&gt;                      →順番に模造紙に貼りながら書いた理由を話す                      (2)「すべての人が充実し、豊かな生活を送るために必要なもの」を                      付箋(ピンク)に思いついたら書いて模造紙に貼る                      (現在出てないもの)                      (3)【KJ法】で付箋を分類して、その分類名を考えて模造紙に書く                      (4)他のグループで考えた模造紙を立ち歩いて見る                      ペンを持って歩き、良い意見や分類名に☆マークを書く                      講義 動画で説明 人権に関する動画(5分程度)                      人権とは? について簡単に理解できる説明                      ワーク3 【対比表】                      方法(1)「すべての人が充実した生活をするためにすべきこと」を                      ワーク2で使った模造紙の裏に対比表を作成する。                      「自分」「社会・地域」について話し合う                      (2)グループで中でも大切なものが何かそれぞれ2つに絞る                      (3)グループごと全体に発表                      振り返り                      方法(1)グループで話し合ってきた事は SDGs のゴールの何番にあたるかを調べたり、話し合う                      (2)今回学んだ事、気づいた事をプリントに記入                      (3)グループ内で発表</p>	<p>付箋 A4用紙(1人1枚)</p> <p>模造紙(グループ1枚) 付箋(黄・ピンク) マジックペン</p> <p>動画 人権教材</p> <p>SDGs ゴールが書かれたプリント 振り返りプリント</p>
<b>成果</b>	もともと異文化の集まりである集団で行うことで、それぞれのワークショップで異文化を知る機会になった。また文化の違いやそれぞれの文化を学ぶことで互いの距離が近くなり、時間が経過するにつれて会話が増え、より良い文化交流の機会にもなった。		
<b>課題</b>	SDGs という用語や意味を知っている留学生が少なく、説明する時間をとることができなかった。(実態の把握不足)SDGs の基礎知識を学ぶ機会をもった後で行えば、異文化理解や多様性についてより SDGs への結びつきが生まれたと感じた。		
<b>備考</b>	異文化交流の機会があるので、より SDGs の多様性理解を深めるように展開していきたい		

共存を目指して


所属	愛知県立知立東高等学校	実践者	飯田 真央
対象	高校1年生(39名)	実践日	2022年11月~2023年1月
実践教科	総合的な探究の時間・学級活動	時間数	2.5時間
ねらい	・人権週間の前に、身近な人権問題に気付かせる ・現在来日している留学生の気持ちを考え、学校生活を楽しむための方法について考えさせる。 ・知立市に住んでいる外国人との共存について考えさせる		
実践内容	回	プログラム	備考
	1 (50分)	<b>人権ってそんなに身近なの？</b> ①「自分を自分にさせてくれているもの」 ○これがなければ生きていけない！10個【ブレインストーミング】 ○グループで共有→グルーピング【KJ法】 ○「人権」とは何か話した ②三段論法「日本人は○○だ」 ○「日本人は…だ」「女性は…だ」「男性は…だ」について個人で考える ○「自分には当てはまらない」というものを話し合い、全体に発表 ③世間さんへ ○ワークシートを読み「世間」とは誰かについて意見をグループ内で共有 ○「偏見・差別の違い」について話した	タブレットを用いてロイノート使用
	2 (30分)	<b>異文化って不安</b> ①バーンガ ○振り返りシートを使用し、日常の中のどの場面で異文化を感じるかについてまとめ、グループで共有 ○留学生の気持ちを一緒に考え→全体で共有 ○総合的な探究の時間に行った「知立市地域課題研究」の中で挙げられた「外国人居住者のゴミ問題」について、再びグループで話し合った	ワークシート配付
	3 (50分)	<b>身の回りで困ってる人いる？</b> ①社会問題をまとめよう ○身の回り、世界の「困っていること」10個【ブレインストーミング】 ○共有、まとめ【二元軸】 ②「解決するために役立つもの・阻むもの」 ○グループでまとめる【対比表】 ③よりよい未来に！ ○必要なことを全員で考える	タブレットを用いてロイノート使用
成果	人権を身近に感じ、また無意識に持っている固定概念に改めて気付くことができたようだ。バーンガの経験から、留学生の気持ち、接し方について考えるよい機会となった。また、知立市の課題として挙げられていた知立団地でのゴミ問題について、1学期とは異なった視点で考えることができた。		
課題	実施時間を捻出することが難しく、また実施日も連続して行うことができなかった。そのため限られた時間内に実施者のしたい活動を詰め込みすぎてしまい、ひとつひとつの活動が全て中途半端になってしまった。生徒自身が授業の意図を得ることが難しかったように思う。まずは時間の確保が課題である。		
備考			



未来へつなげ！城南グリーン

所属	愛知県岡崎市立城南小学校	実践者	池田 美輝
対象	小学校6年生(82名)	実践日	2022年4月～11月
実践教科	総合的な学習の時間・学級活動	時間数	22時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代々引き継がれている学校に植えられたハクモクレンや、木の生長を観察し、木の大切さに気付く。</li> <li>・地球温暖化の原因と木の関係について調べる。</li> <li>・地球温暖化を調べ、自分ができることを考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	毎月1回	<p>&lt;ハクモクレンとの出会い&gt;</p> <p>1. 学校に植えられているハクモクレンの生長を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木の特徴を観点ごとに、月に1回観察する。</li> </ul> <p>&lt;自然のよさに気付こう&gt;</p>	<p>&lt;用意するもの&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察カード</li> <li>・タブレット端末</li> </ul>
	1	<p>2. 学校と自然の絵を描く。(アイスブレイク)【イメージ図】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎が書かれた紙に、学校に植えられている植物の絵を描く。</li> </ul>	・ワークシート
	2	<p>3. 「もし、小学校に木がなかったら、どうなるか」を考える。【派生図】</p> <p>&lt;校内の自然の追究学習&gt;</p>	
	3、4	<p>4. 学校に植えられている木の特徴をタブレットで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一本担当の木を決め、特性を調べる。</li> <li>・樹木マップの制作に取り組む。</li> </ul> <p>&lt;自然との関わり方を知ろう&gt;</p>	・タブレット端末
	5、6	<p>5. 金原造園からハクモクレンについての話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事内容、ハクモクレンの手入れの仕方や自然のよさなどについて話を聞く。</li> <li>・ハクモクレン一本一本を見て、木の様子を知る。</li> </ul> <p>&lt;地球温暖化を調べて、まとめよう&gt;</p>	<p>&lt;インタビュー&gt;</p> <p>金原造園</p>
	7	<p>6. 地球温暖化と現状を調べる。</p>	・タブレット端末
	8	<p>7. 地球温暖化に対する地域や国、企業の取り組みを調べる。</p>	・模造紙
	9	<p>8. 地球温暖化に対して、自分たちに何が出来るかを考える。</p> <p>【できることビンゴ】</p>	・画用紙
	10	<p>9. 地球温暖化とSDGsとのつながりを考える。</p> <p>&lt;追究内容を発表しよう&gt;</p>	
	2日間	<p>10. 学校行事(城南シティカーニバル)で追究した内容を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクモクレンや木の特徴、自然のよさ、地球温暖化について、ブースごとに、発表する。</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、木の大切さに思う児童を育成することができた。</li> <li>・地球温暖化について、自分たちの身近な問題として捉えることができた。</li> <li>・派生図を使い、チーム学習を行うことで、児童が主体的に学ぼうとする姿が見られた。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化について、自分のできることを考えることができたが、継続的に、行動し続ける児童を育成する必要がある。</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践のまとめとして、卒業を前に、「植樹の会」を開き、後輩へ受け継ぎ、地域の人へ伝える。</li> </ul>		

## 世界みんな、こんにちは！

所属	愛知県長久手市立東小学校	実践者	市原 健
対象	小学校3年生（34名）	実践日	2023年1月～2月
実践教科	総合的な学習の時間・道徳	時間数	5時間
ねらい	・ 他国の人々に関心をもって進んで関わりたいという思いをもち、実際に関わりをもつ。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆ 世界とつながる準備(1)</p> <p>— 他国の人々に関心をもつきっかけづくり —</p> <p>① 世界の国をどれだけ知っている？【ブレンストーミング】</p> <p>② 道徳教材「マサラップ」で、他国の人々に関心をもつ。</p> <p>③ 「世界の国旗クイズ」で、他国の特色ある文化を知る。</p>	<p>・ 光村図書「道徳3」</p> <p>・ 「世界の国旗クイズ」</p> <p>参考：</p>
	2・3	<p>◆ 世界とつながる準備(2)</p> <p>— 他国の人々を身近に感じ、関わりたいという思いをもつ —</p> <p>① 世界各国に住む8人の子どもの写真資料を見て、「いいね！」と思うことに☆マークを付けるとともに聞きたいことを書き込む。【フォトランゲージ】</p> <p>② 全体で共有する。【回し読み・ギャラリー方式】</p> <p>③ 次回、カメルーンに住む人とオンラインで交流することを聞いたうえで、カメルーンの紹介動画を見る。</p> <p>④ 資料「カメルーンの子どもたち」を見て、カメルーンに住む子どもたちに「聞きたいこと」を書き込む。</p>	<p>・ 岩崎書店「世界の子どもたち」</p>
	4	<p>◆ 世界とつながる(1)</p> <p>— カメルーンの暮らしを、ZOOMで —</p> <p>① オンライン上(ZOOM)で、カメルーンの暮らし(衣食住)や学校の様子を教えてもらい、質問にも答えてもらう。</p> <p>② カメルーン人で同学年の子どもたちからのメッセージ動画を見る。</p>	<p>・ カメルーン在住の JICA 海外協力隊隊員に講師をお願いし、児童の「聞きたいこと」をもとに授業内容を検討した。</p>
	5	<p>◆ 世界とつながる(2)</p> <p>— カメルーンみんな、こんにちは！ —</p> <p>① カメルーンの子どもたちにお礼のメッセージ動画を送りたいという意見をもとに、動画の内容を考える。</p> <p>② メッセージ動画を撮影して送る。</p>	
成果	開発教育で重視されている「行動につなげる」ことを目指した。第2・3回の実践では「友達になりたい！」という児童の意見が非常に多く、その思いを第4・5回の実践に生かすことができた。メッセージ動画のやり取りという間接的な交流だったものの、児童にとっては心が通った本物の交流となったという確信がある。		
課題	今回協力してもらった JICA 海外協力隊の隊員から、日本の学校との交流を望む隊員がたくさんいることを教えてもらった。他国の現在の様子を学ぶ仲介役として、今後も積極的に関わりをもちたい。		
備考	実践で扱った資料は全て、白地図にまとめていった。		

# Stop Poverty ～貧困をなくそう～

所属	愛知県私立黄柳野高等学校	実践者	伊藤 彰
対象	高校1～3年生(講座選択者 17名)	実践日	2022年 11月～12月
実践教科	総合的な探究の時間	時間数	9時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールを通して、日本とのつながりを知り、世界を身近に感じる</li> <li>・ネパールを通して貧困問題の現状を知り、自分事として捉え、私たちに何ができるか考え実行できるようになる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1・2	<p><b>□ネパールと日本のつながり、共通点について知り、肯定的に出会う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 4枚の写真(ネパール)を見せて、どの国かをグループで言い当てる</li> <li>▪ 写真から想像するネパールについてグループで自由に意見を出し合う</li> </ul> <p style="text-align: right;">【フォトランゲージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ネパールクイズに挑戦し、ネパールと日本の共通点や相違点に気づく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ネパールの写真 4枚(自分で撮ったもの)</li> <li>◇ AIAの資料(ネパール編)</li> </ul>
	3・4	<p><b>□食文化を通してネパールをより身近に感じる(ネパール料理店訪問)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ネパールの代表料理「モモ」、「サモサ」、「チャイ」の材料と作り方を聞き、ネパールと日本の食材の共通点の多さに気づく</li> <li>▪ 店長からネパールについて伝統や文化について話をさせていただく</li> <li>▪ 「モモ」、「サモサ」、「チャイ」を飲食しながら店長と生徒の質疑応答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ インタビュー</li> <li>◇ 質問シート</li> </ul>
	5・6	<p><b>□ネパールが抱える課題、そして他の途上国の同様な課題について知る</b></p> <p><b>□課題解決のために世界で行われている支援について学ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ルワンダ(コーヒー生産地と協働する会)とネパール(farmers passion)での農業支援の実際を知る</li> <li>▪ 現地の方が抱える課題について自分たちで調べて整理する【派生図】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ JICA 研修動画(ルワンダ編)</li> <li>◇ farmers passionのHP</li> </ul>
	7・8	<p><b>□現地ネパール人との交流を通して、課題解決のための糸口をつかむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ farmers passion(現地農園支援団体)代表の池島氏、現地ネパールの農園スタッフ、オンラインで現地スタッフの三者を招いて意見交流会を行う</li> <li>▪ 現地の方が抱える課題に焦点を当て、意見交流を行い、課題を整理する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ messenger でオンライン通信</li> <li>◇ 質問シート</li> </ul>
	9	<p><b>□まとめ(行動宣言)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 学校(団体)としてできること、私たち(個人)としてできることの2つの視点でまずは各々で考え、それからグループワークにて共有する(模造紙にまとめる)</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的に出会うことでネパールや海外への関心を引き出すことができた</li> <li>・様々なネパール人と実際に交流することで、ネパールの多様な魅力に気づいた</li> <li>・ネパール人との交流を経て、現地の課題を整理し、解決のために行動に移すことができた</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困というキーワードにもっと特化したプログラムにしてもよかった</li> <li>・事前に準備していたものの、ネパール人との対面交流では生徒が遠慮して消極的になってしまった</li> <li>・行動宣言の提案はたくさんあったが、持続可能な活動を継続するための最後の議論が不十分だった</li> </ul>		
備考			



あなたの幸せは わたしの幸せ ～㊦だんの㊧らしの㊨あわせ～



所属	愛知県海部郡蟹江町立蟹江小学校	実践者	伊藤 聡子	
対象	小学校5年生(112名)	実践日	2022年12月～2023年1月	
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	9時間	
ねらい	・他国の文化や習慣を知り、日本との共通点や相違点に気づく。 ・あってはいけない違いを放置するとどうなるのか、解決にはどんな方法があるのかを考える。 ・一人ひとりが幸せに暮らせる社会に向けて、自分にできることを見つけて行動につなげる。			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1～3	「世界の国と出会おう！～日本福祉大学の留学生との交流会～」 ① 中国とネパールの挨拶や言葉、文化を知る。 ② ベトナムの遊びを体験する。 ③ 「新しい発見でおもしろい！と思ったこと」を3つ選ぶ。【ランキング】	・日本福祉大学に講師依頼 (中国、ネパール、ベトナムからの留学生)	
	4	「日本の当たり前が世界の当たり前ではない!？」 ① 交流会の中から、日本との共通点や相違点を見つける。【対比表】 ② 各グループの対比表を全体で共有する。【回し読み】		
	5	「あってもいい違いとあってはいけない違いって!？」 ① 前時に作成した対比表の相違点の中から、あってはいけない違いに印をつける。 ② ちがいのちがいのカード8枚をあってもいい違いとあってはいけない違いに分類する。【対比表】 ③ 各グループで分類したカード8枚を全体で共有する。【プレゼンテーション方式】	・大阪府のホームページ「人権学習シリーズちがいのとびら 私たちの多様性」	
	6～7	「あってはいけない違いを放置すると…？」 ① ちがいのちがいのカード3・5・7の実際のストーリーを知る。 ② 支援を受けられなかった場合を貧困の輪で考える。【因果関係図】 ③ 貧困の悪循環を断ち切るには、どこをどんな方法で断ち切るとよいかを考える。 ④ 実際に行われている支援のカードを貧困の悪循環へ貼り、支援の方法を知る。【マッチング】 ⑤ 貧困の輪の中でSDGsに関連しているものの番号シールを貼る。	・独立行政法人国際協力機構 中部国際センター「教室から地球へ開発教育・国際理解教育 虎の巻」 ・教師国内研修で出会った団体の支援内容	
	8	「一人ひとりが幸せに暮らせる『まち』や『学校』にするためには?」 ① 「まち」や「学校」のイラストから、どんな人がどんなことに困っているのかを考える。【ブレインストーミング】 ② 「国・地域」「仲間」「自分」の3つの視点から、できることを考える。【行動計画】	・愛知県社会福祉協議会・名古屋市社会福祉協議会「福祉読本『ともに生きる』」	
	9	「一人ひとりが幸せに暮らせる社会にするために、自分にできることは?」 ① 自分にできることを宣言する。【行動宣言】 ② グループの仲間の宣言に対して、応援メッセージを書く。		
	成果	・日本福祉大学の留学生との交流会では、「他の国についてもっと知りたい」「文化が違うっておもしろい」と新たな学びを得ることができ、単元全体を通して、楽しみながら活動を進めることができた。 ・毎時間、次時につながるような流れを意識したことで、興味をもちながら世界や身近な課題についての考えを深めることができた。		
	課題	・学年内で同一歩調をとりながら進められるように、年度当初に他教科との関連も含めて計画を立てる。 ・課題解決に向けて、自分にできることに継続して取り組ませるような工夫が必要である。		
備考	・個人でじっくりと考えさせたいアクティビティではタブレットを使用し、グループで多様な意見を取り入れながら考えさせたいアクティビティでは、付箋や模造紙などの紙媒体を使用するなど、使い分けをした。			

# わたしたちみんな地球人

<b>所属</b>	三重県桑名市立日進小学校	<b>実践者</b>	伊藤 知世
<b>対象</b>	小学校5年生(39名)	<b>実践日</b>	2022年10月~12月
<b>実践教科</b>	総合的な学習の時間	<b>時間数</b>	45分×9時間
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界と肯定的に出会う。</li> <li>・「あってはいけないちがひ」が貧困問題と関係していることに気づき、貧困が引き起こす影響について理解する。</li> <li>・よりよい世界にするために、自分にできることを考える。</li> </ul>		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	○クイズ大会をしよう ・外国の音楽と言語を聞き、どの国のものかを当てる。 ・ペアで国をひとつ決め、三択クイズを作って出し合う。	ボリビア、ケニア、フィリピン、マダガスカル之歌
	2	○大切なものを伝え合おう ・マダガスカル的小学校とオンラインでつなぎ、自分の大切なものを理由とともに伝え合う。 ・お互いに質問し合い、お互いの国の生活や学校の様子について知る。	マダガスカル隊員へ依頼
	3	○フィリピンの子どもたちに出会おう ・整列されていない5枚の写真を見て、ハッピーエンドになるように写真を並び替えて、ストーリーをつける。【フォトランゲージ】 ・ストリートチルドレンの現状、アイキャンの活動について知る。	アイキャンHPより写真
	4・5	○似ているところ・違うところ ・今までの出会いから、日本と世界の国との共通点や相違点を見つけ、「あってもいいちがひ」と「あってはいけないちがひ」を考えて理由とともに交流する。【対比表】	
	6	○人権って何？ ・自分の好きなこと、大切なもの、自分らしく生きるのに必要なものを10個まで付箋に書き出し、グループごとに模造紙に貼って、分類、整理してタイトルをつける。【カード式整理法】 ・付箋に書き出したことができていない状態は、人権が守られているということ、できていない状態は人権が守られていないことだと理解する。	
	7・8	○貧困が引き起こすことって？ ・貧困問題が解決されないと、どんな影響があるのか考える。【派生図】 ・出てきた意見のうち、SDGsに関連しているものにシールを貼る。 ・貧困の輪をつくり、一度貧困状態に陥ると、抜け出せないことに気づく。	愛知県国際交流協会より「貧困の輪」カード
	9	○貧困の輪を断ち切るために ・貧困の輪を断ち切るために必要なことや、できることを書き込む。【ブレーンストーミング】 ・よりよい世界をつくるための行動宣言をする。	愛知県国際交流協会より貧困問題を解決する9つの方法ランキング
	<b>成果</b>	世界と肯定的に出会うということを初めのねらいとしたので、児童は「世界のことを知るの楽しい」と感じることができた。その後、世界の課題に目を向けていくことで、自分にもできることをしたいと考え、学校でも給食の食べ残しをしないようにしたり、ごみ拾いをしたりするなど、行動できる児童が増えた。	
<b>課題</b>	貧困問題に対して、自分にできることを考える際には、ヒントカードを用意したが、難しかったようである。子どもたちからは「募金」というキーワードがたくさん出た。もっと、身近で簡単にできること、「知ること」や「勉強したことを広めること」などの価値を伝えていくべきだと感じた。		
<b>備考</b>	1年を通して、毎日の自主学習でSDGsの調べ学習に取り組んだ児童がいた。その児童を中心に、クラスにSDGs会が立ち上がり、月ごとにクラスでSDGsに関する目標に取り組んだ。		

# 発見しよう新たな自分 ー西高SDGs探究チャレンジー



<b>所属</b>	愛知県立豊橋西高等学校		<b>実践者</b>	大河 仁美	
<b>対象</b>	高校1年生（172名）		<b>実践日</b>	2022年9月～2023年2月	
<b>実践教科</b>	産業社会と人間		<b>時間数</b>	24時間	
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の課題について自分ごととして考え、主体的に社会に関わる姿勢を育てる</li> <li>・原因や理由を意識して考えを組み立てる力を伸ばす</li> <li>・他者との協働を通していろいろな人の意見をふまえ、考えを深める</li> </ul>				
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>			<b>備考</b>
	3	<1ターム:探究入門> ① 課題提示【フォトランゲージ】 ② 課題が起きる原因を考える【因果関係図】 ③ 目指すべき理想像を5W1Hで考える ④ 理想像に近づけるための方策を考える ⑤ ④のアイデアを「効果×オリジナリティ」の視点で精選【二元軸表】 ⑥ 活動を通して「身に付けたい力」の到達点を検証する			課題解決に向けた活動プロセスを体験するターム
	3	<2ターム:社会に潜む課題を見つける> ① 社会の環境系課題を見つける【フォトランゲージ・ブレインストーミング】 ② 社会の人権系課題を見つける【KJ法】			社会に潜む諸課題を主体的に発見するターム
	2	<3ターム:好き×SDGs> ① 生徒自身が自分の好きなものの魅力を語りつくす ② 自分の好きなものが社会にどのような効果を与えているか考える ③ 自分の好きなものが社会に与える負荷について考える ④ 「よい未来」とは何か、定義を考える ⑤ ④を実現させるためにはどうしたらよいのだろうか？			「好き」なものを通して、自分自身が社会につながった存在であると気づくターム
	2	<4ターム:SDGsカードゲーム>			パートナーシップの重要性に気づくターム
14	<5ターム:地元企業との連携事業「SDGs探究チャレンジ」> ① 連携企業が取り組みたい社会課題をミッションとして生徒に提示 ② ミッションの背景にある社会課題について検証 ③ 目指したい理想像を5W1Hで考える ④ 理想を実現させるための方策を検討する ⑤ 連携企業に対して提案を行う			実社会での問題に対して具体的な解決策を提案することで、社会に関わる主体性や論理的思考力を伸ばすターム	
<b>成果</b>	講義や情報の検索に頼らず、生徒自身の「気づき」を促すべく手法を工夫しました。また実際の授業は教員10名で担当していたため、事前に教員内でワークショップのシミュレーションを行い、準備を重ねました。その上で行った企業との連携事業では生徒たちも自分自身の成長を実感する非常に良い機会になりました。				
<b>課題</b>	具体的方策を提案する場面では議論が停滞する瞬間もあり、その点の改善が必要だと感じました。				
<b>備考</b>	・2ターム 出典:「地球家族」TOTO出版                      ・4ターム イマココラボ監修カードゲーム「2030 SDGs」 ・5ターム 近隣企業・NPO法人を中心に計10団体と連携				



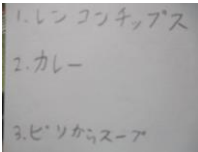

## わたし・あなた・みんなを知ろう

所属	名古屋市立南陵小学校	実践者	大島 風花
対象	小学校 4～6 年生 (26 名)	実践日	2022 年 6 月～2023 年 1 月
実践教科	クラブ活動	時間数	3 時間
ねらい	自己紹介、異学年や他の国の子どもと関わり、他の国で暮らしていた人のお話を通して、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な人や国、文化と、肯定的に出会う</li> <li>・ 人や世界の多様性と同一性を理解し、つながりに気付く</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<旅する絵～ナミビアの子に「大切なもの」の絵を送ろう～> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 呼ばれたい名前決め</li> <li>・ 異学年の子と自己紹介【名刺で自己紹介】 (私のウリ・今ハマっていること・大切にしているもの・クラブでしたいこと)</li> <li>・ ナミビアの子と交換するために、自分の大切なものを思い起こし、絵を描こう(ゲーム機・命・家族・家・ぬいぐるみ等を描いていた)</li> </ul>	[写真] 左:名刺で自己紹介 右:大切なものの絵 (ゲーム機)
	2	<モンゴルで暮らしていた人のお話を聞こう> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己紹介(好きなお菓子)</li> <li>・ 世界の民族衣装を着てみよう(6年生アルバム撮影のため)</li> <li>・ モンゴルで暮らしていた人のお話を聞こう(衣食住・学校の様子・課題など)</li> </ul>	講師:元青年海外協力隊(モンゴル派遣)  [写真] 振り返りカードの記入
3	<ナミビアの子とテレビ電話をしよう> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナミビアの子とペアになって自己紹介をし、大切なものの絵を紹介しよう</li> <li>・ ナミビアの子の絵を見て、日本の子と似ているところ・ちがうところを見つけよう</li> </ul>	[写真] ナミビアの子の大切なものの絵 左:ゲーム機 右:兄弟と聖書	
成果	少ない時間ではあったが、多面的な自分や、異学年の子ども、多様な国や文化に出会う活動を行うことができた。子どもたちは、異文化に関心を持ち、全体としては肯定的に多様性を捉えられたと考える。実際に外国の子関われる機会を設けることができたことは貴重であったと思う。		
課題	クラブ活動がコロナの影響で中止になることが多く、予定していた活動を行うことができなかった。少ない時間に活動を詰め込むことになり、一つ一つの活動を深めることができなかった。十分に多様な自分や他者に出会う経験を積めなかったため、異文化を否定的に捉えている子どももいた。		
備考			

ともに生きる ～アナタも ワタシも Live Together～

所属	愛知県津島市立東小学校	実践者	加藤 里英
対象	小学校5年生(29名)	実践日	2022年6・7月, 2023年1月～3月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	16時間 + α
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権や人権が守られてない人たちの現状や思いについて知り、その原因や改善点を考える。</li> <li>・だれもが過ごしやすい学校について考え、そのためのアイデアを実行する。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	○「人権」ってなんだろう？ ・人権という言葉から思い浮かぶものを考える。【KJ法】	A3用紙・ペン
	2	・自分と周りの人との違いを、あってもいい違いとよくない違いに分ける。【対比表】	ワークシート
	3	○障害者の人権について ・障害のある人ない人で、あってはいけない違いについて考える。【プレスト】	ワークシート
	4	・障がいをもつ人の動画を見て、障がいをもつ人の思いや様子について知る。	
	(3週間)	・聴覚障害(耳栓)・視覚障害(アイマスク)・車いすの体験を各一週間、毎日1人ずつ体験する。週の真ん中で体験者側・サポート側の振り返りをし、工夫できたこと・困ったこと・もっとこうだったらと思うことなどを考え、共有する。 (・福祉実践教室で手話・点字・高齢者疑似体験のうち2つを体験する。)	
	5	○外国人について ・異文化体験ゲーム「バーンガ」を体験し、自分たちの当たり前みんなの当たり前でないことに気づく。	
	6	・世界の国の日本との同じようなところ、違うところを調べ、その違いがあってもいい違い、いけない違いか考える。【対比表】	タブレット ワークシート
	7	・違いを認めつつともに過ごしていくためにできることを考える。【できることビンゴ】	
	8	○こどもについて ・学校いけない子どもたちの負の連鎖について考える。	JICAの国際理解教育実践資料集
	9	・世界の子どもたちを紹介し、現状を知る。【フォトランゲージ】【動画】	Save the children 写真教材
	10	・それぞれの子どもについて子どもの権利条約で守られていない権利があるか考える。	AC ジャパン・その子の動画
	11	○ともに生きるために ・人権が守られていない原因を考える【因果関係図】	UNICEF 子どもの権利条約カードブック・権利のカード
	12	・ともに生きる社会をつくるために必要なことを考える。【派生図】	
	13	・そのために自分が大切にしたいことをグループで3カ条にまとめる。【指標づくり】	模造紙
14～16 (+α)	・今までの学習をいかして、～ともに生きる～を合言葉にした学校づくりのために改善すべき点を考え、行動に移す。(点字や外国語の案内表記・ピクトグラムなど)	校内図	
成果	耳栓やアイマスクを使っでの体験・福祉実践教室・バーンガなど、実際に体験をするなかで、体験者本人の苦悩はもちろん、サポートする側の困難さやもっとこうであればという願いについても考えることができた。		
課題	人権についてさまざまなテーマを取り扱ったが、どうしても「自分とは違う」という点で想像しにくく、自分事としてとらえさせることが難しかった。耳栓・アイマスクを使っでの体験は、機能面と授業を行う面で限界があった。また、授業をする私自身も配慮が難しかったため、引き続き配慮の仕方を考えていきたい。		
備考	福祉実践教室は市内の社会福祉協議会を通じて講師をお招きした。		

もしかしたら、この生ごみは〇〇かもしれない？！

所属	愛知県名古屋市立平田小学校	実践者	菊地 純奈
対象	小学校3年生(29名)	実践日	2022年11月～2023年1月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	4時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみの行方を知り、生ごみが増えると起こる問題に気付く。</li> <li>・生ごみ問題に取り組む、ポリビアの実践を知る。</li> <li>・自分たちが生ごみを増やさないためにできることを考え、行動する。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆生ごみはどこへ？</p> <p>① 好きな給食ランキング「私は誰でしょう」【ランキング・クイズ】 自分の好きな給食を1～3位まで選ぶ。その後、名前を伏せて、ランキングのみ紹介し、誰か当てるクイズ。</p> <p>② 給食で出された生ごみはどこへ行く？【マッチング】 ご飯・おかず・牛乳・デザートなどが、どのように処理されているか、グループで話し合い、発表する。その後、全体で答え合わせをする。</p>	 <p>好きな給食ランキング</p>  <p>生ごみマッチング</p>
	2	<p>◆生ごみが増えるとどうなる？</p> <p>① 生ごみが増えると、どんな問題が起こるか考える。【〇×クイズ】 生ごみは、食品ロスやエネルギー問題など、様々な問題に関わっていることを、〇×クイズで知る。</p> <p>② 生ごみが増えて、影響を受けている様々な人・動物の立場になって考える。【ロールプレイ】→コンビニエンスストアの店員・ごみ処理場で働く人・カラス・コンポストを始めた人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央大学 HP</li> <li>・パタゴニア HP</li> <li>・カラス被害とごみ対策 HP</li> </ul>
	3	<p>◆ポリビアの取り組みを知ろう！</p> <p>① 写真からストーリーを考える。【ストーリーづくり】 ポリビアのコンポストの取り組みに関する写真を4枚用意し、想像したことをストーリーにする。</p> <p>② 実際のストーリーを動画で知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DIFAR(コンポストに関わる写真4枚)</li> <li>・DIFAR オンライン研修時の動画</li> </ul>
	4	<p>◆行動計画・宣言をしよう！</p> <p>自分ができることを考え、行動しようとする(行動計画・宣言)</p>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の生ごみの行方から授業を展開したことで、児童が問題を自分ごととして捉えることができた。</li> <li>・マッチングやロールプレイを用いたことで、児童が意欲的に考えたり話し合ったりする姿が見られた。</li> <li>・生ごみ問題に興味をもち、授業後も自主的に調べたり、ポスターにまとめたりする児童がいた。</li> </ul>		
課題	<p>最後の行動計画・宣言が「給食を残さないようにする」だけにならないように、4時間の授業の中で、様々な情報を盛り込んだつもりだったが、結局、「食べ残しをしない」「給食をおかわりする」だけにとどまってしまった児童が多かった。</p>		
備考	<p>個人の行動宣言とは別に、生ごみを減らすためのクラス目標として、1月は「食缶を1つは空にする」、2月は「最初に減らすようにする」と決めて取り組み、毎日カレンダーに達成できたかを記入している。</p>		




## 国旗 & 食べ物 de 国際理解

13

所属	静岡県富士市立広見小学校	実践者	高口 涼
対象	小学校2年生(29名)	実践日	2023年1月~2月
実践教科	(国語科・道徳科・学級活動)	時間数	4時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外には、いろいろな国があるということを知る。</li> <li>・食を通して、自分の普段食べているものとの違いや共通点に気付く。</li> <li>・授業を通して、授業外でも海外の国や地域について関心をもつ。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	道徳科 学研みらい『みんなのどうとく 2年』より「行ってみたい国」 ・どこの国の名前が出てきたかな。 ・世界のどこにある国かな。 ・どんな食べ物や料理があるのかな。  ・世界の国々の給食の様子を見てみよう。【フォトランゲージ】 ・自分たちの給食の様子との違いはあったかな。同じところはあったかな。	HP「笑顔でランチ(理研ビタミン)」も併用した。
	2	学級活動 より、世界について知ろうクイズ！【クイズ】 ・世界で一番広い国は？ ・世界で一番そこに住む人、人口が多い国は？ など  『こっきのえほん』戸田デザイン をグループで見よう。 ・関心をもった国を一つ選ぼう。 ・その選んだ国ではどんな食べ物や料理が有名なのかな。	HP「キッズ 外務省」を大画面に映しながら出題、解答提示を行った。
	3	学級活動(続き) ・選んだ国を友達に紹介しよう。【共有】	タブレット端末や紙を使ってまとめたり、クイズにしたりして準備した。
	4	国語科 「続けてみよう日記」 お題 新しく知った国について	単純に知ったことをたくさん書いてもいいし、行ってみたいややりたいことでもいいとした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちは、自分の調べた国以外にも、友達の調べていた国や、ほかの国や地域に関心を持ち、自宅で調べたり、話題にしたりしていた姿が見られた。</li> <li>・「パリ」を国だと思っていた子供が、調べていくうちに、国ではないことに自ら気付いた。</li> <li>・既存の指導事項や既に作られている教材とかかわらせながら実施することで無理なく実践できる形ができた。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動を2時間使ってしまうので1時間でおさめられるように設計したい。</li> <li>・身の回りのニュースや出来事といった社会とかかわる視点を取り入れられたらよりよかった。</li> </ul>		
備考			

世界の仲間と笑顔に☺ ～みんな幸せ、だから幸せ～

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	児玉 やこ
対象	中学校1年生(130名)	実践日	2022年12月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	2時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の違いを味わうおもしろさや、世界の人々と自分の共通点に気づく。</li> <li>・人権に関する課題(ストリートチルドレン)について知り、放置されるとどうなるか考える。</li> <li>・世界中のみんなが幸せになるために、自分にできることを考え行動する。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	1 アイスブレイク「弥北の特徴 ベスト3」 他の学校にはない、弥北の特徴＝私たちの文化を考えよう 2 世界のおもしろ文化クイズ【フォトランゲージ・4つのコーナー】 「人それぞれ、国それぞれ」 他国の文化にびっくり！！日本の文化にびっくり！！ 3 フィリピンの子どもたちと自分の共通点を知ろう【ブレインストーミング】 「見つけた！同じところ」 フィリピンの子どもたちのインタビュー動画を見て、気付いたことをメモしよう 4 世界の課題を知ろう「ストリートチルドレンって何だろう？」 ストリートチルドレンの生活・原因・背景について話を聞こう	教師海外研修(パラグアイ)の写真 教師国内研修(ベトナムからの留学生)のインタビュー内容 教師国内研修(フィリピンの子どもたちへのインタビュー)の動画 教師国内研修(ICAN)の動画資料
2	5 課題が続くとどうなるかを考えよう【派生図】 「路上生活から抜け出せないどうなる？」 ①派生図をグループでかこう ②「子どもの権利条約・4つの原則」を知り、視点を増やそう ③命に関わる最悪の結末…☠マークを貼ろう ④心に関わる最悪の結末…❤マークを貼ろう ⑤SDGsの何番に関わるか考えよう ⑥ギャラリー方式で共有しよう 6 課題の解決方法の1つを知ろう 「アイキヤンの取組を知ろう」 世界の人の笑顔のための具体的な活動を知ろう 7 世界の仲間と笑顔になるため、自分にできることを考える 「今すぐできること、大人になったらできること」【ブレインストーミング】 8 行動宣言をしよう【行動宣言】 「中1の私は… 大人の私は…」何ができるか考えよう	 子どもの権利条約より「4つの原則」 SDGsロゴ 教師国内研修(ICAN)の資料	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに世界と肯定的に出会うことで、興味がふくらみ、一人一人が真剣に意欲的に課題について考えることができた。</li> <li>・派生図を作るときに様々な視点を提示することで、考えが広がったり、話し合いが深まったりした。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2時間の実践では、子どもたちが「行動したい」と思い、行動に移すまでを丁寧に扱えなかった。SDGsの学習を積み重ねている学年なので、今後の総合的な学習の時間でさらに学びが深まり、行動につながっていくよう、さらに同僚と連携し、2・3年次までの長期的な計画を考えていきたい。</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師国内研修での学びをいかすために、このプログラムの続きを2年次に行い、つながる学び、続く学びとなるよう、学校全体に広げていきたい。</li> </ul>		

## 教育問題解決世界会議

<b>所属</b>	愛知県立津島東高等学校	<b>実践者</b>	後藤 翔太
<b>対象</b>	高校1年生 (36名)	<b>実践日</b>	2022年12月～2023年1月
<b>実践教科</b>	英語コミュニケーションI	<b>時間数</b>	6時間
<b>ねらい</b>	・現在、世界が抱えている教育に関する問題を知り、解決するために必要なことを考える。 ・世界に存在してはいけない「格差」「違い」について考え、今の私たちにできることを確認・提案する。		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	<b>『世界が直面している教育問題について知る』</b> ・「持続可能な開発目標(SDGs)報告 2021」を基に作成された世界が直面している教育問題(読解力水準の低下、学校教育終了率の改善不足、インフラ整備不足)についての資料を読む。  <b>『どうなる世界の教育！？将来の世界の教育を考える』</b> ・「読解力水準の低下」、「学校教育終了率の改善不足」、「インフラ整備不足」に直面した国(4人1組グループ)に分かれ、それぞれの国(グループ)にある問題を書き出し、分類する。 【ブレインストーミング】 【KJ法】 ・直面する問題の中から、解決すべきものの優先順位を考える。 【ランキング】	・ペン(人数分) ・付箋 ・模造紙
	2～3	<b>『世界の教育改善のためのヒントを学ぼう』</b> ・1時間目の授業でまとめた問題を基に、各国(グループ)で、そこに関わる人々になりきり、会話や態度を含んだシナリオを作る。 【ロールプレイ】 ・別の国(別の問題を抱えたグループ)と交流をし、直面する問題を伝え合う。 ・再度、元の国(グループ)に戻り、他国が直面していた問題を共有する。それらを踏まえた上で、自分たちの国(グループ)における解決策を考える。(どんな学校を建てるか、どんなシステムを構築するか、達成するために必要なものは何か等) ・「みんなの学校プロジェクト」の動画を視聴し、実際にどのような支援が世界で行われているかを知り、解決策に還元する。	・A4用紙(人数分) ・ペン(人数分) ・タブレット ・JICA「みんなの学校プロジェクト」動画
	4～6	<b>『教育問題解決世界会議』</b> ・各グループで他国が直面している問題についての解決策案の原稿や発表を支援するポスターを描く。 ・ポスターセッションを行う。 ・発表後に投票を行い、最も良かった解決策を決める。	・模造紙(班数分) ・ペン(人数分) ・タブレット
<b>成果</b>	研修を通して、異なる立場や校種の方々と情報・意見交換をすることができ、指導の引き出しが増えたことを感じる。また、生徒たちも発表を通じて自信をつけることができただけでなく、彼らが教育を受ける環境がいかに恵まれているかを認識したことがアンケートや授業態度からうかがえた。		
<b>課題</b>	生徒主体で大半を行うことができたが、うまく進行しない場面では教員が主導になってしまった。ファシリテーターとしての自覚が足りなかったと感じている。		
<b>備考</b>	情報をまとめる際に、模造紙かタブレットを使用するかが1番の迷いどころであった。結局のところ、両方を用いたが、タブレットに書き込む際に個人作業になってしまい、会話の流れが止まってしまったように感じる。		




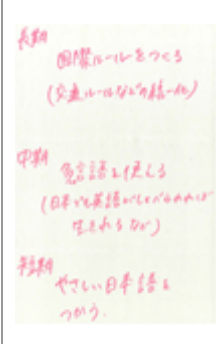
## 食でつながる世界と日本

所属	愛知県立豊田高等学校	実践者	澤田 直美
対象	高校2年生 (40名)	実践日	2022年9月
実践教科	コミュニケーション英語Ⅱ	時間数	2時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段の食生活に外国とのつながりがあることを知る</li> <li>・ 普段の食生活を振り返り、食べ物や外国との関わりについて、今後の自分の行動の仕方を考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1 (25分)	①日本の食料自給率を知る ・いつも食べているものはどこで作られたもの？ ワークシートを用いて、普段食べているもののうち、50%以上日本で生産されていると思うものにチェックを入れる。 →外国からの輸入品が多いことに気付く。 ・なぜ日本の食料自給率が下がったのか考える【グラフ・表】 グラフ・表を配布し、読み取れることを書き出す。 →日本の食生活の変化・働き方の変化に気付く	グループワーク イラスト ワークシート 参考) ・JICA「つながる世界と日本」 ・農林水産省 HP
	2 (25分)	②外国から来た食べ物について知る ・ルワンダクイズ「この国どこでしょう？」 →途上国だと思っている国のイメージと実際とのギャップに気付く 日本や先進国との類似点を知る ・ルワンダ人のインタビュー →日本がほぼ輸入に頼っている食品を作っている人たちの現状を知る	パワーポイント 参考) ・JICA「みんなが知らないルワンダのこと」 ・NPO 法人コーヒー生産地と協働する会インタビュー
	3 (50分)	③日本の食料自給率が低いとこれからどうなるか、どうしていけばいいか ・日本の食料自給率が低いままだとどうなるか、グループで話し合う 【派生図】→「まわしよみ」で共有 ・日本の食料自給率を上げるには何ができるか【対比表】 (1)個人 (2)企業 (3)日本 の3観点から考える →「まわしよみ」で共有 すぐできそうなこと、いいと思った意見に★をつける。	
成果	生徒たちは、日本が外国からの輸入品に頼っていることは元々何となく知っていたが、自分たちで想像したり、数字として認識することで、より身近な問題として捉えることができた。		
課題	先進国が途上国から搾取していることがあるという点をあまり印象に残せなかった。また、あまり時間を多く取れなかったこと、参加型学習に想像以上に時間がかかったことから、ひとつひとつのアクティビティが薄くなってしまったように思う。もう少し生徒一人一人が考える時間、振り返る時間を作りたい。		
備考	教科書 Power On Ⅱ (東京書籍) Lesson 6 Vegetable factories を学んだあとに実施		

Well-being な社会を実現するために～貧困を事例として～

所属	金城学院高等学校	実践者	地頭 綾香
対象	高校1年生 (36名×2クラス)	実践日	2022年9月
実践教科	Dignity (総合的な探究の時間)	時間数	3時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業及び団体が Well-being な社会実現に向けて様々な支援をしていることに気づく。</li> <li>・貧困の仕組みを知り、そこから抜け出すとどんな変化があるかを考える。</li> <li>・ Well-being な社会にするために、何が出来るかを考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク:私が Happy になれるコト・モノについて紹介。</li> <li>・Well-being な社会にするために解決すべき課題(世界・日本・身近、どれでも良い)を探し、模造紙にグループで書き出す。</li> <li>【ブレインストーミング】→【まわし読み】</li> <li>・企業が、Well-being な社会実現に向けて何をしているか把握する。</li> <li>①夏休み宿題の共有(企業とSDGs)</li> <li>②企業の取り組みを付箋に書き出し、プレストした模造紙に貼る。【分類】</li> <li>③SDGs のシールを模造紙に貼りながら、各企業の取り組みは、SDGs の何番にあたるのか把握する。残ったシールを確認し、残った理由を考える。</li> <li>・振り返りを ClassiNOTE に記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの宿題(企業と SDGs の調べ学習プリント)</li> <li>・SDGs シール</li> <li>・ClassiNOTE</li> </ul>
	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク:この国はどこ？【フォトランゲージ】</li> <li>・貧困の仕組みを理解する【貧困の輪】</li> <li>・貧困を断ち切るためのキーワードを書き出す【ブレインストーミング】</li> <li>・貧困を断ち切るために支援している団体(アイキャン)について知り、支援の効果を把握する。</li> <li>①情報分析:支援内容・支援を受けた人の声を読む。【ジグソー法】</li> <li>②支援の前と後を模造紙にまとめる。【対比表】</li> <li>・振り返りを ClassiNOTE に記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピンの写真(肯定的な写真・課題となる写真)</li> <li>・貧困の輪</li> <li>・アイキャン資料</li> <li>・ClassiNOTE</li> </ul>
	3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイキャンの子ども達のVTRを見て、気づきを ClassiNOTE に記入する。</li> <li>・企業以外の団体の支援内容を iPad 調べてグループで紹介すると共に、貧困の輪のどこを断ち切っているのかを把握する。</li> <li>・貧困問題に学校・個人でアプローチするためのアクションを個人及びグループで考える。【対比表】</li> <li>・クラス全体で「金城生のアクション9箇条」を作る。【行動宣言】</li> <li>・振り返りを ClassiNOTE に記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイキャン VTR</li> <li>・ClassiNOTE</li> <li>・JICA の取り組みの資料</li> <li>・教師国内研修資料</li> <li>・ClassiNOTE</li> </ul>
成果	<p>貧困の仕組みを捉えた上で、行動宣言をあげることが出来たため、「自分ごと化」につながったといえる。また、10月から実施したグループ探究の際に、アイキャンの活動を題材としたグループが出てきた。アイキャンの方と連絡を取り質問に答えて頂くこともでき、本授業が更に発展したことは大きな成果だといえる。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りが時間内に書ききれない生徒もいたため、時間配分はもう少し余裕を持たせた方が良い。</li> <li>・自分が訪問したことのある国で授業をした方が、より説得力があると感じた。今後は、旅行などで諸外国を訪問した際に、教材化出来る写真を見つけてくることを心掛けたい。</li> </ul>		
備考	<p>本校では、1学期に SDGs について学び、2学期及び3学期に SDGs のグループ探究を行うプログラムが組まれている。今年度の学年テーマは、「Well-being な社会実現をするために」であり、グループ探究の各々のテーマ決めの導入として本授業を行った</p>		

日本に来ている人々が困っていることは何だろう？

所属	名古屋市立名東高等学校	実践者	鈴木 友子
対象	高校1年生（40名）、留学生（2名）	実践日	2022年12月13日
実践教科	学校設定科目：ワールドスタディーズ	時間数	1時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外から日本に来ている人々が直面するであろう「困ること」を想定する。</li> <li>・「困ること」に対して、どのような「支援」があるのかを考える。</li> <li>・自分たちにできることはなにかを考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p><b>日本に来ている人たちが「困ること」は何かを考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外から日本に来ている人々が、「困ること」を想定する。</li> <li>・留学生には、実際に日本に来て「困ったこと」を思い出してもらう。</li> <li>・そこからさらに「困ること」が積み重なるとどうなるかを話し合いながら、模造紙の半面に書き込む。【因果関係図】</li> </ul> <p><b>意見の共有をする①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班のテーブルごとに模造紙を交換する。</li> <li>・共感できる「困ること」に 😞 マークをつける。</li> </ul> <p><b>「困ること」をもとにどのような「支援」ができるかを考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な観点で考え、今ある「支援」だけでなく、こうした「支援」もあると良いというものも考えて、模造紙の半面に書き込む。【派生図】</li> </ul> <p><b>意見の共有をする②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班のテーブルごとに重複しないように3つ、考えた「支援」を、全体に向けて発表する。</li> </ul> <p><b>行動目標を設定する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「支援」について、今回考えたことや共有したことを踏まえ、自分が取り組んでいきたいことやできることを「長期」・「中期」・「短期」にわけて考えて書く。</li> <li>・各班のテーブル内で発表して共有する。</li> </ul> <p><b>(授業後課題)授業の振り返りをする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立場を逆にして、自分が外国に行ったときに困ることを考えて論述する。</li> <li>・行動目標を意識するためには何が必要かを考えて論述する。</li> <li>・多文化共生についての取り組みについての振り返りを論述する。</li> </ul>	<p>ペン(人数分) 模造紙(班分)</p>  <p>A4用紙(人数分)</p> 
成果	<p>「支援」の内容には行政などによる取り組みが重要であると考えた生徒が多かった。しかし、自分ができることは何かと考えることで、個人レベルでもできる活動があると気づいた生徒も多かった。また、「困ること」を関連させて「支援」を考えることができたので、半面に分けて書かせる効果も大きかった。</p>		
課題	<p>多くの生徒が支援の方法をたくさん考えてくれた。一方で「外国に行って困るのは当たり前」だから何でもかんでも支援は必要ないと思うという意見も見られた。自分の周囲以外の状況や、来日せざるをえない人々についてはまだまだ想像できない部分もあると感じられた。</p>		
備考	<p>本校国際英語科は、外部機関と連携し、年間を通じて開発教育に取り組んでいます。環境や人権についての学び、事前に様々な講演やワークショップなどで培った知識も活用しています。</p>		

## 「ウソ」から考える異文化理解

<b>所属</b>	愛知県名古屋市立名東高等学校	<b>実践者</b>	須田 綾子
<b>対象</b>	高校3年生 (35名×2クラス)	<b>実践日</b>	2022年9月～10月
<b>実践教科</b>	現代文B	<b>時間数</b>	7時間
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人々の考え方や文化の背景には、歴史的な経緯と地理的な条件があることを認識する。</li> <li>・ じぶんが当たり前だと思っていることも、そうではないことを知る。</li> <li>・ 異なる文化・異なる考えを持った人同士が共に生きるために必要なことを考える。</li> </ul>		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	<b>◆「ウソ」について考える</b> ① 自己紹介(行ってみたい国)【アイスブレイキング】 「□□(国)へ行って△△をしたい○○(呼ばれたい名前)です。」 ② 『答えのない道德の問題 どう解く?』をもとに話し合い【リスト】 「ついていいウソ」と「ついちゃいけないウソ」について考える。 個人→グループで共有→合意形成→発表 ③ 日本では、「ウソ」をつくのはいいことか悪いことか グループで○、×を挙げたのち、日本のことわざを確認	A4用紙、A3用紙、 ペン 備考欄の教材1
	2	<b>◆メキシコについて知る</b> ① クイズを交え、スライドを使ってメキシコの基本情報を得る。 ② 教科書の評論「骨とまぼろし」をグループで読み、プリントを埋める。 ③ 初読の感想を書く。	パワーポイント、A6用紙、読解プリント、 現代文B教科書 (筑摩書房)
	3～5	<b>◆教科書「骨とまぼろし」の読解…メキシコ文明の重層性を理解する</b> ① 「われわれはウソの社会に生きている」と言う白人(植民者)とメステイ ーソ(混血者)の在り方を理解する。キーワード:「メンティーラ」(ウソ) ② 近代文明をウソと捉え、メキシコの大地に「カラベラ」という存在の根を 持つインディオの在り方を理解する。キーワード:「カラベラ」(かいこつ) ③ メキシコ文明を立体的にとらえる筆者の視点を理解する。	教科書 読解プリント
	6	<b>◆異文化体験ゲーム「バーンガ」【シミュレーション】</b> ① 多数派の思い込みや押しつけ、少数派のとまどい、言語が通じないこ とのもどかしさなどを体験し、感じたことを共有する。 ② 異なる文化や背景を持つ人々と共に生きるうえで大切なことをグルー プで話し合い、発表する。【リスト】	トランプ ルール説明の用紙 A3用紙、ペン
	7	<b>◆まとめ</b> ① 『伝達の整理学』の「白いウソ」と「黒いウソ」に関する文章を読む。 ② 授業全体を振り返って感想を書く。	備考欄の教材3 A5用紙
<b>成果</b>	参加型の手法を用い、互いの考えを出し合って合意形成をしたり、ゲームで異文化を擬似体験したりすることによって、教科書の読解だけでなく、自己理解や他者理解を深めることができた。国家間の文化の違いだけでなく、自分の身近にも文化の違いがあることに気づき、自分の行動を顧みる様子も見られた。		
<b>課題</b>	多文化共生について考える際に、ゲーム後にグループで話し合いをするだけの時間しか取れなかったため、じっくり考えることができなかつたと思われる。KJ法や対比表など他の手法を用い、もっと深く考えられればよかったと思う。「多数に従うしかない」という考えが思った以上に見られたのも気になった。		
<b>備考</b>	教材 1. 『答えのない道德の問題 どう解く?』(ポプラ社 2018) 2. 「骨とまぼろし」の出典:真木悠介『気流の鳴る音』(ちくま学芸文庫 2003) 3. 『伝達の整理学』外山滋比古(ちくま文庫 2019)		



# SDGs ～未来のためにわたしたちができること～

20



<b>所属</b>	三重県四日市市立日永小学校	<b>実践者</b>	田中 真弓
<b>対象</b>	小学校4年生(29名)×4クラス	<b>実践日</b>	2022年11月～12月
<b>実践教科</b>	(総合的な学習の時間)	<b>時間数</b>	9時間
<b>ねらい</b>	・SDGsについて知る。 ・人類共通の課題(17の持続可能な開発のためのグローバルの目標 SDGs に目を向け、よりよい世界をきずくための生き方や自分たちにできることを考える。		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	SDGs17の目標を知る。 ・SDGs のうた「ひろがれ！いろとりどり-NHK」の歌を歌う。 ・国連の開発教育の目標であるSDGsには、どんなものが解決すべき問題として挙げられているのかを知る。	SDGs カード 動画 SDGs の歌
	2～4	17項目ある SDGs のうち、クラスのみんなが関心度の高かった目標 2「飢餓をゼロに」について考える。 ・飢餓(十分な食べ物や栄養)が与えられないとどんな問題がある？【イメージ図】 ・飢餓がおこる原因について考える。【派生図】 ・飢餓から起こる「負の連鎖」について知る。 ・自分たちができることを考える。	ワークシート 模造紙(派生図) SDGs 教材ガイドブック SDGs カード
	5～6	日本では難しいと考えられている目標 12「つくる・つかう責任」について考える。 ・問題点についてグループで考える。【ブレインストーミング】 ・それぞれの問題点について解決策を考える。【ブレインストーミング・回し読み】 ・振り返りを個人書いて発表をさせてよりよい未来のために自分にできることを確認する。	ワークシート 模造紙(プレスト) SDGs 教材ガイドブック
	7～9	多文化共生という視点から自分が住んでいる地域の多文化共生の町づくりについて考える。 ・SDGs の目標 1.3.11.16 のカードを貼る ・命と健康を守るために感染予防のお願いのチラシを多言語で読ませることで言葉の壁で困っている人々の気持ちを考えさせる。 ・四日市市の外国人登録者数の推移と本校の外国にルーツを持つ児童の数についてパワーポイントで見せる。 ・自分たちの住んでいる町(地域)について住みやすいか・住みにくいかについて考える。個人→グループ【対比表】 ・多文化共生という視点からどんな町にするとより住みやすい町になるか考える。個人→グループ 【ブレインストーミング・ギャラリー方式】 ・自分はこれからどんな行動をしていくのかを考える。個人 →グループで共有 ・振り返りをする。	SDGs カード ワークシート チラシ パワーポイント資料 模造紙(対比表) 模造紙(プレスト) 行動計画を立てる
<b>成果</b>	・参加型の学習を通して、子ども達が積極的に意見を出し合うことができた。また、世界に目を向け、自分たちに何ができるか考えるようになった。		
<b>課題</b>	・総合の時間に限らず、各教科においてもSDGsに関連させながら、積極的に参加型の手法を取り入れ、児童達の学びを深めていきたい。 ・SDGsについて考えたことを身近な生活の中で行動できるように継続して取り組んでいきたい。		
<b>備考</b>	・SDGsについて考える授業を行うことで自らSDGsの事を調べようとする児童が増えてきた。		

# SDGs×授業づくり

21

<b>所属</b>	JICA 三重県デスク	<b>実践者</b>	堤 真人
<b>対象</b>	小・中学校教諭	<b>実践日</b>	2022年8月
<b>実践教科</b>	教員研修	<b>時間数</b>	一回講座（2.5時間）
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業が、SDGsとつながっていることに気づくことができる。</li> <li>・SDGsについて理解を深め、授業作りに生かす勘所を掴み、実践に活かそうという前向きな姿勢をもつことができる。</li> </ul>		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修のゴールおよびグラウンドルールの確認</li> <li>●JICA のビジョンおよび事業紹介</li>   <li>●アイスブレイク                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックイン(名前、所属、好きな外国の食べ物、今日期待すること)</li> <li>・見えない共通点見つけ</li> <li>・「あなたが思う、持続不可能なこと」をブレインストーミングする。</li> </ul> </li>   <li>●自分と世界の関係について考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA 教材を使い、自分と世界の関係についてペアで考える。</li> </ul> </li>   <li>●SDGs の基礎理解講座                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs の成り立ちと背景</li> <li>・17 の目標と 169 のターゲットについて</li> <li>・SDGs4 「質の高い教育をみんなに」を深く掘り下げる。</li> </ul> </li>   <li>●JICA 海外協力隊体験談(職種:小学校教育)</li>   <li>●SDGs 授業づくりワークショップ①                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元計画と SDGs の関係を探る。</li> <li>・SDGs を取り入れた模擬授業</li> <li>・発展的な学習事例の紹介</li> </ul> </li> <li>●SDGs 授業づくりワークショップ②                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから実施する単元を選ぶ。</li> <li>・選んだ単元と関りのある SDGs を選び、グループで共有する。</li> <li>・選んだ単元で「こんな授業ができそう」というアイデアを出し合い、授業の引き出しを増やす。</li> </ul> </li>   <li>●振り返り</li> </ul>	<p>【ブレインストーミング】</p> <p>クイズ形式・ペアワーク</p> <p>「つながる世界と日本」活用</p> <p>【ブレインストーミング】</p>
<b>成果</b>	参加者とワークショップのフィット感があり、意欲的に取り組む姿が印象的であった。自分と世界がつながっていることを再認識することができた。また、日常の授業が世界の課題を解決することにつながっていることに気づき、授業を SDGs の枠組みで捉え直すことができた。		
<b>課題</b>	研修と授業を往還する仕組みがあるとさらに有益だと考える。例えば、代表の授業者を決め参観する機会を作ったり、メーリングリストを使った研修後のフォローアップ体制を作ったりすることが考えられる。		
<b>備考</b>	使用教材 JICA「つながる世界と日本」		

## SDGs で世界を見てみよう

所属	JICA 中部	実践者	遠山 桂吾
対象	愛知県総合教育センター職員 (37名)	実践日	2022年10月13日(木)
実践教科	職員研修	時間数	90分
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs について理解を深める。</li> <li>・SDGs の視点を通して、貧困をなくすために自分にできることを考える。</li> </ul>		
実践内容	時間	プログラム	備考
		<p>1. SDGs とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-SDGs 講義</li> </ul> <p>2. アイスブレイク(名刺で自己紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙に右図の内容を書き、自己紹介を行う。</li> </ul> <p>3. 世界の課題について知ろう(貧困)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-世界と肯定的に出会おう</li> <li>【フォトランゲージ】【対比表】</li> <li>・写真を見て、日本と似ている所・違う所を書く。</li> </ul>  <p>※写真は JICA フォトライブラリーを使用し、この国に行ってみたいと思うもの4枚と課題と感じられるもの1枚を選んだ。参加者は休憩中も写真を見ながら話していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定非営利活動法人アイキャンの動画を見て、フィリピンの現状とアイキャンの活動紹介。</li> </ul> <p>4. 貧困について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-貧困とは</li> <li>・貧困からイメージするものを付箋に書き、紙に分類しながら貼る。【KJ法】</li> <li>-貧困を解決しないとどうなる？</li> <li>・【KJ法】で書いた付箋を貼りながら【派生図】を作成する。</li> <li>・できた【派生図】にSDGsシールを貼る。</li> </ul>  <p>※KJ法で書いた付箋を利用して派生図を作成すると、参加者は取り組みやすい様子であった。</p> <p>※派生図に SDGs シールを貼ると、1つの課題に様々なゴールが関わっていることが視覚的に分かり、有効であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【ギャラリー方式】で見て回り、一番いけないことに☆印をつける。</li> <li>・グループで感想を共有。</li> <li>-アクションを考える</li> <li>・派生図から自分に関わることができそうな課題・テーマを見つける。</li> <li>・自分にできそうなアクションを A4 用紙に書く。</li> </ul> <p>5. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の気づきや感想を発表する。マイクリレーで次の発表者を指名する。</li> </ul> <p>6. JICA 事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA 中部が実施する教員向けの事業について概要説明。</li> </ul>	<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs が設定された経緯や理念を説明。</li> <li>・SDGs のポイントを4つに絞り解説。</li> </ul> <p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA フォトライブラリー <a href="https://www.jica.go.jp/pictures/index.html">https://www.jica.go.jp/pictures/index.html</a> (JICA が保管している世界各国の写真にアクセス可能。申請必要)</li> <li>・アイキャンの動画(教師国内研修で収集)</li> <li>・アイキャン HP <a href="https://ican.or.jp/">https://ican.or.jp/</a></li> </ul> <p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA 中部教師海外研修ガイドブック <a href="https://www.jica.go.jp/c-hubu/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/2020guidebook/index.html">https://www.jica.go.jp/c-hubu/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/2020guidebook/index.html</a></li> <li>・SDGs シール(JICA 中部作成)</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困にテーマを絞ったことで、参加者の SDGs に対する理解が深まった。</li> <li>・プログラムを通して、参加者が小さなことでも自分にできることをすればよいという考えを持たせた。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ1つのワークの時間が短かった。</li> <li>・フォトランゲージの指示が曖昧で、参加者が少し混乱する場面があった。</li> <li>・ワークに取り組んでいる参加者への適切な声掛け。</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践者は愛知県の教員。研修員として 2022 年 4 月から 1 年間 JICA 中部 市民参加協力課で勤務。</li> </ul>		

## SDGsで全校をHAPPYに！

<b>所属</b>	愛知県愛西市立佐屋中学校		<b>実践者</b>	中田 梨楓
<b>対象</b>	中学校 1～3 年生（約 30 名×15 クラス）		<b>実践日</b>	2022 年 6 月～11 月
<b>実践教科</b>	総合的な学習の時間・学級活動・学校行事		<b>時間数</b>	11 時間
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsを知り、自分たちの身近なことに関わりがあることに気付く。</li> <li>・SDGsを周囲に知ってもらうために、どのような文化祭を実施できるか考える。</li> <li>・誰もが住みやすいシェアハウスづくりを考える活動を通して、自分の特性や誰にとっても生きやすい社会について考える。</li> </ul>			
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>		<b>備考</b>
	1	○SDGsと17の目標に関するクイズを行う。		
	2	○SDGsと17の目標に関わりのあるニュースを探し、選んだ理由を含めグループで共有する。		・タブレットで行う
	3	○SDGsかるたを行い、SDGsについて知る。 ・他学年が作成したかるたを、グループで取り合う。 ・一人が札を取った後、全員で書いてある内容を共有する。		・NHK「みんなで作ろうSDGsかるた」参照
	4・5	○一言多い張り紙運動を、生徒会主体で全校にて行う。 ・クラスの問題点を全員で考え、いくつか挙げる。 ・グループでその問題点を意識・解決に近づくための張り紙を作成する。 ・校内のさまざまな場所に張り紙をする。		・JANIC「ひとこと多い張り紙」参照
	6～10	○文化祭でどのようなブースを作るか考え、他学年と交流する。 ・SDGsとの関わりを意識したブースにするための案を、各学級で考える。 ・ブースに用いる物などを書く学級で作成し、ブースを設営する。 ・縦割りで他学年のブースを交流し、さまざまなSDGsに関するブースを体験する。		
	10・11	○シェアハウスづくりをする。 ・人権に関するデモンストレーションを行い、人権について知る。 ・自分の特性を挙げ、自分がどのような人物かを共有する。 ・それぞれの特性に沿ったシェアハウスを考える。 ・途中でさまざまな特性をもった人物を投入し、改めて住みやすいシェアハウスづくりを考える。		
<b>成果</b>	年間を通じて、SDGsについて全校や学級で考える機会を持つことができた。そのため、生徒の身近なところにSDGsを感じるようになったと思う。また、他学年と交流することで、自分たちがもっていなかったさまざまな考え方を知るよい機会をもつことができた。			
<b>課題</b>	学級ブースでのSDGsに対する取り組みや取り入れ方に差があり、思うようにいかない部分もあった。今後は、全校でSDGsに関して考えていければと感じた。			
<b>備考</b>	今回の実践内容については、1年生の実践を記載しています。他学年とは異なる取り組みも一部記載してあります。			



## わたしの「まち」の未来を考える

<b>所属</b>	岐阜聖徳学園高等学校	<b>実践者</b>	中村 充
<b>対象</b>	高校1年生（36名）	<b>実践日</b>	2022年9月～10月
<b>実践教科</b>	総合的な探究の時間	<b>時間数</b>	3時間
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの周囲および社会に対して、疑問や課題を持ち、解決しようとする姿勢を持つ。</li> <li>・こたえが用意されていない課題に取り組む姿勢を持つ。</li> <li>・他人のアイデアを認め、尊重しながら物事をすすめる機会を持つ。</li> </ul>		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	<p>&lt;導入：電話機の変化から自分たちの暮らしを考える&gt;</p> <p>①現在の高校生がほとんど手にしたことのない電話機の発展によって、何ができるようになったのか、また私たちの暮らしや社会がどのように変化したのかを考える。</p> <p>1980年頃 コードレス式電話機 1985年頃 ショルダーホン 1999年頃 インターネットが可能な電話機 2000年頃 カメラ付きの携帯電話 【ブレインストーミング】</p> <p>②今の電話機(スマホ)の課題を挙げ、各グループから出されたものを回覧して共有する。</p> <p>③その課題を解決するための方法をグループで考え、ロイロノートで共有。</p>	<p>全体をとおして、「100年を創造するチカラ」(KAJIMA)を参考にした。</p> <p>半模造紙 付箋 マジック</p>
	2	<p>&lt;女川(宮城)の復興を参考にして「まち」について考えを広める&gt;</p> <p>①魅力的な「まち」であるために、大切なことを考える。【イメージマップ】</p> <p>②100年先も魅力的な「まち」であるために大切なことを考えて書き足す。</p> <p>③動画視聴後、4つの立場から「まち」に対する願いを想像して話し合う。</p> <p>1. 高齢者 2. 子育て世代の若い親 3. 働き盛りの世代 4. 高校生</p> <p>④上記4つの立場の願いや意見を聞いて、大切なことをさらに書き足す。</p> <p>⑤今まで気づいていなかった、自分の「まち」が魅力的な「まち」であり続けるために大切なことを再確認し、ロイロノートで共有。</p>	<p>半模造紙 付箋 マジック</p>
	3	<p>&lt;100年先も魅力的な「まち」をつくるための課題について考える&gt;</p> <p>①自分の「まち」づくりのテーマを決める。</p> <p>②Xチャートを使って、4つの視点からテーマの実現に必要なことを考える。</p> <p>1. 必要なヒト・モノ・コトから考える 2. 様々な立場から考える 3. 時間・期間を考える(いつまでに?) 4. 未来を見据えて考える</p> <p>③Xチャートの内容をふまえて自分が解決したいと思う課題を設定する。</p> <p>④未来のために大切だと考えたことをまとめ、ロイロノートで共有。</p>	<p>Xチャートのシート</p>
<b>成果</b>	<p>これまで住み続けてきた自分の「まち」に対する関心が高まった。また、高校生としての立場だけでなく、他者の立場にたつて物事を考えることで、魅力的なまちと一言で表したとしても、様々な願いを実現しなければならないことに気づくことができた。</p>		
<b>課題</b>	<p>課題を持つことは出来たが、実際に自分の住む「まち」の市役所に出向いたり、年齢や立場の違う人たちと話をしたりして、それらの課題を深掘するまでには至らなかった。課題の解決に向けて、実際に動き出す取り組みが必要であった。</p>		
<b>備考</b>	<p>研修で「参加型」の良さを体験し、それを授業に取り入れることで生徒たちが普段よりコミュニケーションを取り、自分たちで考えようとする時間をつくることができた。今後も積極的にこの手法を取り入れたい。</p>		

# 「オークション」

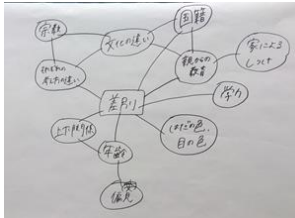
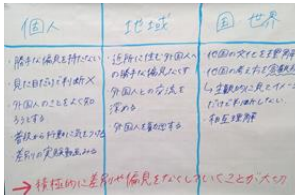
所属	三重県四日市市立橋北中学校	実践者	西尾 亜利紗
対象	中学校2年生(25名)	実践日	2022年11月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	1時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームを通して、生まれた場所で生じる格差を体験させる</li> <li>・ 自分の中にある差別心に気づかせる</li> </ul>		
実践内容	時間	プログラム(生徒の活動)	備考
	5分 20分 15分	<p>I. 最近欲しいものについて発表する</p> <p>II. ゲームを始める</p> <p>① 教師からの説明を聞き、シチュエーションを理解する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あなたは班の仲間とともに宇宙旅行に行きましたが、宇宙船が突然故障し、避難船がある場所まで自力で移動しなければなりません。必要な物品をオークションで販売しますので、落札してください。</p> </div> <p>② 教師が各班に財布を配るが、場所によって金額を変えておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1,000円×16枚(16,000円)×2班</li> <li>・ 1,000円×24枚(24,000円)×3班</li> <li>・ 1,000円×32枚(32,000円)×1班</li> </ul> <p>③ 班で所持金を確認し、オークションに向けての作戦を立てる</p> <p>④ オークションをする</p> <p>※ 各班意気揚々とオークションに参加し、楽しい雰囲気が流れるが、所持金の差に気づき始めると生徒の表情が一変する。</p> <p>※ 生徒が「先生、金額がおかしいよ?」と言ってきても、「そこに居るのだから仕方ない」と伝える</p> <p>III. オークション終了後、感想をシェアする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ オークション前半の気持ちと後半の気持ち</li> <li>➢ 所持金が少なかった班の人の気持ち</li> <li>➢ 所持金が多かった人の気持ち</li> </ul> <p>IV. 教師の話聞く</p> <p>努力して手に入れた席ではなく、たまたま座っている席で金額が決まった。このように、たまたま生まれた場所がそこだったからという理由で、格差が生まれたり、差別が生まれたりしている現状がある。</p> <p>V. 今日の気づきをまとめる</p>	<p>オークション開始前に金額の差に気づかれないよう、班を超えての会話は禁止とする</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生徒への問い</span> 配られた金額が自分の方が多いと分かっても、たまたまこうなったから仕方がないと思わなかったか?それが自分の中にある差別心であり、その気持ちが差別を生む。</p>
成果	<p>「オークション」を通して、「たまたま居た場所で決まる」ことを実際に体感し、自分の努力とは関係ないところで生じている現代社会の様々な格差や差別を自分事として捉えられる素地を養うことができる。この授業を経てから、SDGsや人権問題についても、その本質を見つめ、より実感を持って取り組む姿が見られる。</p>		
課題	<p>理不尽な格差や差別を生徒が実感することによる心的ショックが大きい。生徒によってはゲーム中に泣き出すこともある。感想シェアリングの際に心の中のモヤモヤを丁寧にアウトプットさせることが必要である。</p>		
備考	<p>このゲームは、教師が前後の文脈をどのように設定するかで生徒に様々な社会課題に紐付けて考えさせることができるし、生徒自身にこのゲームの意図について考えさせ、社会課題こ目を向けさせるもできる。</p>		

## 韓国の高校生と日韓問題を語ろう

26

所属	愛知県立旭丘高等学校	実践者	服部 誠
対象	高校1・2年生の希望者(20名)	実践日	2022年10月～11月
実践教科	学校設定科目(SDGs探求ゼミ)	時間数	4時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日韓すれ違いの背景として、日本人と韓国人の歴史・法律に対する見方の違いを理解する。</li> <li>・それぞれ偏見や思い込みを乗り越えて、日韓関係の改善・発展の方策を考える。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>&lt;日韓すれ違いの背景を考える&gt;</p> <p>(1)韓国の好きどころ・嫌いどころ3つ→分類=歴史問題ですれ違う背景(「正しい」歴史の見方の差)【カード式整理法】</p> <p>(2)日本の韓国植民地化の歴史【講義】</p> <p>(3)植民地化は間違っていたか、やむを得なかったか【討論】</p> <p>(4)日本政府見解の確認=国策の誤り(村山談話)</p> <p>(5)他の選択肢の確認=石橋湛山「小日本主義」の紹介</p>	<p>日本=真偽</p> <p>韓国=善悪</p> <p>間違っていた21%</p> <p>やむを得なかった44%(世論調査)</p>
	2	<p>(1)異文化に対する好ましい接し方の確認=協働のために必要なことは何か【バーニング】</p> <p>(2)日韓のすれ違い(歴史は過去の事か今の事か、約束(法)と救済はどちらが優先か)【講義1】</p> <p>(3)韓国の立場を自分ごととして考えてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国内の空襲被害者の扱いの妥当性(法の下での平等と立法措置)【討論】</li> <li>・らい予防法、優生保護法による差別と救済【講義2】</li> </ul> <p>(4)日韓関係改善のメリット2つずつ【ブレインストーミング】</p> <p>&lt;意見交換のための事前準備&gt;</p> <p>★日韓関係の発展につながる質問を3つ、それぞれグループごとに相手国に送る。質問の回答を作成して送り返す。</p> <p>&lt;Zoomを使った意見交換=韓国・高陽国際高校&gt;</p>	<p>主張:非主張</p> <p>協力:非協力</p> <p>→協働・競争・適応・逃避</p> <p>日本=武家文化(法治)</p> <p>韓国=儒教文化(徳治)</p>
	3	<p>・自己紹介、学校紹介、日韓の高校生活紹介(アイスブレイク)</p>	<p>日韓5人ずつ4グループ(40名)</p>
	4	<p>・日韓関係発展のための質問と回答についての意見交換</p> <p>→事後、感想文を交換</p>	<p>使用言語=英語</p>
成果	<p>多様なものの見方が存在することを理解し、高校生同士が直接意見を交換することで、互いに相手国に対しての偏見、思い込みを払拭する機会となった。</p>		
課題	<p>従来、韓国を訪問し、対面で韓国の高校生と意見交換をするプログラムとして実施してきたが、今年度もコロナ禍のために訪韓できなかった。生徒はセンシティブな質問を避けたため、物足りなさを感じられた。</p>		
備考	<p>ゼミは2015年からSGH事業の一つとして、週1回、授業後に通年で開講(希望者、100分間)。日韓に共通する課題(格差の拡大、ジェンダー問題、歴史問題など)について研究発表、討論をした上で韓国を訪問し、高陽国際高校の生徒と意見交換をしてきた。今年度はオンライン交流となったため、核心部分である歴史問題についての実践事例を報告した。</p>		

# 差別について考えよう

所属	愛知県立豊橋西高等学校	実践者	布藤 祐子
対象	高校1年生 (32名)	実践日	2022年12月
実践教科	歴史総合	時間数	2時間 (50分×2)
ねらい	・差別は歴史の中だけでの問題ではなく、現代にもつながる課題であると気付く。 ・自分自身の偏見に気づき、差別のない社会のために行動していこうとする態度を育成する。		
実践内容	回	プログラム	備考
	10分	①アイスブレイク(4つの項目で自己紹介) ・名前、好きな歴史上の人物、行ってみたい国、冬休みの過ごし方(A4用紙)	④「差別はなぜ起こるのか」(因果関係図)
	5分	②授業の中で扱った歴史上の「差別」の中で、現代も完全に解決できていないものに☆をつける。(こちらで作成した資料を使用)	
	15分	③動画を視聴する。 (「青い目茶色い目」1968年にアメリカの小学校教師が行った差別実験)	
	15分	④差別はなぜ起こるのか考える。【因果関係図】	
	5分	⑤ふりかえり(感想記入)	
	10分	①アイスブレイク ・名刺を作って自己紹介しよう (10年後の自分) ・後だしじゃんけんゲーム	③差別をなくすために出来ること(対比表)
	15分	②名刺交換ゲーム【ロールプレイ】 ・名刺の人になりきって自己紹介する。人によって態度を変えなかったか、偏見はなかったかなど、自分の行動をふりかえりグループで感想を共有する。 ・固定観念、偏見、差別の定義を伝える。	
15分	③差別をなくすために出来ること、すべきこと【対比表】 ・個人、地域、国の3つの単位で考える。 ・ギャラリー方式で共有する。		
10分	④ふりかえり(感想記入) ・グループで共有		
成果	差別の問題を自分事として捉えさせるアクティビティとして、名刺交換ゲームが非常に有効だった。「差別は絶対だめ」「なぜこんな酷いことをするのか理解できない」と言っていた生徒が、自分自身にも偏見の目があると気付いたことは、生徒にとって大きな衝撃だったようで、深い学びにつながったと感じる。		
課題	・名刺交換ゲームは広い教室で行う方がやりやすと感じた。積極的に名刺交換に行けない生徒にはフォローが必要である。 ・因果関係図や対比表は、なかなか意見が出ない班もあった。他の班と意見を共有したり、問いかけをするなどして、広い視点から考えさせられるようにする必要があると感じた。 ・今回の気付きを忘れないように、2年時の「公共」の授業では、より具体的な事例を取り上げながら、人権教育につなげていきたい。		
備考	これまで公民の授業の中で差別を題材に扱うことはあったが、平和や差別というテーマは、歴史の授業の中で取り上げた方がより深まるのではないかと考え今回実践を行った。		



## 中学生×企業訪問×SDGs×スタート

所属	愛知県愛西市立佐屋中学校	実践者	蒔田 憲一
対象	中学校3年生(161名)	実践日	2022年4月～9月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	12時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsと自身の関係性を知る。(2年次)</li> <li>・なぜ達成する必要があるのかを考えさせる。</li> <li>・大人たちはどのようにSDGsと関わっているのかを知り、SDGsと社会の関わりを意識させる。</li> <li>・SDGsと社会との関わりを意識することで、「自分たちに何ができるのか」を意識させる。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	①	SDGsの項目の中なら自身の一番興味のあるものを選び、その中でも自分ができることを書にしたためる。また、それを解決するためには何をすればよいのかを学び、一枚の掲示物を作る。【2年次】	
	①	SDGsカードゲームを用いて、全てのSDGsを達成するためには、自分たちだけではなく、世界と歩調を合わせることが大切だということに気づかせるとともに、先送りしてはならない課題であることを気づかせる。	外部講師の依頼
	②	修学旅行で企業訪問を行う際の事前学習として、GW課題としてその企業がSDGsとどのような関りがあるのかを調べさせる。 (訪問する企業を上記の観点をもとに選定) 修学旅行終了後に学んだことを発表すると提示。	旅行会社・教員で受け入れ先の選出・選定を行う
	③	修学旅行にて、実際に企業を訪問し、質疑応答を通して企業とSDGsの関わりを学ぶ。	
	④	三菱モルガンスタンレー証券(以下モルガン)の「株の力」のプログラムに参加。株のもつ可能性を学ぶとともにプレゼンテーション能力の向上を目指す。	外部講師依頼
	⑤	GW課題・企業訪問・モルガンの学習を掛け合わせたプレゼンテーションを行うため、夏休みを準備期間とした。	
⑥	各企業の取り組みの報告ならびに、自分たちに何ができるのか、何をしたいのかの「スタート」のプレゼンテーションの実施。(学級発表→学年発表→学習祭にて全校発表)		
成果	SDGsを学ぶ前は「どこかのえらい人がやる」「自分たちには関係ない」という意見が多くみられた。しかし、学習を重ねることで「自分たちになにかできることはないか」と考える生徒が圧倒的に増え、「知らない」「関りがない」という人を減らせるように情報を発信していきたいという考えに至るまで昇華することができた。		
課題	本研究は一個人では大変難しく、学年主任と実践後のビジョンを共有し、学年として環境を整えた中で実践できたことが大きい。本実践は協力体制の確立ということが大きな課題である。また、生徒が学んだことを具体的に実践する場の設定ができなかったため、それぞれのスタートが内面で完結してしまったことが課題である。本実践で生徒が感じたことをアクションさせてあげられればと感じた。		
備考			

母国を追われて 異国で生きるということ

所属	公益財団法人名古屋国際センター	実践者	松岡 萌梨
対象	中・高・大学生・一般:40名、地球市民講師:25名	実践日	9月10日(日) 14:15~16:00
実践教科	発見！体験！地球市民キャンパス(チャレンジコース)	時間数	1回(1時間45分)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウクライナ避難民が生まれる背景について知り、彼らが身近にいることに気づく。</li> <li>・母国を追われて、異国で生きることに共感的に理解する。</li> </ul>		
実践内容	時間	プログラム	備考
	14:15	<p>1. <u>ねらい説明&amp;アイスブレイク&amp;自己紹介</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★安全で、人権が守られている私たちの暮らしに改めて気づく。</li> <li>・「今の私に欠かせないもの、大切なもの」をできるだけ多く書き出す。</li> <li>・グループ内で自己紹介を行う。(私の一番大切なもの紹介)</li> </ul>	
	14:35	<p>2. <u>ウクライナの人々、情勢、避難民について知ろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ウクライナ避難民が生まれる背景を知り、彼らが身近にいることに気づく。</li> <li>・ウクライナの文化、人々の紹介</li> <li>・ウクライナ的情勢と現状、避難民への支援活動</li> </ul>	<外部講師>戸村京子氏(特定非営利活動法人チェルノブイリ救援・中部 理事)
	15:15	<p>3. <u>逃げなくてはなりません！ 何を持っていきますか？【シミュレーション】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★母国を追われる人々の気持ちに心を寄せ、共感的に理解する。</li> <li><u>場面①</u> 日本から逃げなければならなくなり、カバン1つ(12マス)に荷物をつめる。※アイスブレイクで書き出した「私にとって欠かせないもの」も参考にする。</li> <li><u>場面②</u> 荷物を半分(6マス)に減らさなくてはならない。</li> <li><u>場面③</u> たったひとつの荷物だけに絞らなくてはならない。</li> <li><u>場面④</u> 避難国に到着、これから異国での暮らしが始まる…。</li> <li>・最終的に残った荷物、減らした荷物とその理由をグループで共有する。</li> <li>・逃げなければならなくなったとき、途中で大切なものが減っていくとき、避難国にたどり着いたとき、どんなことを思ったり感じたりしたかを共有する。</li> </ul>	参考:開発教育協会「基本アクティビティ集2」
	15:40	<p>4. <u>まとめ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に難民が持って逃げたものを紹介する。【フォトランゲージ】</li> <li>・避難民が実際にどのような状況で母国を逃れたのか、ゲストの話を聞く。</li> <li>・母国を追われる人は、「ウクライナ」だけではないことを伝える。</li> <li>・「国際化セミナー」の紹介</li> </ul>	Unicef、UNHCR (詳細:下記備考欄記載)
成果	シミュレーションの手法を取り入れ、「難民・避難民」という、一見すると自分とは遠い存在を共感的に理解し、身近に感じることに繋がった。参加者からは、「他の国で全てを失い生きるということには、自分を自分たらしめるものが必要なかもしれない」などの感想が得られた。		
課題	当センターの別事業「国際化セミナー」(難民が生まれる背景や、日本に暮らす難民の声を聞き、同じ地域に暮らす住民としてできることを考えるセミナー)と連携させたため、本講座では「知る・気づく」の内容に留めた。参加者の関心をこの講座内で終わらせず、次に繋げる機会にはなかったが、今後、「考える・行動する」までカバーできるような開発教育を活かした講座も実施してみたい。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・unicef『もの』を通して伝える、越境の物語 難民・移民の子どものストーリー」</li> <li>・国連 UNHCR 協会 Youtube「リスト:彼らが手にしていたもの」</li> </ul>		

## ゴミヘラシテミナイ??

1	津島市立東小学校	実践者	真鍋 裕可里
対象	小学校6年生(30名)	実践日	2022年9月~11月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	10時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ問題について知り、ごみ問題を解決する必要性に気付く。</li> <li>・ごみ問題を解決するためにできることをさまざまな視点から考える。</li> <li>・自分にできることを考え、行動宣言をする。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆『現在のごみ問題を知る』</p> <p>① ごみ問題クイズをする。(スライドを使用して、グループで一緒に考える。楽しみながらごみ問題を知れるような3択クイズを行う。)</p>	パワーポイント資料 ペン(プロッキー)
	2	<p>② ごみ問題クイズをする。(表面はクイズ、裏面はそのクイズに関する豆知識を載せたワークシートを使用し、クイズを行った後に豆知識をグループのメンバーに共有する。)</p>	数字パネル ワークシート
	3	<p>◆『ごみ問題対策の必要性に気付く』</p> <p>① ごみ問題をそのままにすると【派生図】</p>	パワーポイント資料
	4	<p>② ゴミ分別クイズ(ごみのイラストが描かれたラミネートシートを使用して行う。分別の仕方が知られていないことに気づき、ロボット作りに活かせるようにする。)</p>	ペン(プロッキー) ごみの絵のシート A4の紙 ワークシート
	5	<p>◆『ごみ問題を解決するためにできることを考える』</p> <p>① 解決するために必要なことを考える。【プレスト】</p>	パワーポイント資料
	6,7	<p>② ごみ問題を解決するロボットを考え、ロボットのデザイン、名前、アピールポイントを模造紙にまとめて、プレゼンテーションをする。【力の分析】【イメージ図】</p>	ペン(プロッキー) A4の紙 B紙
	8,9	<p>③ 牛乳パックから紙を作る。(紙すき)【体験】(ごみをごみのままにしない体験をする)</p>	牛乳パック 紙すきの道具
	10	<p>◆『自分に何ができるかを考え、行動宣言する』</p> <p>① ごみ問題を解決するために必要なことを再度考える。【プレスト】</p> <p>② 家、学校、地域でできることをそれぞれ3つずつ考え、書き、共有する。【できることビンゴ】</p> <p>③ 学習をふり返り、ごみ問題を解決するために自分にできることを考える。【行動宣言】(体験で自分が作成した牛乳パック再生紙に書く。)</p> <p>☆毎時間授業初めにアイスブレイクを行った。 例:餃子じゃんけん、自己紹介すごろく、一言自己紹介など</p>	パワーポイント資料 ワークシート ペン(プロッキー)
	成果	<p>ごみ問題を楽しみながら知るクイズにより、自分たちの生活にもごみ問題は関わっていることに気付くことで、解決の必要性に気づき、自分にできることの行動宣言までさせることができた。ロボット作りも楽しそうに取り組む様子が見られた。また、牛乳パック再生紙に行動宣言を書かせる活動は効果的であった。</p>	
課題	<p>クイズの際に、ネガティブな内容のクイズを扱ってしまったために、肯定的に問題に出合わせることができなかった点が問題点である。また、牛乳パック再生紙を作る活動は人手が必要であると感じた。ロボット作りでは、似たようなロボットになってしまったため、子どもたちへの情報提供の仕方に工夫が必要である。</p>		
備考	<p>【今後の予定】人権、多文化共生について学んだ6年生の他のメンバーと共に、津島市SDGs未来都市プロジェクトとして、よりよい街づくりのために津島駅前、天王川公園、未来の学校をよりよくしていく企画書づくりを行っていく。</p>		

## 取り組もう！ゴミミッション！！

所属	名古屋市立東海小学校	実践者	森谷 朋香
対象	小学校5年生(21名)	実践日	2023年1月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	45分×8時限
ねらい	・ボリビアのゴミ問題と解決方法について知る。 ・身の回りでもゴミ問題があることに気づき、解決するために自分にできることを考え行動する。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◇ボリビアはどんな国？ ① 写真を見たりクイズに答えたりして、ボリビアの衣食住や文化、日本とのつながりについて知る。【フォトランゲージ、クイズ】 ② ゴミ問題の写真を見て、グループで気付いたことと書いたことを書き出す。【フォトランゲージ、ブレインストーミング】 ③ 各グループの意見を全体で発表する。 ④ 個人で分かったことや思ったことを振り返り、グループで共有する。	
	2	◇ゴミ問題を放置すると・・・？ ① ゴミ問題を放置するとどんな影響があるかをグループで考える。 【派生図】 ② 回し読みをして命に関わると思うものに印を付ける。 ③ 個人で思ったことを振り返り、グループで共有する。	
	3	◇ボリビアでの取り組みは？ ① 動画や写真で、エコサントイレやコンポスト、環境教育の取り組みについて知る。 ② 個人で分かったことや考えたことを振り返り、グループで共有する。	
	4	◇身の回りのゴミ問題は？ ① 自分たちの身の回りで起きているゴミ問題をグループで書き出す。 【ブレインストーミング】 ② 写真を見て、家庭や学校だけでなく、企業や公共施設などでもゴミ問題があること知る。【フォトランゲージ】 ③ 個人で分かったことを振り返り、グループで共有する。	
	5	◇ゴミ問題の影響は？ ① ゴミ問題の原因となるものや行動を考える。【因果関係図】 ② 回し読みをしてなるほどと思ったものに☆印を付ける。 ③ 個人で思ったことを振り返る。	
	6	◇できることを考えよう！ ① ゴミを減らすためにできることをグループで書き出す。 ② 自分が取り組もうと思う順にランキングづけをして、理由とともにグループで共有する。 ③ ランキングから、一週間取り組むことを決めて発表する。	
	7・8	◇みんなに伝えよう！ 取り組みの様子や感想を新聞にまとめ、発表する。	
成果	・最初にボリビアとの肯定的な出会いをしたことで興味を持ち、その後の活動も意欲的に取り組むことができた。 ・課題解決のための方法を自分で考えて行動する経験をさせることができた。		
課題	・毎時間の振り返りで、何について振り返るのか視点を明確にしておくことで学習をより深めることができた。		
備考			



## 本当の豊かさって何だろう??

所属	一般社団法人 ライトトレーニング	実践者	安井 葵
対象	社会人（各7名）	実践日	2022年12月
実践教科	SDGsプログラム	時間数	45分×4コマ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちにとってあたり前である文化、習慣、ステレオタイプが他者に起こす影響を知る。</li> <li>・多様な他者と共に生きるために大切なことを考える。</li> <li>・何が豊かさかを考え、みんなが暮らしやすい社会を考え一人一人の行動の大切さに気付く。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>イントロダクション～SDGsとは～ ～共生編～多様な他者と共に生きるとは アイスブレイク「行ってみたい国とその理由」 ☆「見つけよう！外国から来たモノ・世界と繋がりがああるモノ」【プレスト】 身近に溢れる外国との繋がりに気づき、私たちの生活にかかせないモノと実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国から来たモノや 日本に暮らす外国人の増加(情報提供)を通して「隣に外国人が移り住んできたらどう思う?」「なぜ?」</li> <li>☆レバ国とアンブラー国の交流【ロールプレイ】</li> <li>・交流によって何が起こった?そのときどんな気持ちになった?【対比表】</li> <li>・あのまま交流を続けていたら【派生図】</li> <li>・異なる文化を持つ人たちと触れ合うときに大切なことは何かを考える。</li> </ul> <p>【プレスト】</p>	<p>日本の外国人人口推移 総務省統計</p> <p>仮想国の国際交流体験</p>
2	<p>～豊かさ編～みんなが幸せに暮らせる社会とは アイスブレイク「自分が大切にしているモノ10個」 ☆「本当の豊かさって何だろう」 ・地球家族と豊かさ【ランキング】 豊かさの基準ランキング、見落としていた豊かさ ☆モノ豊かさ=幸福ではない?! ・日本の幸福度、日本の自殺率(情報提供) ・何が原因か考える【因果関係図】 ・解決できないとどうなるか【影響・派生図】 ・問題を解決するために役立つこと・大切なこと・できること【プレスト】 ☆私を自分らしく十分にいきさせてくれているもの ・“すべて”の人、人間なら誰もが十分に生きるために【カード式整理法】 ・望むより未来!!よりよい未来の姿三カ条【プレスト】 ・自分にとっての豊かさ</p>	<p>グループごと 各5か国の写真</p> <p>厚労省、文科省資料 統計資料</p>	
成果	<p>広い視野(世界)から入ったが他人事止まりにならず、身近な問題にも繋がったことで、自分の身の回りに目を向け当事者意識が得られ、参加者の真剣に考え話し合う姿が見られた。最後には一人一人の意識、行動が大切という言葉が聞けて、「一人の百歩より百人の一步」に繋がったのが良かった。</p>		
課題	<p>初回の進行が予定より早く進み、後半間延びにしまい時間管理の見直しが必要。質問の質が悪いのか、しばらく手が止まっている時間があつたが言い換えると手が進んでいた。参加者の目線にあった質問が求められる。</p>		
備考	<p>依存症患者による社会人を対象に行う。彼らが社会と繋がりの中で抱える課題をテーマにプログラム構成。ワークを通して社会の中での自分の位置づけを改めて考え、誰もが十分に生きるためには自分らしく生きる大切さ(豊かさ)にも繋がるように意識。参加者は、身の回りに起こるスティグマにより暮らしづらさを感じている人も多いため、自分の経験と照らし合わせ、自分事として考えやすかったようだ。</p>		

# オーストラリアってどんな国？

<b>所属</b>	東郷町立東郷中学校	<b>実践者</b>	山下 歩
<b>対象</b>	中学 1 年生 30 名	<b>実践日</b>	2023 年 2 月
<b>実践教科</b>	外国語(英語)	<b>時間数</b>	2 時間(50 分 × 2)
<b>ねらい</b>	・オーストラリアと肯定的に出会う(文化や学校の様子を知る) ・日本との違いや共通点を知る		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	<b>【メグの国オーストラリアってどんな国？】</b> <b>ゴール</b> グループ紹介と質問(英語 1 文)を考える 5分 <b>◇イントロダクション</b> オーストラリアとのオンライン交流について オーストラリアといえば？知っていることをランダムに出し合う 20分 <b>◇オーストラリアの概要を知る &lt;P.8~23&gt;</b> 6チーム対抗 Kahoot! クイズ 14 問(地理、食べ物、動物、言語など)	事前準備: 6 グループ分け、グループ名、リーダー選出、紹介 & 質問プリント準備  タブレットクイズゲーム
	10分	<b>◇オーストラリアの学校(フォトランゲージ)&lt;P.21~22&gt;</b> 学校のどんな写真か考えさせる、答え合わせの後日本との共通点・相違点を対比表で確認	カラー写真 シーン別説明カード
	15分	<b>◇グループ紹介文と質問を考えよう</b> 紹介:グループ名、メンバーの名前、グループの特徴(明るい、面白い、真面目、賢い等) 質問を考えよう:今まで習った表現を使って質問してみよう。	Skymenuでグループ紹介と質問ページを作る。
	2	<b>【交流してみよう】</b> 20分 <b>◇オーストラリアとのオンライン交流</b> 各グループのリーダーがオーストラリアの生徒にグループ紹介+質問してみる(各 1 分半) 聞いている生徒は知ったこと、学んだこと、気づいたことをメモ	プリント配布 各グループ紹介・質問一覧
	15分	<b>◇各班で振り返り</b> 6グループをAグループ×3、Bグループ×3で分ける。 Aグループ 共通点探し、Bグループ 面白いところ探し 事前学習やオンライン交流を通してわかった日本との共通点や面白いところを挙げる。	KJ 法で模造紙に貼り付けカテゴリー分け ギャラリー形式
	5分	<b>◇他の班の振り返りをのぞいてみよう</b> 共感できる！ そうだな！ と思ったら星マークを付ける	Skymenu で模造紙を閲覧可能にする
	10分	<b>◇各班プレゼン</b>	
<b>成果</b>			
<b>課題</b>	今回は 2 時間でオーストラリア(異文化)について知るプログラムとした。来年度以降もこのような時間が取れば、その国との繋がり・共通性・人類共通の課題について考えるところまで発展させたい。行動・定着化というところまで進めるには十分な時間が必要である。		
<b>備考</b>	・愛知県国際交流協会 <a href="http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/PDF/H22/australia.pdf">http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/PDF/H22/australia.pdf</a> オーストラリア編		

## 人類と地球を滅ぼす海洋プラスチック問題

所属	CMCカンボジア地雷撤去キャンペーン	実践者	山田 勝己
対象	ニュートン高等専修学校 1年生 (26名)	実践日	2022年 10月～11月
実践教科	公共	時間数	5時間 (1時限 45分)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間にとって便利なプラスチックが地球環境に与える影響について気付く</li> <li>・SDGs目標 14「海の豊かさを守ろう」とプラスチックの関係を学ぶ</li> <li>・プラスチックごみの問題を解決する方法と自分自身ができる行動を考える</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アイスブレイク (実際には各回の始まりにアイスブレイクを必ず実施)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)日常生活の中でよく使うプラスチック製品は?</li> <li>(2)なくなると困るプラスチック製品は?</li> <li>(3)プラスチック(ペットボトルとマイクロプラスチック)に関するクイズ</li> </ul> </li> <li>◆アクティビティ(1) 映画『プラスチックの海』を視聴し、気づいたこと・感じたことをグループ内で共有</li> <li>◆ミニレクチャー(1) SDGs目標 14 「海の豊かさを守ろう」について</li> <li>◆アクティビティ(2) 「資料を読んで『なぜ、プラスチックごみが海に漂っているのか』その理由を考え、グループで共有しよう!</li> </ul>	アイスブレイク ・クイズなど  短編映画鑑賞  ミニレクチャー 資料
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ミニレクチャー(2) プラスチックスープの海(太平洋ゴミベルト) ～日本から排出されるプラゴミは国土の4倍に!～</li> <li>◆このペットボトル、どこから来た? 太平洋側(渥美半島)と日本海側(福井県敦賀市)で回収した外国製ペットボトルの原産国を調べる!</li> </ul>	ミニレクチャー  フォトランゲージ
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ミニレクチャー(3) マイクロプラスチックの実態を知る 四日市大学の研究を参考に、海岸で採取したマイクロプラスチックと伊勢湾のイワシの内臓に潜むマイクロプラスチックについて学ぶ</li> <li>◆アクティビティ(3) グループワーク 「このままプラスチックごみ問題を放置したら何が起きるか」を派生図の手法を使ってグループごとに考える。他のグループを回って「いいね」をつける</li> </ul>	ミニレクチャー  派生図
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アクティビティ(4) グループワーク 課題:「地球を滅ぼすプラスチックごみ問題を解決したい!」 目標:「プラスチックごみを出さない社会を創る!」</li> </ul>	力の分析
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アクティビティ(5) グループワーク 「自分や家族や学校」ができること 「国や世界」ができること</li> <li>◆アクティビティ(6) グループワーク プラスチックごみ問題解決のための5か条をグループごとに発表</li> </ul>	プレスト 対比表  5ヶ条の策定と発表
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまプラスチックごみが地球環境に及ぼしている問題を知り、自然環境だけでなく自分たち、そして未来の子どもたちにも大きな影響を与えることになる気づくことができた。</li> <li>・毎回の授業の最初に実施したアイスブレイクやグループワークに楽しんで取り組んでくれた。</li> <li>・この授業の流れで、「新型コロナウイルスによるマスクごみの海洋汚染」のワークショップを2時限実施。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なアクティビティを実践してみたが、生徒たちにやるべきことを理解させるのに時間がかかった。</li> <li>・学習に支援を必要とする生徒が多いため、いかにわかりやすく、楽しく展開するか苦労した。</li> </ul>		
備考	今回の実践と直接関係ないが、ペットボトルキャップ800個がポリオワクチンになって、アフリカなどの子どもが1人救われるという話をしたら、家庭で集めて持ってきてくれるようになった。		

## 教室ダイバーシティ ～ともに暮らす～

<b>所属</b>	岐阜県可児市立広見小学校		<b>実践者</b>	山本 実穂	
<b>対象</b>	小学校5年生(31名)		<b>実践日</b>	2022年11月～2023年1月	
<b>実践教科</b>	総合的な学習の時間		<b>時間数</b>	4時間	
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの多様性について知り、認め合いながら生活することの良さに気付く。</li> <li>・言語や文化を「知る」ことで生まれる世界とのつながりについて考え、異文化への関心をもつ。</li> <li>・外国にルーツをもつ友達とも、共に幸せに生活するために、自分にできることを考える。</li> </ul>				
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>		
	1	① 4つのコーナー【アイスブレイク】 教室に4つのコーナーを作り、好みや価値観に関する質問に対して当てはまる所へ移動する。 ② 多様性が認められる学校と、多様性が認められない学校ではそれぞれどんなことが起こるかを考え、交流する。【派生図】	ワークシート(1)  派生図の用紙		
	2	① 名刺で自己紹介【アイスブレイク】 4つのお題について、自分を紹介するキーワードを書き出し、グループ内で交流する。 ② 知ることのできるようになることについて考える。出身国や文化の違いがあってもできそうなことを話し合う。【派生図】 ③ ○○国のなりきり友達紹介【ロールプレイ】 他国の子どもの情報を、仲の良い友達であるという設定でペアの子に友達紹介をする。	名刺カード  派生図の用紙  フォトランゲージ 用教材「地球の仲間たち」(ひだまり舎)		
	3	① ベトナムクイズ【クイズ・フォトランゲージ】 ベトナムでの写真から、様子を想像して答える。 ② ベトナムで日本語を勉強する子どもたちへのインタビュー映像を見て、自分との共通点や相違点に話し合う。	「わたしたちの地球と未来」(愛知県国際交流協会) インタビュー映像		
	4	① もし自分がベトナムの学校に転校するとしたら、楽しみなことと困ることを考える。【ロールプレイ】 ② 自分の行動宣言を立てる。 多様性を認め合って暮らしていくために、自分にできることを考える。	ワークシート(2)		
<b>成果</b>	「教室ダイバーシティ」と名付けた今回の授業の時間を、児童は毎回とても楽しみにしていた。特に外国籍の児童は、自分のアイデンティティであるルーツを表に出しても良いことに気づき、日本国籍の児童も教室の中にあるグローバルな環境を楽しみながら、さらに深く知ろうとする姿が多く見られるようになった。				
<b>課題</b>	様々な事情で、ベトナム人留学生とのオンライン交流は実施することができず、実際に児童がベトナムを身近に感じられる場面が少なくなってしまった。また、今回の授業実践は、担任するクラスに留まってしまったので、今後は周りの先生への提案ができるように学び続けたい。				
<b>備考</b>	第1時に入る前に、導入としてSDGsについて知る動画を視聴したり、SDGs すごろくを通してSDGsの内容を学んだりした。興味のあるSDGs項目に名前を書いた掲示物を教室に掲示した。				



誰もが夢をつかめる世の中に

所属	愛知県春日井市立北城小学校	実践者	諏訪部 景子
対象	小学校5年生（97名）	実践日	2022年12月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	7時間（×3クラス分）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と世界の共通点・相違点を知り、国際協力に親近感をもつ。</li> <li>・世界の課題に対して、ポジティブ・具体的に考え、今自分にできるアクションを起こす</li> <li>・さまざまな視点からの「協力」の仕方があると知る</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	「世界に目を向けてみよう！」	資料「世界がもし100人の村だったら」
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の実際を統計(割合)データから世界の現状を予想をする</li> <li>・感じたことをジャムボードで共有する【知る・共有する】</li> </ul>	
	3	<p>「海外の学校の様子・子どもたちの生活をのぞいてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク「班のみんなの同じところ・違うところ」</li> <li>・フォトランゲージ&amp;対比表で途上国の学校の様子・同年代の子どもたちの生活を知る</li> <li>・面白いなど思った違いを紹介し合う・共有する</li> </ul>	【フォトランゲージ】【対比表】 (グループごとに現地の学校の様子を資料で見比べる)
	4	<p>「自分たちの願い・他の国の人たちの願いに思いを馳せてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク(自分について知る)「10年後、自分はどうなっていたい?」「そのために必要なことは?」「やってみたいと思うことは?」</li> <li>・現地の人たちの夢や大切にしている思いや希望、願いについて知る</li> </ul>	【重要性・必要性の理解】【日本の子どもの夢・途上国人々の希望・願い】
	5	<p>「学ぶ場があると・・・? 学ぶ場がなくなると・・・?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派生図(学ぶ場があると・・・学ぶ場がなくなると・・・)</li> <li>・学ぶ場が失われると、どんな問題に発展していくのかを考える</li> </ul>	【派生図】
	6	<p>「学びにアクセスできるためには?? 国際支援について知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの機会へのアクセスがなくなる原因は? 【貧困の輪】</li> <li>・貧困の悪循環について知る・それを断ち切る国際協力について調べる</li> </ul>	【貧困の輪】 悪循環を断ち切るための支援・協力の方法(訪問国ラオス・フィリピン・ルワンダ・エジプトの教育支援の例から)
	7	<p>「誰もが夢を叶えられる社会づくりのために、共に考え、共に越えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達が共感した支援・協力の仕方について紹介し合う</li> <li>・自分達ができること・協力してみたいことを決め、スライドを作成 する→気付きや思いをプレゼンする</li> </ul>	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の国(訪問国やインタビューに応じた留学生など)の人々の思いや願いに触れたことにより、「自分たちの思いや願いに重ねて考える」という積極的な姿勢が多くみられるようになった。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内からも応援できる国際協力の在り方や団体について調べる学習(知る)までは取り組めたが、時間の都合で実際に団体に交流・協力するというアクションまでは繋げられなかった。</li> <li>・実際の交流・協力のプロジェクトを組み合わせるためには、年間計画を綿密に立てた上で、十分な時間数の確保が必要であると感じた。</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用で多くの写真・映像資料を共有したり、興味・関心に合わせて調べたり出来る。</li> <li>・アウトプット(意見の発信・プレゼンテーション)があると、学びがより「自分事」に。</li> </ul>		

# VII 開発教育指導者研修(実践編)第4回

## ■ 開催概要

- ◆ 日時:2023年2月25日(土)10:00~18:00
- ◆ 場所: JICA 中部なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数:一般受講者34名、NIEDスタッフ4名、JICAスタッフ2名 合計40名
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

## ■ 第4回のねらい

- ① 実践の成果と課題を共有し、1年間の学びをふり返り、開発教育の意義と可能性を確認しあう。
- ② 開発教育を通して学んだことを一般に向けて発表し、学びの好循環を作る「はじめの一步」を踏み出す。

## ■ プログラムの内容

### ● セッションI 「研修のふりかえり」 2/25 10:00-11:15

#### 1. 主催者挨拶／第4回のねらいの確認 10:00-[15]

- ◇ JICA 中部 江口職員が、感染症対策について案内し、開会を宣言した。
- ◇ ファシリテーターが、本研修全体の流れとねらい、第4回のねらいについて説明した。
- ◇ 実践報告フォーラムに向けて各自名札を作成した。



#### 2. アイスブレイキング 10:15-[20]

- ◇ 次の2つのアイスブレイキングを行った。

##### ① お似合いのイニシャル

- ・グループで、自分の名前のイニシャルから始まる言葉で自己紹介をし合った。

##### ② 伝達ゲーム

- ・グループで1人情報の伝え手を決め、ファシリテーターが配付した図を他の参加者へ口頭で伝えた。受け手は各自で図を描いた。
- ・元の図と受け手それぞれが描いた図を見せ合い、伝え手のうまく伝えられたところ、うまく伝えられなかったところの原因は何か話し合った。
- ・隣のグループに元の図と描いた図を回して共有し、改めて、正確に情報を伝えるために大切なことを話し合った。

#### 3. 第1回～第3回のふりかえり 10:35-[40]

- ◇ 個人で、第3回の記録と資料「第1回～第3回研修アクティビティー一覧」、教師国内研修の受講者は事前・事後研修の記録を読み、3つの視点でのふりかえりをA4用紙に書き出した。

- ① 研修を通してわたしが学んだこと(3~5つ)、②自分の中で変化したこと、③もっと知りたくなったこと

- ◇ グループで、3つの視点でのふりかえりを紹介し合った。

## ● セッション2 「実践の共有」 11:15-14:40

## 1. 実践の共有 11:15-[20]

- ◇ ファシリテーターが指定したテーブルに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 「実践報告フォーラム 2023」の全体の流れをファシリテーターが説明した。

<実践報告の時間配分>

発表者の持ち時間 14 分/1 人×3 回(9 分以内でプレゼンテーション、残りの時間~14 分までで質疑応答)

- ◇ 個人で、グループメンバーの実践(「実践報告シート集」)を読み、メンバーの実践について「いいね!」と「聞きたいこと」をメモしながら、実践の概要を確認した。

## 2. 実践報告 11:35-[130]

- ◇ 翌日の実践報告フォーラム 2023 の準備も兼ね、本番と同様の流れで、グループ内で順に報告を行った。質疑応答では、実践して分かったことや、よりよくするための提案も話し合った。

- 休憩 - 12:30-[55]

- ◇ グループを替えて、同様に報告を行った。



## ● セッション3 「実践の成果とネクストステップの共有」 14:40-15:05

## 1. 体験して実感した開発教育の可能性~実践を通じた成果・よい影響(自分/学習者/周囲) 14:40-[27]

- ◇ じゃんけんをしてグループを替えた。
- ◇ 研修参加と実践を通して、①自分、②学習者、③周囲(同僚・保護者・地域など)の3つの視点で開発教育・国際理解教育の可能性として得られた成果・よい影響を、グループで模造紙にまとめた。
- ◇ 模造紙を回して共有し、個人で自分のグループでは出なかったが良いと思うアイデアに印を付けた。
- ◇ **ファシリテーターコメント...**開発教育・国際理解教育は、「わたし・あなた・みんな」に関わる力を育む。「わたし」に関わる力のコアは自己肯定感、「あなた」はコミュニケーション、「みんな」は参加と協力。これらを体験、経験することを通して身に付けられるように参加型で提供する。

## 【「開発教育・国際理解教育の実践で得られた成果・よい影響(自分/学習者/周囲)」の成果例】

## ①自分にとって

- ・仲間が増えた ・生徒の考え方やそれぞれの個性がわかった ・視点が変わった ・自分自身が楽しい
- ・同じ考えの人がいて「これでいいんだ!」と思えた ・引き出しが増えた ・物事を肯定的な面から考えるようになった
- ・授業の中で話す量が減った ・価値観をおしつけなくなった ・参加型や開発教育についてもっと知りたくなった

## ②学習者にとって

- ・話し合いが活発にできるようになった ・違いを受け入れることができるようになった ・自己肯定感が高まった
- ・「見えない部分」を見ようとするようになった ・「未来をつくる」感覚が見えた ・教室が「安心できる場」になった
- ・外国籍の子どもたちへの関わり方が変わった ・意見を気軽にらせるようになった ・人任せにしなくなった

## ③周囲(同僚/保護者/地域)にとって

- ・関心をもつ人が増えた ・ほかの教員が「生の教育」「現実を教室に持ち込む重要性」を評価してくれた
- ・会議に主体的に参加できるようになった ・子どもの反応を通して実践する仲間が増えた
- ・様々な情報をお互いに発信しあう場面が増えた ・保護者にも興味、理解が広がった

2. 「持続可能なよりよい未来を創る人を育む教育者」の使命 15:07-[48]

- ◇ じゃんけんをしてグループ替えをし、「最近驚いたこと」をお題に一言自己紹介をした。
- ◇ グループで、持続可能なよりよい社会を創るために、①必要な知識・情報、②大切な価値観、③育てたいスキルを考え、模造紙に書き出した。
- ◇ 自由に動き回って、良いと思うアイデアに★印を付けながら他のグループの成果物を見て回った。
- ◇ 持続可能でよりよい社会を創るために、教育者の使命は何か考え、「私たち教育者は〇〇する!」という文章を50音行動宣言として書き出した。
- ◇ グループで担当して書き出した行を読み上げて共有した。
- ◇ グループで、研修の感想を一言ずつ共有した。

【「持続可能なよりよい社会をつくるために、必要な知識・情報／大切な価値観／育てたいスキル」の成果例】

必要な知識・情報	大切な価値観	育てるスキル	必要な知識・情報	価値観	スキル
情報をアップデート 他国・情報 過去・歴史 失敗を伝える 誤り	人に迷惑をかけるない 命を大事にする あかいを認めあう 先入観を持たない 互いが歩みよる 自分の価値観とおしつけない 人をよぶOK!! 地球市民	対話力 人の話を聞く 発信力 コミュニケーション力 自分で情報をとりにいく力 情報の見極め 想像力 創造力 チレンジ精神 行動力 英語 失敗をおそれない	多様な人とのつながり ネットワーク 自分と違いを認めあう情報 データリテラシー 多様性+同一性 客観的なデータ 真実 SDGs 17項目+169 実践者の情報 社説・YouTube 英語力 言語活用能力	人権の尊重 人とはぐりこが強みになる 多様な人とのつながり 社会がおもしろくなる 大勢が正義ではない 肯定的に受け入れよう 思いやり	データリテラシー 人とつながる力 発信力 あたりまえを学ぶ力

【「持続可能なよりよい未来をつくる人を育む教育者の使命 50音行動宣言」の成果例】

あ あたりまえを疑って、世界を広げよう!	た たのしく学べる場づくりを	ま まるく世界市民を育てる
い いのちを大事にして、豊かな地球を育もう!	ち ちりもつもれず 持続性	み みんぞう思いやり社会を作る
う う地球とうちが皮ふや目の色は関係ない	つ つまかさねる 歴史も知ってLIFE	む むづいこと挑戦し続ける
え SDGs達成に向けて行動できる仲間を増やし、	て てい(を)ついでにLIFEのりえるLIFE	め めい先のことを提わぬ行動をする
お おもいやりの心を育てよう!	と とにかくまずはやってみよう	も もっと笑顔で!
か かによらず正しい知識 情報を伝えます	な なんと挑戦!なんでもやってみよう!	ら らぶいピースの心をもちよう
き きいて 聴いて 共感する	に にこ笑顔で!	り りょうと大事に
く グローカルな視点と大切にす	ぬ ぬりかえよう! スラレオタイプ	る るんると楽しむ
け 権利侵害を許さない。	ね ネットワークを広げ、わかろう。	れ れいいてこて
こ 固定概念にはばられない	の んびりなが〜く続けよう!	ろ ろくでもない世界がたまようぜ!
さ さあ! やってみよう!	は ははと笑顔でさく	や やってみる。おれもそれと一緒さ 教育者って実践者がある
し しぶんもみんなも大切に	ひ ひいていせすに受け入れる	ゆ ゆくりのんびり一歩ずつ
す すんで学ぼう!	ふ ふふふと理解しながらさく	よ よろこぶ姿勢を大切に
せ かいをよりよく	へ へー!すごーい!と相手を認める	ん ん?と常識 常識前に疑問をもとう。
そ ぞうかをやめたかに	は はに?!と見極めながらさく	わ わーい!とみんなを喜ばせよう。



- 休憩 - 15:55-[10]

● セッション4 「実践報告フォーラムの準備(全体)」 16:05-16:45

1. 実践報告フォーラム2023の進め方と各自の動きの説明 16:05-[30]

- ◇ 配付資料「実践報告フォーラム 2023 の進め方」を基に、当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明した。
- ◇ 質疑応答を行った。

2. フォーラム参加者に持ち帰ってほしいこと、期待すること、自分が貢献できること 16:35-[10]

- ◇ 実践報告フォーラム 2023 の最後に挨拶をする受講者代表者を決めた。
- ◇ 実践報告フォーラム 2023 を通して、「参加者に持ち帰ってほしいこと」「自分が明日に期待すること」「自分が明日貢献できること」を、グループ内で発表し共有した。

● セッション5 「実践報告フォーラムの準備(チーム or 個別)」 16:45-18:00

1. 有志ワークショップ／教師国内研修報告／個人の実践報告の準備及び相談 16:45-[65]

- ◇ 実践体験ワークショップの有志3チームは別の会場に移動し、それぞれの打合せを行った。
- ◇ 実践報告の準備と会場設営を行った。

2. 事務連絡 17:50-[10]

- ◇ 実践報告フォーラム2023に向け、事務連絡を行った。

★ 18:00 終了

---



# VIII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2023

## 開催概要

- ◆ 日時:2023年2月26日(日) 10:00~16:30
- ◆ 場所:JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B・C
- ◆ 参加者数: 一般参加者 76名、受講者 35名、JICA 2名、NIED 7名、合計 120名  
(一般参加者内訳:教員 62名、学生 5名、教育委員会職員 2名、JICA・NPO関係者 1名、その他 6名)
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊沢令子、研修受講者

## ねらい

- ①【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

## プログラムの内容

- ◇プログラムは、次ページのとおり行った。
- ◇実践体験ワークショップの詳細を P.76~81、ふりかえりの内容を P.82~83 に記載した。



▲教師国内研修報告



▲ポスターセッション



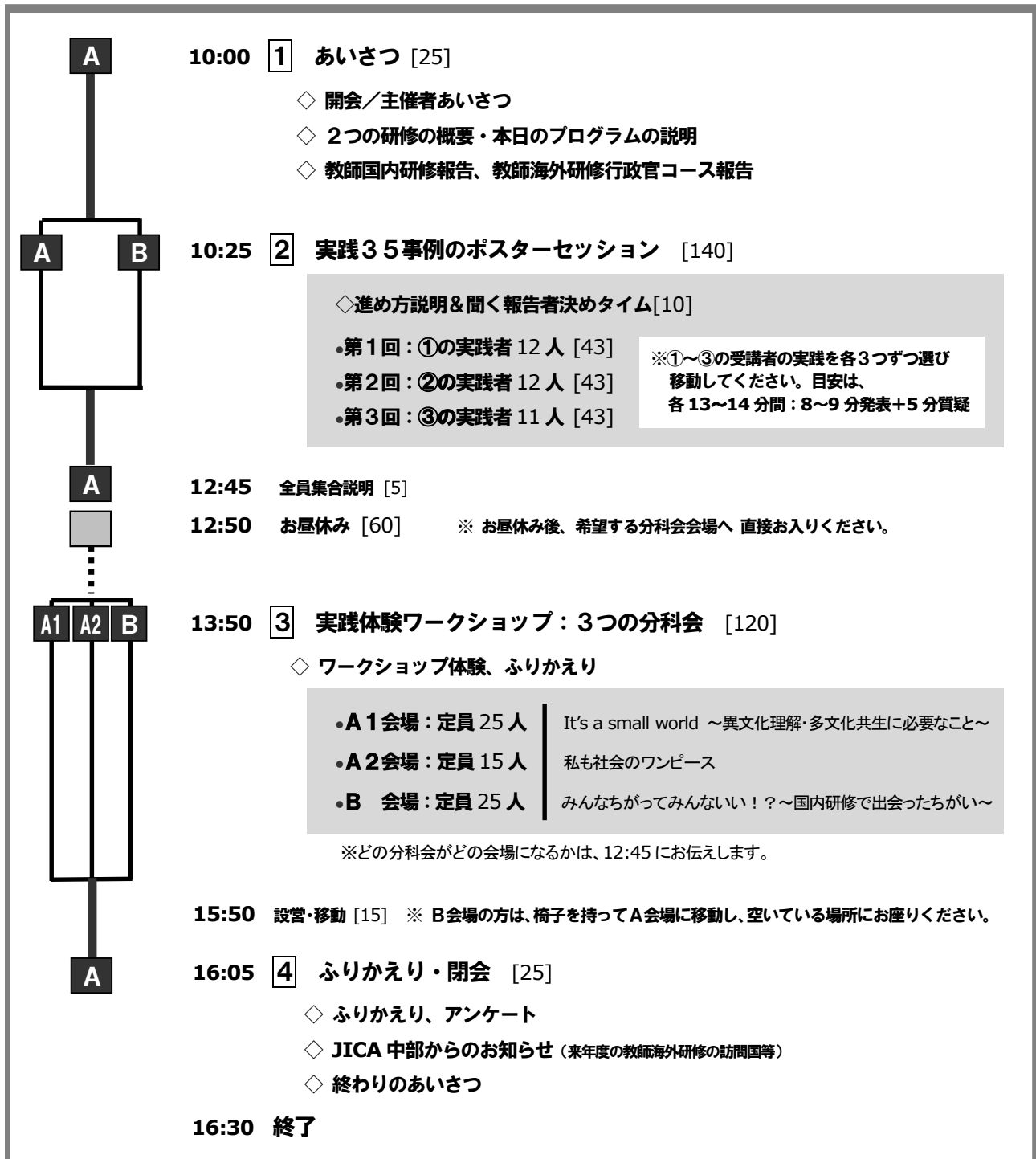
▲ポスターセッション



▲全体ふりかえり

# 開発教育・国際理解教育 実践報告フォーラム2023 プログラム

**A** **A1** **A2** **B** は使用する会場

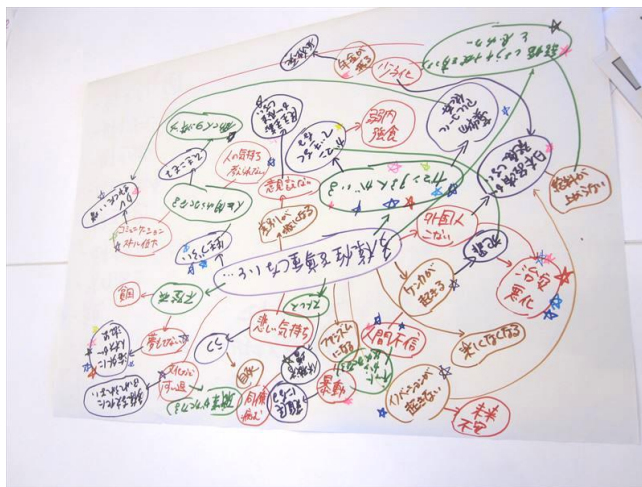


## ●実践体験ワークショップの内容 [A1会場]

テーマ	多様性・多文化共生	タイトル	It's a small world ～多様性・多文化共生に必要なこと～
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの社会の多様性に気付く</li> <li>・多様な人たちと生きる社会で大切なことは何かを考える。</li> </ul>		
参加者	合計 29 人(内訳:参加者 22 人、提供者 6 人、スタッフ 1 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:50	<b>1. アイスブレイキング「名詞で自己紹介」</b> ◇お題に沿って、用紙に記入 i : 呼ばれたい名前 ii : フォーラム参加理由 iii : 好きな日本の〇〇 iv : 私の旅行のこだわり ◇グループ内で発表→2人全体でこだわり発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は静かだったが、一気に砕けた感じ</li> <li>・笑顔や笑い声が目立つ</li> </ul>	
14:02	<b>2. グループ内の違い(多様性)を考えよう!</b> ◇グループの中で、全員が違っているものを書き出す。 ◇かけた数を数え、発表 ◇どんな違いがあったかグループで一つ発表する。(a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和気あいあいと違いを書き出している。</li> <li>・一番多かったグループは23個「おお～」</li> <li>(a)通っていた小学校 ・マイナンバー ・マスクの色等</li> </ul>	
14:12	<b>3. 旅行プランを考えてみよう</b> ◇配られた役割カードになりきって旅行プランを考える。 ※役割カードには好み、趣味、価値観が書いてある。 ※役割カードはほかの人には見せない。 ◇どこに行くか(初日午前、初日午後、2日目午前)、何を食べるか(昼、晩、朝)を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑いながら話し合っている。</li> <li>・楽しそう。</li> <li>・用意された本(旅行ガイド)を見たり、ネットで調べて案を出す人も。</li> </ul>	
14:35	<b>4. 旅行プランを改良しよう</b> ◇配られた次の役割カードに書かれた内容を組み込み、旅行プランを改良し、付せんに記入する。 ※役割カードには国籍、性別、年齢、障がいなどに関するキーワードが書かれている。(b) ※役割カードの内容は見せてよい。 ◇改良した個所に付せんを貼る。 ◇成果物を回覧して共有する。 ◇ダイバーシティについて説明する。	(b)カードの内容は「19歳」「車いす」「ビーガン」「宗教上神社仏閣に入れない」「日本語話せない」など <ul style="list-style-type: none"> <li>・お～、そうかあ、などの声多数。</li> <li>・前向きに改善案を考えている様子。</li> <li>・ああ、いいアイデア、これいい、などのつぶやき。</li> <li>・黙って聞いている</li> </ul>	
14:50	<b>5. 多様性を尊重しない社会で起きることを考えてみよう</b> ◇多様性を拒む壁3つの説明を聞く。 ◇「多様性を尊重しないと」で派生図を作る。 ※発言して書く。※自分だけのラインを作らない。 ◇ギャラリー方式で共有する。 ※気づきを得た、自分たちのグループにはなかった視点だなと思う意見に☆をつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の壁 ・制度の壁 ・心の壁</li> <li>・活発に意見交換をしながら多くの意見を書き出した。</li> <li>・派生図は様々な色が混ざり話し合いが活発な様子。</li> <li>・多くの☆が付いていた。</li> <li>・これいいね、そうだよ、といった声多数。</li> </ul>	



<p>15:17</p>	<p><b>6. 多様性から多文化共生に向けて</b></p> <p>◇「多様な人たちと共に生きる社会、より良い関係を築いていくために必要なこと、役立つこと、大切なことは？」について個人で紙に書き出す。</p> <p>◇自分が一番大切にしていることを選んだ、各グループで発表する。</p> <p>◇各グループで出てきた意見を発表する。(c) ※じゃんけんして勝った人が発表する。</p>	<p>・各自、盛んにペンが動いていた。</p> <p>(c)</p> <p>・違いがあることが当たり前と考えることが大事</p> <p>・違う相手のことを知る世界のことを知る、という段階を経て、違いを楽しむことが大事。</p> <p>・他者に対して好奇心を持つことが大事。そのためには自分自身を認めていくことが大事。</p> <p>・～だからできない、ではなく～だったらできる、と提案していくことような言葉遣いが必要</p>
<p>15:35</p>	<p><b>7. 振り返り</b></p> <p>◇今日の感想、これからしていきたいことを考える。</p> <p>◇考えたことをグループ内で共有する。(d)</p>	<p>(d)</p> <p>・すごく楽しくて、そういう楽しいことが、のめりこむような題材が学びにつながるんだなと思った。</p> <p>・2つ目のカードをもらった瞬間に自分のことしか考えていなかったなと思った。</p> <p>・子どもの話を途中で区切る自分を反省した。</p>



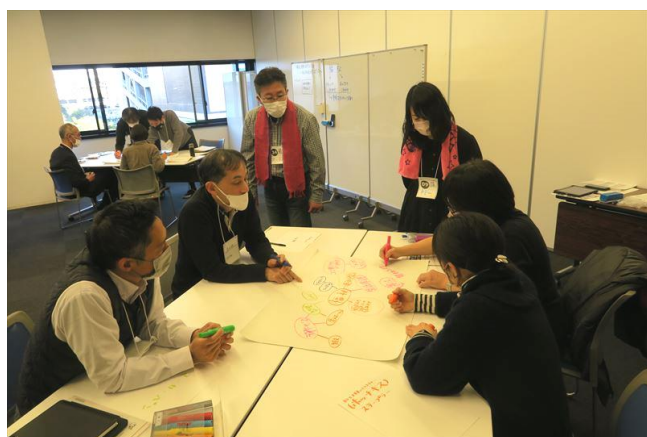
ワークショップの様子

## ●実践体験ワークショップの内容 [A2会場]

テーマ	福祉	タイトル	福祉活動は何のため ～私も社会のワンピース～
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉活動の意義を考える。</li> <li>・福祉活動を自分事として捉え、前向きに取り組む姿勢を育成する</li> </ul>		
参加者	合計 22 人(内訳:参加者 16 人、提供者 5 人、スタッフ1人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:50	<b>1. アイスブレイク</b> ◇誕生日順で輪を作り、番号でグループになった。 ◇自分を文房具に例えると何になるかで自己紹介をした ◇グループ内でこの人の自己紹介が一番面白かったと思う人を指さした。また全体で代表一人が発表した。(a)	・様々なジェスチャーで円になり、もりあがった。 (a)参加者からの意見「“ホチキス“ガチャガチャしている性格なので」「“マスキングテープ“貼ってはがせるから」「“テープ“人と人をつなげるから」	
14:04	<b>2. 自分の価値観に気づこう</b> ◇「福祉」と聞いて思い浮かぶものを模造紙にブレインストーミングで書き出す。(b) ◇他のグループの模造紙を見て周り、他のグループのアイデアの中から新しいアイデアを持ちかえる。 ◇ファシリテーター(以下、Fと略す)が、公助・共助・自助の中から共助に焦点を当てることを伝えた。	・活発に意見を交換しながら、多くの意見を書き出していた。 (b)参加者からの意見「みんな平等」「憲法」「バリアフリー」「それぞれ色々」など	
14:13	<b>3. フォトクイズ</b> ◇グループごとに、福祉に関する写真が「赤い羽根募金」「緑の募金」「ベルマーク」「書き損じはがき」の活動の中から何に関連する写真を考えた。 ◇答え合わせをして、上記の活動の「概要」「どんな人の役にたっているか」が記載されている資料を読んだ	・参加者から「全問正解」などと声があがり盛り上がった。	
14:25	<b>4. もしも福祉活動がなかったらどうなるか影響を考える</b> ◇福祉活動(共助)がなかったら、どうなるかを派生図で考えた。 ◇自分にも関係していると思う意見に☆を付けた。(c)	(c)「個人負担代」「福祉教育、人権教育がすずまない」「助けてと言えない」「助け合うことを学べない」などの意見に多く星が付いていた。	
14:35	<b>5. なぜ福祉活動が必要なのかを考える</b> ◇「お弁当ごっこ」(グループ内で一人にひとつ、内容の異なるお弁当が配られ食べる)を体験した。 ◇グループでやってみた感想を共有、全体で共有した。(d) ◇「なぜそのお弁当を食べたか」グループで話し合った。 ◇Fからお弁当箱はもし、世界が100人の村だったらをアレンジして、世界が4人だったらという想定で経済格差を表していることの説明。誰もが自分の意思とは無関係に困っている人になる可能性があることを伝えた。	・子どもになりきって「美味しいな」などの声が聞こえた。 (d)お弁当の品数が多かった参加者からの意見「申し訳ないという気持ちになった」、一番少なかった参加者の意見「うらやましかった。わびしかった」	



<p>14:48</p>	<p><b>6.困っている人のために何ができるか考える</b></p> <p>◇個人作業で「支援を必要としている人」「困っている人」を箇条書きで書き出した。</p> <p>◇グループで書いたものを共有した。(e)</p> <p>◇共有した「支援を必要としている人」の中から、これから支援する対象となる人を一人選んだ。(f)</p> <p>◇選んだ人が「どんなことで、どんな時にこまっているか」をなるべくたくさん箇条書きで書き出した。</p> <p>◇困っている人を助けるためにどんなことができるかを考え、模造紙に「個人」「学校」「地域」でできることをそれぞれまとめた。</p> <p>◇グループでまとめた模造紙を発表した。(g)</p>	<p>(e)参加者からの意見「高齢者」「足が不自由」「虐待を受けている」「祖国から逃げている」「ハラスメントを受けている」「災害で家を失っている」「寄り添ってくれる人、話を聞いてくれる人がいない」</p> <p>(f)「災害にあつて困っている人」「働けなくなった人」「介護をする人」「難民」を考えていくことになった。</p> <p>(g)「災害にあつた人」・・・ボランティア、防災教育、外国人向けの防災セミナー、避難所の周知／「介護する人」・・・話を聞く、体験学習、集まれる場をつくる／「肢体不自由」・・・お手伝い、福祉実践教室、誰もが使える環境整備／「外国にルーツをもつ人」・・・通訳、学校間の交流、イベントを開催する。</p>
<p>15:40</p>	<p><b>7.ふりかえり</b></p> <p>◇個人作業で「印象に残ったこと」「自分がしようとおもったこと」の2点をA4用紙に書き出した。</p> <p>◇グループで書いた内容を共有し、全体でも3名が発表した。(h)</p> <p>◇Fからタイトルのワンピースに込めた想いを伝えた。・・・誰もが福祉を担う人(ワンピース)になれる</p>	<p>(h)参加者からの意見「福祉が身近な分野であること」「福祉は他人事ではない」「誰にもでも関係あること」「困ったことがある人が声をあげやすい社会を考えていきたい」</p>

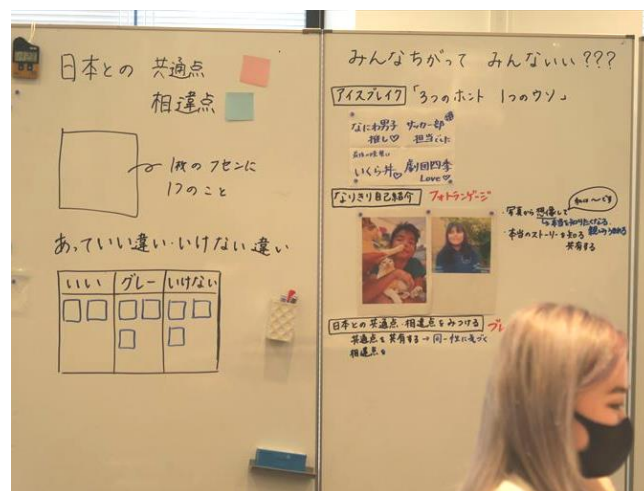


ワークショップの様子

## ●実践体験ワークショップの内容 [B会場]

テーマ	人権・貧困・国際理解	タイトル	みんなちがってみんないい？
ねらい	①日本とほかの国の共通点・相違点に気づく。 ②あってはいけない違いを解決するための方法を考える。 ③貧困について考え、自分にできることを見つけて行動につなげる。		
参加者	合計 28 人(内訳:参加者 21 人、提供者 5 人、スタッフ 2 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:50	<b>1. アイスブレイク</b> 3つのホント・1つのウソ ◇提供者が例文を披露し、4つの文の作り方を示した。 ◇自己紹介文4つをA4用紙に書き、一人ずつ自己紹介し、どの文がウソかを当て合った。	・「そうなんだ」「へえ～」と反応しながら聞き合っている。	
14:08	<b>2. なりきり自己紹介</b> ◇グループに5種類の写真を配付し、その写真の人になりきって自己紹介を考え、グループ内で発表した。 ◇担当国の資料を読み、グループのメンバーに伝えたいと思うところにアンダーラインを引きながら読んだ。 ◇資料の内容を伝え合い、グループ共有した。	・一人一人の発表の後には拍手をしていた。	
14:28	<b>3. 日本との共通点・相違点</b> ◇2の資料で取り上げた国々(フィリピン・ベトナム・ボリビア・ルアンダ・インドネシア)と日本について、共通点をピンク付せん、相違点を青付せんに書き出した(個人)。 ◇模造紙に内容を読みながら共通点(ピンク付箋)を貼って、グループで共有した。		
14:40	<b>4. あっていい違い・いけない違い</b> ◇模造紙を三分割(いい・グレー・いけない)し、相違点(青付せん)を仕分けして貼っていった。 ◇いけない違いはなぜだめかを話し合い、発表した。 ◇新しく配付されたカードについても仕分けをした。 ◇あってはいけない違いは、なぜあってはいけないのかをグループで考え、全体共有した。(a) ◇人権や貧困に関わることを押さえた。	・話し合いで意見が分かれた場合は、境界線にカードを貼っているグループもあった。 (a)参加者からの意見…楽しくない／自由がない／人権が守られていない／将来に関わることである／教育を受ける権利が保障されていない／人権が守られていない／ジェンダー差別がある／自分の力ではどうにもならない／選択肢がない	
15:03	5分間休憩		
15:08	<b>5. 貧困の輪を通して考える</b> ◇ユニセフの資料を配付し「貧困とは」をレクチャーし、貧困の定義を確認した。 ◇貧困の輪…「貧困」だとどうなるかを考え、グループで話し合いながら、7枚のカードを輪に並べていった。	・カードの順番が決まったら、模造紙に貼り、カードの流れを矢印で示した。	

	<p>◇貧困の輪の断ち切り方…どんな手立てや支援があると貧困の輪を断ち切ることができるかを考えた。</p> <p>例:「健康ではなくなる」を断ち切るには…病院を建てる／医師／JICAの支援など</p> <p>◇実際に支援活動をしている団体のカードをグループに配付し、貧困の輪のどこを断ち切るための活動なのかを考え、団体カードを模造紙に貼っていた。</p> <p>◇全体共有…ギャラリー方式で模造紙を共有する。新たな考えに☆をつけた。</p>	<p>・矢印のところに、あるといい支援や手立てを書いた。</p>
15:38	<p><b>6. 貧困問題に個人でアプローチする3箇条を考える</b></p> <p>◇A4 用紙に自分でできることを3つ書き、グループ共有した。</p>	
15:49	<p><b>7. ふりかえり</b></p> <p>◇感想を全体で共有した。(b)</p>	<p>(b)「みんなで学び合うのは楽しい。貴重な学びの場であった。」「今日はホームページからの情報を得て、午前中だけ参加しようと思っていたが、興味深かったので午後まで参加した。これからも学んでいきたい。」</p>



ワークショップの様子



## ●ふりかえりシートの回答 ※「ふりかえりシート」を一部整理して掲載した。

### 1. 発見したこと、嬉しかったこと

- 紙面以上に生で発表を聞くことで分かりやすかった。自分も実践をしたくなった。
- 志を同じくする人に会えたことが嬉しかった。
- 受容された喜び、楽しさ、それができるファシリテーターになりたいと思った。
- 国際理解教育に対する熱い思いをもった方々との交流ができたこと。
- 国際理解教育を実践し続けてきて、改めて全ての課題は「一周回って“自分”を見つめること」だと思った。
- 発散と収束、ふり返りの大切さ。
- 発表からアイデアをもらった。次に実践してみたいプログラムを発見できた。
- 貧困や環境について、子どもたちの気づきや行動を生み出すための様々な実践を知ることができた。
- 実践の中で、子どもたちの気づきを行動につなげるための支援の仕方。
- もっと肩の力を抜いて、授業にどんどん SDGs を取り入れていいということ。
- 午後のワークショップで、多様な人々を満足させる旅行プランの作成が楽しかった。実際の現場でも、ダイバーシティに配慮されているだろうことに思いがとんだ。
- 色々な切り口やテーマで、国際理解教育ってできるんだな。その時の子どもや状況の実態に合わせて組み立てられるんだな。
- 開発教育についての新しい視点と展開を知るとともに、実践できそうな内容だった。
- 若い先生方の参加が多く、ファシリテーション型教育の未来はとても明るい。
- フォーラムも研修も複数回参加しているが、何年経って歳をとっても、新しい学びや気づきに出逢える。
- 現地の人や支援している人の協力で、授業を行っている人が多かった。取り組みたい気持ちになった。
- 午後のワークショップで、貧困の輪とそれを断ち切る方法について考えた。ほかのグループの模造紙を見て、様々な方法があることを改めて知った。
- 対話を通して、心が通じ合う経験ができた、味わえたこと。
- いろいろな人と話すことで新しい考えをもつことができた。
- SDGs につながる学習、国際理解につながる学習を受けることができた。特に、ごみや食料からつながるテーマが多く、どの学年でも取り組めると発見できた！
- 今年度、教材研究に悩んでいたため、様々な実践例を見ることができてとても勉強になった。
- 自分の発表について、様々な意見がもらえて、また明日からやりたいと思えることが増えた！
- 福祉のワークショップがとっても良かったです！今まで国際理解のワークショップをメインにやっていたので、新しい見方ができました。
- 久しぶりに対面のフォーラムに参加できて最高でした！みんなに会えるっていいですね！
- 午前の発表の中で「生徒が自分事として考えられる」というフレーズが心に残りました。
- 参加型の手法、知っているものでも「こんなやり方もあったのか！」と学びました。
- プログラムの作り方も、人それぞれでその視点がおもしろい！そのふりかえりすばらしい！と学びが多かった。同じテーマやプログラムでも感じ方が毎回違うことも実感した。
- 「実践すてき！」「やってみます！」と言われ、誰かの力になれたこと。
- 社会は多様性にあふれた人たちで成り立っている！
- 午後のワークショップ提供者として、参加者が笑顔で取り組んでいたこと。

## 2. これから行動しようと思ったこと

- 教科学習の中に開発教育の視点を入れたアクティビティを取り入れて、子どもの「知りたい!」を引き出したい。
- 興味をもった社会問題、課題を知る、広める、解決のための行動。
- 実践をブラッシュアップしたり、広めたりしたいと思った。
- 地域、企業、NPO 等の実践者の方々と生徒(学校)との架け橋になる。
- ワークショップをしながら、国際理解教育をすると面白い!を、学校のみならず共有したい、楽しみたい。
- 行動変容につながる、行動が継続するようなプログラム作り。
- 発表者のすてきな実践から知った資料やアクティビティを自分の実践に活用したい。
- 情報をアップデートして、勉強、実践を続ける。
- 今後の教育活動で実践し、当たり前裏側を考えられる子どもたちを育成していきたい。
- 来年も何らかの形で国際理解教育の実践をし、今度こそは周りの先生と保護者に広めたい!
- 日々の授業でも参加型をもっともっと取り入れたい、と常に考え続けることにする。
- 発表のあったもののいくつかを実際に授業で扱ってみたい。また、多くの先生とも共有していきたい。
- 人とかかわりをつなげていき、仲間と共に行動したい。
- 授業の中で参加型を実践するのはもちろんだが、授業にリアルを持ち込めるように努力したい。
- 貧困に苦しむ人々のために、知ったり伝えたりするなど、自分のできることを行っていきたい。
- 自校は総合的な学習の時間の位置づけが弱いので、柱になることを取り組めるようにしたい。
- おもいきって数時間使い、教科書を離れた授業をしてみたい。
- ニュース等を聞いても、その背景には何があるのかを考えたり、広い視野で物事を捉えられるよう行動したい。
- 学校は「つながりをつくれる場」だと思うので、つながりをつくっていける取り組みを実践したいと思った。
- 改めて、視野を広げていきたいと思った。久しぶりにワークショップに参加して、多様な考え方にふれて、「もっと聞きたいな」「どんな考え方があるのだろう」と名残惜しい気持ちになりました。
- 実際に自分がワークショップに参加したことで、派生図の意見を出すことが難しかったりと体験できたので、自分が提供者になるときは参加者が積極的に取り組めるワークショップ作りをしたいと思った。
- 「自分ごととして考える」が今日 1 日のキーワードになった。自分だったらどうするかを考えることや子どもたちに伝えることを行動としていきたい。
- 楽しく、そしてまじめに、よりよい社会をめざしていく仲間を増やしたいと思いました。
- 社会課題と学校の教科をつなげた授業づくり。

## 3. その他(より良くするための提案など)

- 現場の教員に伝わるような広報。
- 聞けなかった発表の資料(報告シート以外の展示物等)も見られると嬉しいです。
- 参加者限定公開にして、全員の発表ポスターが見られるようなサイトがあるとよい。
- 過年度受講者との「つながりワークショップ」を企画してください!
- 申込みがQRコードからオンライン上で行えると、もう少し多くの方に来ていただけたらいいなと思いました。
- 来年度、岐阜県は県立学校に研修主事が新設されます。案内はそちら宛に。
- 発表を2回にして、発表者はその後20~30分ポスターの前において、インタビューに答える形にするというもの。
- 今後のつながりのために、参加者の名簿が共有されるといいな。
- 取り組みの実践報告シートを事前に公開していただけると、限られた時間にもう少しスムーズに回れると思った。



# IX 研修全体のふりかえり・評価

※修了した受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。全員が回答。

## ■ 研修への期待と満足度について

受講者の開発教育指導者研修（実践編）（以下、「指導者研修」という）に対する期待や目的は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」（82%）、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」（79%）、「実践者同士で交流し、ネットワークを作る」（61%）、が上位3つとなっている【設問1】。

それらの期待や目標を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」（82%）、「満足できた」（9%）と回答しており、満足度の高い研修であったといえる【設問2】。

設問1；指導者研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	27	82%
2	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	26	79%
3	実践者同士で交流し、ネットワークを作る	20	61%
4	自らの視野や能力を研鑽する	18	55%
5	世界の現状や日本とのつながりを知る	14	42%
	全体	33	100%

設問2；指導者研修は、あなたの期待（あるいは目標達成の支援）を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	27	82%
2	満足できた	3	9%
3	ある程度満足できた	3	9%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体	33	100%

## ■ 研修を受けた自分自身の意識の変化について

### ● 受講者の関心の高まり

受講者の大半が、受講後「より関心が高まった」（86%）、「関心が高まった」（9%）と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問3】。

設問3；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	30	86%
2	受講前はあまり関心なかったが、受講後関心が高まった	3	9%
3	受講前から関心があり、受講後も変わらない	2	5%
4	受講前はあまり関心なかったし、受講後も変わらない	0	0%
	全体	35	100%

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての意識化」をしたり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よく意識するようになった」と「意識するようになった」を合わせて89%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて91%となっており、本研修は受講者自身の学びや行動に繋がったといえる【設問4,5】。

設問4；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりを意識するようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく意識するようになった	20	58%
2	意識するようになった	11	31%
3	ある程度意識するようになった	4	11%
4	あまり意識するようにならなかった +意識するようにならなかった	0	0%
	全体	35	100%

設問5；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	20	59%
2	考えるようになった	11	32%
3	ある程度は考えるようになった	3	9%
4	あまり考えるようにならなかった+ 考えるようにならなかった	0	0%
	全体	34	100%

## ■ 開発教育・国際理解教育の実践について

### ● 実践時間

受講者の当該教育の実践時間は、「5～9 時間」が 31%と最も多く、次いで、「2.5～4 時間」が 28%、「1～2 時間」が 25%、「10 時間以上」も 17%となっている。平均では 6.3 時間と比較的多くの時間取り組んでいるといえる【設問 6】。

本研修受講前との機会や時間の増減では、「増加した」が 69%であり、受講者の多くが受講前よりも多い実践を行っている【設問 7】。増加した主な理由としては、本研修の学びや契機が要因になっていることがわかる【設問 8】。一方、実践時間が変わらない理由は「今までも行っていた」「自分の担当学年がなく、授業も少ないため、各学年にお願いして時間をもらったため、多くはできなかった。」などであった。

設問 6；開発教育・国際理解教育の実践時間

No.	選択肢	回答者数	割合
1	1～2時間	9	25%
2	2.5～4時間	10	28%
3	5～9時間	11	31%
4	10時間以上	6	17%
	合計実践時間数	225.5	時間
	1人当たり平均実践時間	6.3	時間/人

設問 7；本研修受講前と比べた実践時間の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	増えた	24	69%
2	変わらない	11	31%
3	減った	0	0%
	全体	35	100%

←各受講者の実践報告シートに基づく。

設問 8；実践時間の変化の理由は何ですか。（主な内容）

- ◇研修を通して、参加型の学習をすべきだと感じられたから。 ◇意識が変わったから。
- ◇参加型のアクティビティの手法を学び、やってみたいと思えるようになったから。
- ◇自分自身がさまざまな問題について知り、考えることが増えたため、授業でも自然と扱える内容が増えた。
- ◇教科や領域と合わせて実践できるように、私自身になってきたことによる。
- ◇学年全体に向けた授業を計画したり、他の職員も巻き込めるようになったから。
- ◇昨年までは実践を行ったことがなかったから。 ◇研修でその大切さを実感したから。
- ◇5年生担任となり子どものできる活動の幅が広がったから。 ◇教育現場から機会をえたから。

## ● 実践内容

開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」54%、「深まった」29%、合わせて83%の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問9】。

深まった具体的内容としては、開発教育・国際理解教育の教材や参加型の手法との出会いや考え方の理解、実践力の向上などが深まった要因としてあげられている【設問10】。

設問9；開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	19	54%
2	深まった	10	29%
3	ある程度深まった	5	14%
4	あまり深まらなかった	1	3%
5	深まらなかった	0	0%
	全体	35	100%

設問10；どのようなことが深まりましたか。

（「とても深まった」と回答した意見（指導者研修のみの受講者））

◇児童の反応から、国際理解の授業実践では「人への興味」が大切なのだと思う。

（遠くの誰かを身近に思い、つながりたいと思うことが国際理解への重要な一歩になる。）

◇ねらいを意識し、参加型手法を取り入れた授業を行うことで、子どもの学びが深まった。

◇人権という1つのテーマに対して、様々なアプローチを考えることができた。

◇他の人の実践を知り、とても参考になった。

◇ひとりひとりが考えるのはもちろんだが、互いに歩み寄ることの重要性に改めて気づかされた。

◇ただ考えるのではなく体験することから始められるようになった。生徒の内容への向き合い方が深くなった。

◇生徒自身がより自分ごとと捉えられるようなアプローチを工夫した。

（「深まった」と回答した意見（指導者研修のみの受講者））

◇派生図やゲームなどを通して、さまざまな問題が自分にも関係することが実感出来たことで、他人事ではない自分事として捉えられるようになった。

◇手法を色々学んだことで、多くの工夫ができるようになった。しかしさらに深められる余地もあると思う。

◇参加型で物事を考える機会が持てるようになった。

◇SDGsと関連した実践を行うことで深まることができた。

◇生徒たちが仲間と考えることで、自分たちで気づきを得られるようになった。

◇参加型の手法を取り入れて、より身近な問題として考えることができるように、授業の仕組みをつくらうとすることができた。

## ● 参加型のスキル

指導者研修は、行動変容を支え関係性を育む「参加型」と参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割を理解し、自ら習熟することをねらいに定めて実施した。これらのねらいに対し、受講者がどの程度理解し習熟したかを2つの指標で評価した結果は以下のとおりである。

1つ目の指標「気づきから行動へつながるプログラムの作成」については、「とても作れるようになった」20%、「作れるようになった」40%、「ある程度作れるようになった」37%であり、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問11】。

2つ目の指標「学習者主体の手法の活用」については、「とても使えるようになった」31%、「使えるようになった」49%、「ある程度作れるようになった」17%であり、プログラムの作成スキルよりも多くの受講者が学習者主体の手法の活用力が向上したといえる【設問12】。

設問 11；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつながるプログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	7	20%
2	作れるようになった	14	40%
3	ある程度作れるようになった	13	37%
4	あまり作れるようにはならなかった	1	3%
5	作れるようにならなかった	0	0%
	全体	35	100%

設問 12；研修や実践を通じて、学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや参加型の手法を使えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても使えるようになった	11	31%
2	使えるようになった	17	49%
3	ある程度使えるようになった	6	17%
4	あまり使えるようにはならなかった	0	0%
5	使えるようにならなかった	0	0%
	全体	35	100%

プログラム作成や参加型手法の活用については、「ある程度」作れる、使えるようになったという回答が一定数あり、「あまり作れるようにならなかった」という回答もあることから、より作れるようになる、より使えるようになるために、研修で提供したらよい内容を聞いた結果が以下のとおりである【設問 13】。

設問 13；より作れるようになる、より使えるようになるために、研修でどのようなことを提供したらよいと思いますか。

**(研修の中で実践＝ファシリテーションする時間)**

- ◇本研修において受講者は基本的に教えていただく側だが、実際は教員として実践者側になるので、参加型プログラムを研修の場で実践する時間もあればよかった。
- ◇自分がファシリテーターになる練習をする。

**(個人で参加型プログラムを作り、アドバイスをもらう時間)**

- ◇時間的に厳しいかもしれないが、グループでなく個人で参加型プログラムを作成し、模擬授業のような形で受講者と共有し、意見交換がしてみたかった。
- ◇参加型プログラムの作り方の細かい流れをさらに詳しく教えていただきたい。
- ◇実際に一人一人のプログラムに助言やアドバイスをもらい、「ねらい」に対してもっとこうしたらいいよとか聞いてみたい。
- ◇実際に作ってみて、それを互いに評価し合うとよいかも。

**(具体的な資料、実践例の紹介)**

- ◇生徒に提供する文章資料や実践例の探し方を知れるとありがたい。

**(その他)**

- ◇参加型の手法を取り入れたワークショップ、大切にしていくと良い視点の提供
- ◇研修が参加型で進み体験できることが、参加型を理解する 1 番の近道だと思う。
- ◇研修受講者が楽しいと思えるようなプログラム



## ■ 学習者の変化や周りへの波及効果について

### ● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」「ある程度変化があった」と合わせて受講者の100%が学習者のより良い変化を実感することができる【設問14】。

より良い変化の中身については、「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」60%、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」57%、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」57%が約半数以上の回答率となっており、開発教育・国際理解教育の本筋のねらいの達成が実感されている。

また、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」49%、「自らの生き方や共生について考えるようになった」34%、「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」20%といった参加型学習の導入に伴う副次的な変化の実感があつた受講者も一定以上いた。

これらのことから、受講者の実践により、「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に関し、学習者のより良い変化が現れているといえる【設問15】。

設問14；開発教育・国際理解教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	13	37%
2	変化があった	14	40%
3	ある程度は変化があった	8	23%
4	あまり変化はなかった+変化はなかった	0	0%
	全体	35	100%

設問15；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	21	60%
2	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	20	57%
3	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	20	57%
4	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	17	49%
5	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった	16	46%
6	自らの生き方や共生について考えるようになった	12	34%
7	自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	11	31%
8	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	7	20%
9	その他(授業を楽しみしてくれるようになった、実行可能なものを計画的に行うようになった)	1	3%
	全体	35	100%

### ● 学校や団体内の他の職員への波及

所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は100%であり、その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が74%と一番多く、次いで「共同で教材を作成する際に伝えた」34%、「フォーラムに同僚を誘ったなど」11%、「研究発表（公開授業など）で伝えた」31%、などとなっている【設問16】。

周りへの波及の環境として、実践活動への所属する学校や団体の上司や同僚の理解については、「以前からある程度理解してくれており、今回より理解が進んだ」20%、「以前はあまり理解してくれていなかったが、今回理解がある程度進んだ」9%と、今回の研修を契機に理解が進んだケースが29%あった【設問17】。

設問16；所属している学校や団体内において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日常のやりとりの中で伝えた	26	74%
2	共同で教材を作成する際に伝えた	12	34%
3	フォーラムに同僚を誘ったなど	12	34%
4	研究発表（授業公開など）で伝えた	11	31%
5	校内・団体内での報告会・研修会で伝えた	9	26%
6	どこにも伝えていない	0	0%
	全体	35	100%

設問17；所属する学校や団体の上司や同僚は、あなたが行う開発教育・国際理解教育や参加型の実践活動を理解してくれていますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	以前から十分に理解してくれている	10	29%
2	以前からある程度理解してくれており、今回より理解が進んだ	7	20%
3	以前からある程度は理解しているが、現状維持であった	11	31%
4	以前はあまり理解してくれていなかったが、今回理解がある程度進んだ	3	9%
5	以前からあまり理解してくれていないし、今回もそれは変わらなかった	4	11%
	全体	35	100%

### ● 直接提供事業と比較した本研修による学習者への還元効果

開発教育支援の一つとして行っている「JICAが直接学習者に対して教授する国際協力出前講座、JICA施設訪問プログラム等（直接提供事業）」に対し、本研修は、養成された開発教育を進める中核的な指導者が研修で得た知識や能力を生かして、自らの現場で多くの学習者に対して継続的に還元することが期待されている。

研修受講者の実践実績から、直接提供事業の場合と比較した本研修による還元効果を計算すると、コロナ禍で対話活動が制限されがちなか中において約17.5倍となった。また、研修受講者は、研修で得た知識や能力、自らの実践などを他の指導者に伝達しており、継続年数による効果と合わせて、さらなる還元効果も見込むことができるといえる。

- ◇研修受講者による延べ還元量＝20,754人・時間／年（受講者36人分の学習者数×実践時間）  
 ◇研修投入量＝研修受講者数36人×研修時間数33時間（第1回～第4回）＝1,188人・時間／年  
 ◇還元効果（倍）＝20,754人・時間／年÷1,188人・時間／年＝**17.5倍**

### ● 開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及

1年間の研修や実践を通じた開発教育・国際理解教育ネットワークは、94%受講者ができたとしている。具体的内容は、「受講者同士」83%、「学校や団体内」34%、「学校・団体外」14%となっている【設問 18】。

設問 18；1年間の研修を通じて、開発教育・国際理解教育のネットワークができましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講者同士でできた	29	83%
2	学校や団体内でできた	12	34%
3	学校・団体の外にできた(フィールドワーク先など)	5	14%
4	できなかった	2	6%
	全体	35	100%

## ■ 全体を通じた評価点、より良くするための提案

### ● 開発教育指導者研修(実践編)の評価点、より良くするための提案

(良かった＝引き続き提供を希望する内容)

- ◇対面で行えてよかった。とても密度の濃い参加授業の手法や開発教育の理解する学びの機会になった。
- ◇ファシリテーターとしての授業の回し方を知ることができ、様々なアクティビティの引き出しが増えた。
- ◇いろんな職種の方や校種の方と交流できてよかった。
- ◇参加型の手法を実際に体験できるところが本当に素晴らしい。受講者同士のふりかえりで言語化することで、学びが深まると感じた。
- ◇毎年、違うアクティビティや内容で、学びが多い研修。今年はオーソドックスなアクティビティを体験でき、以前やったことがあるものでも、感じ方や考えが違うことを実感できた。
- ◇参加型手法を体験しながら学べたところがとても勉強になった。
- ◇昨年度の実践編も参加したが、研修の内容が異なり、新たな学びを得ることができた。
- ◇受講者同士での交流活動がたくさんあり、回を重ね話せる人も多くなり、仲間づくりに大変有効であった。
- ◇実際に第3回で参加型プログラムを作り、参加者のみなさんからアドバイスをいただいたのがよかった。
- ◇生徒と同じように体験させてもらえたこと。実体験しながら手法を学べるので、実践に繋げやすかった。
- ◇どれもよかった。 ◇やっぱり対面での研修は良かった。 ◇手法を知れた。
- ◇現在の研修ファシリテーターによるファシリを永遠に！

(より良くするための提案や希望)

- ◇終始分刻みな忙しさがあつた。アップテンポと落ち着ける場と両方あるとより関係性を築けた気がする。
- ◇研修で使ったゲームや資料は、シェアできるものはどんどんシェアしてもらえたら実践しやすい(データで)。
- ◇紙とペンを使う方法以外にも、タブレットを使用した方法も今後知りたい。
- ◇第3回から4回にかけて期間が空いてしまうことが少し寂しくもありました。
- ◇2学期にもう一度くらい情報交換の会があると安心
- ◇受講者相互の交流のためには、やはり飲み会が有効かもしれない。研修の中では、互いにあまり話ができないので。コロナが憎い。
- ◇参加者が教員に特化せず、人権、環境の現場を知っている人の受講者もいたら、教員の人はもっとリアルな現場をしれて、反対に、人権や環境の現場の人も教員から子どもたちの環境、教育の大切さに気づけて面白い化学反応が生まれたかもしれないと思った。まさに SDGs 行動に向けた関係性も築けるかもしれないと思いつきました。教員の先生たちのネットワークにもなるかもしれません。

### ● 開発教育指導者研修(実践編)第4回研修の評価点、より良くするための提案

#### (良かった＝引き続き提供を希望する内容)

- ◇参加型の手法を多く知れたことは大きな学びだった。今後の授業ですぐ実践に移せるものも多く、今年度もいくつか試す事ができた。自分自身の教え方の幅が広がり、うれしく思っている。
- ◇第4回で実践の共有ができたので、2日間でより多くの方の実践を知ることができてよかった。
- ◇事後研修のおかげで一年を通しての良い振り返り、まとめが出来ました。
- ◇成績処理と重なっており、大変でしたが「やり切った!!」という充実感がありました。
- ◇発表者の私達も、前日・当日で複数の実践を直接知ることができて良かった。

#### (より良くするための提案や希望)

- ◇準備の時間にもう少し余裕が欲しかったのと、午前中に成果物の貼り付けなどの準備した上で、受講者同士で発表出来たら、より分かりやすく聞けるし練習にもなって良かった。
- ◇前日の受講者での共有も、先に発表準備をして、当日と同じように共有するのはどうだろうか。
- ◇フォーラムに向けての準備という内容については良かったが、その他の内容をもう少し絞れるとコンパクトに収まったと思う。

### ● 実践報告フォーラムのポスターセッションの評価点、より良くするための提案

#### (良かった＝引き続き提供を希望する内容)

- ◇受講者たちの様々な取り組みを知ることができ、とても刺激になった。また、自分の授業の中で取り入れてみたい手法も多くあったので、とてもためになった。
- ◇実践報告フォーラムの3ラウンド9人の発表者の内容を聞いたのは良かったと思う。
- ◇実践報告フォーラムでは、参加者の実践がたくさん聞いてよかった。前日の研修でも何人かの実践が聞いたので、お徳感があったし、自分も発表の練習ができた。
- ◇多くの実践について話を聞くことができてよかった。とても深い学びになった。
- ◇参加者の方たちが興味深く実践の話聞いていただけたので、とても発表しやすかった。

#### (より良くするための提案や希望)

- ◇午後実際にプログラムを体験する前に、どんなプログラムかが、題名だけでなく流れが知れると、どのプログラムに参加するかが選びやすくなると思いました。
- ◇午前の発表3部だけでは全員の実践を聞くことができないので、何かしら聞くことができなかった実践者の取り組み、特に掲示物が拝見出来たらいいなと思う。
- ◇発表を9人聞くのは大変であった。6人きいて、残り時間発表者は模造紙前で待機して、適宜質問に答えてはどうかと感じた。
- ◇実践報告が1人3回だったが、2回でも良かった。聞く方も発表する方も大変だと感じた。
- ◇話を聞くのは6人くらいがちょうどいいかと個人的には感じた。
- ◇フォーラムの際、実践を聞いてくださった方と会話をする場がもう少しほしかったので、時間にもう少し余裕があるとよかった。
- ◇全員の話聞くのは難しいかもしれませんが、ポスターを見る時間があつたらうれしい。
- ◇教師国内研修メンバーの発表ターンが多く重なっていて、聞くことができなかったのは少し残念だった。

### ● 実践報告フォーラムのワークショップ・教師国内研修報告などの評価点、より良くするための提案

(良かった＝引き続き提供を希望する内容)

- ◇有志ワークショップが、とても楽しく勉強になった。研修受講者以外の方々（参加者の方々）にも、ぜひ受講してもらいたいと思った。
- ◇教師国内研修の発表を簡略化して、寂しくなるかなと思いましたが、3名の代表者がすばらしい発表でよかったし、ワークショップに国内研修を生かすことができたので、よかった。

(より良くするための提案や希望)

- ◇フォーラムの教師国内研修報告会の時に、写真で活動の様子を見せられるとよいかもしいないと思った。
- ◇来年は海外研修なので、以前のような発表を聞きたい気もする。
- ◇終わったあとに、振り返りの質問会のような集まりがあると、いろいろと聞いて自分の実践につなげることができると思う。(以前は、打ち上げがその役割だったのでしょね。)
- ◇フォーラムで終わりではなく、もうひと講座増やして、例えばフォーラムの際にQRなどを使い参加者の方の質問を集約して、それに対してどう向き合うのかを考える時間があると面白い。

### ● その他の自由意見・感想

- ◇1年間を通して、教えるとはどういうことかを具体的に学ぶことができた。これからは、生徒に頭を使わせて、疲れさせるような授業を多く展開していきたいと思う。
- ◇土日両方など、割とみっちりの研修なのに、次の日疲れていない、むしろパワーもらえてるのが、本当に凄い研修だと思った。参加出来て本当に良かったと思うし、周りの同僚達にも勧めたいという気持ちである。学んだ事を、学校に、そして生徒達に還元出来るよう、実践を続けていく。
- ◇全体を通じてとても楽しく学んだ。今後の課題として、ひとりでなく周囲を巻き込みながら実践を続けていきたいと思う。
- ◇参加型の授業づくりが楽しいということに気づいた。また、世の中の課題に意識を向けられるようになった。
- ◇仲間がいるって素晴らしい。ワークショップにも手を挙げてしまって生みの苦しみを味わったが、いろいろとアドバイスをいただき何とか形にすることができた。フォーラムを終え、充実感でいっぱい。職場でこの研修を勧める。
- ◇以前から世界のことに興味はありましたが、研修を通してより興味が深くなり、もっと知りたい勉強したいという気持ちを持つようになった。
- ◇研修を受けたことによって普段の生活でも環境や外国との関係を意識することが増え、生徒にも同じような変化が与えられたらと思う。
- ◇一緒に研修に参加された先生方の意識の高さや、フットワークの軽さにも刺激を受けた。とてもいい機会になった。
- ◇今回勉強したことはとても多く、まだ消化しきれていないほど。今後勉強し続けて、実践し続けていくことが大切だと思っている。
- ◇とても深い学びができ、力量向上につながったと思う。この学びを生かして来年も学校で、実践していきたいと思う。
- ◇たくさん勉強になり、参加できてよかった。本校では残念ながら選考にもれてしまった教員がいたが、研修の次の日に学んだことを伝えることで自身の学びも深まった。



- ◇この繋がりを大切に、引き続き学び、子どもたちに伝えていきたい。
- ◇自分の発言がステレオタイプになる可能性の怖さも改めて感じた。日々学ぶことが大切だと思う。
- ◇本校では校則の見直しを行なっているが、参加型で学校の校則について考えてみるのも面白いなと思った。
- ◇様々な研修や皆さんの発表から刺激を受けた。これからも学びを止めずに、今日的な課題と向き合っていく。
- ◇何度、受講しても新たな学びがあり、気づかされることがたくさんある。実践をする中で、「こんな実践をしたい」「もっとこうしたい」など、新たな課題が見つかったので、今後も国際理解教育を続けていきたいと思う。
- ◇自分で体験しながら参加型プログラムのよさや効果を学ぶことができ、ファシリテーターとしてどのように授業を仕組んでいくかの具体的な手法をたくさん得ることができた。
- ◇これまでESDやSDGsに関わる教育を行ってきたつもりだったが、正直なところ、開発教育に関しては目を背けがちで、深められずにいた。同じ地球に生きていて、生まれた場所が違っただけでこんなにも生活や将来の可能性に違いが生まれることに問題意識を持っていた。何も悪いことをしていないのに苦しむ人々のために何かしたい、でも、所詮恵まれた地域で毎日過ごす私に、自分のQOLを保って生きたいと思う私に、一体何ができるのかと悩んでいた。無力感を感じているふりをして、どこか自分とは遠い世界の話だと思っていたのかもしれない。でも、今回の研修を通して、今の自分の立場である教師として、できることをたくさん見つけることができた。現地での支援ができなくても、その国を、そこに生きる人々を想い、同じ地球に生きる仲間として行動していきたい。そして、教師として、一人の人間として、誰かのために思いを馳せ、行動できる仲間を増やしていきたい。



2022年度 開発教育指導者研修（実践編） 報告書

発行 2023年3月

発行者 独立行政法人国際協力機構 中部センター（JICA 中部）

〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7

Tel : 052-533-0220（代表） Fax : 052-564-3751

<http://www.jica.go.jp/chubu/>

---